

ザ・フクオカ 第5号

2023年度 FIUHW 自己点検・評価資料



福岡国際医療福祉大学

目 次

1. 大学の建学の精神、教育理念と概要	1
1.1 建学の精神	1
1.2 大学の基本理念	1
1.3 5つの教育目標	1
1.4 所在地	1
1.5 沿革	1
1.6 組織図	1
1.7 各学科の入学定員	2
1.8 入試状況・在籍状況	2
1.9 学年暦	5
2. 各職種の現状	6
2.1 理学療法士	6
2.2 作業療法士	8
2.5 言語聴覚士	9
2.3 視能訓練士	10
2.4 看護師	12
3. 教育内容	13
3.1 大学のポリシー	13
3.2 カリキュラムの内容	16
4. 大学生活	17
4.1 学生生活	17
4.2 表彰	17
4.3 クラブ及びサークル	18
4.4 国家試験状況・就職状況	19
5. 委員会及び研究	20
5.1 委員会組織と委員	20
5.2 Good Teaching 賞	23
5.3 FD・SD 研修	23
5.4 研究費受給	24
6. 国際関係	26
6.1 留学生・研修生	26
6.2 国際学術活動	26
6.3 他の国際活動	26
6.4 海外保健福祉事情	27
6.5 海外学術交流協定機関一覧	28
7. 地域貢献	29
7.1 地域公開講座	29
7.2 ボランティア	29
8. 教員と業績	30
8.1 学長・副学長	30
8.2 医療学部 理学療法学科	32
8.3 医療学部 作業療法学科	40
8.4 医療学部 言語聴覚学科（専攻科含む）	46
8.5 医療学部 視能訓練学科	51
8.6 看護学部 看護学科科科	60
9. 大学・関連施設	74

1. 大学の建学の精神、教育理念と概要

1. 1 建学の精神

生命の尊厳、生命の平等

1. 2 大学の基本理念

福岡国際医療福祉大学は、「生命の尊厳、生命の平等」を建学の精神とし、病める人も、障害を持つ人も、健全な人も、互いを認め合って暮らせる「共に生きる社会」の実現をめざす。

1. 3 5つの教育目標

チームワーク：「チーム医療」「チームケア」に貢献できる専門性の高い人材を養成する。

専門性：保健、医療、福祉分野の高度化・専門化に対応できるとともに、それぞれの分野で指導となり得る人材を養成する。

国際性：国内はもとより国際社会でも活躍できる、総合的な臨床能力を持った人材を養成する。

人格形成：知識や技術に偏向しない、バランスのとれた豊かな人間性とコミュニケーション能力を持った人材を養成する。

実践力：時代のニーズに適合し、地域医療にも貢献できる、実践力のある人材を養成する。

1. 4 所在地

本館【医療学部】 〒814-0001 福岡県福岡市早良区百道浜 3-6-40
TEL：092-832-1200（代表） FAX：092-832-1167
1号館【看護学部】 〒814-0001 福岡県福岡市早良区百道浜 1-7-4
2号館【看護学部】 〒814-0001 福岡県福岡市早良区百道浜 2-4-16

1. 5 沿革

1990年4月1日 学校法人高木学園設立
2001年4月1日 福岡国際医療福祉学院 開校 2020年3月 閉校
2018年8月31日 文部科学省 設置認可
2019年4月1日 医療学部（理学療法学科、作業療法学科、視能訓練学科）、言語聴覚専攻科 開学
2021年4月1日 移管：国際医療福祉大学（福岡看護学部）より福岡国際医療福祉大学（看護学部）へ
2022年4月1日 言語聴覚学科設置
2024年3月 言語聴覚専攻科閉校
2024年4月1日 診療放射線学科設置

1. 6 組織図

福岡国際医療福祉大学

医療学部 理学療法学科（PT）
作業療法学科（OT）
言語聴覚学科（ST） 2022年4月より
視能訓練学科（CO）
診療放射線学科（RT） 2024年4月より
看護学部 看護学科（NS）（2021年4月 国際医療福祉大学より移管）
言語聴覚専攻科（ST） 2年生のみ 2024年3月迄

1. 7 各学科の入学定員

福岡国際医療福祉大学は、2019年4月に医療学部の1学部3学科（理学療法学科、作業療法学科、視能訓練学科）と1専攻科（言語聴覚専攻科）で開学した。定員は各学科40名、専攻科は40名であった。2021年に看護学部が国際医療福祉大学福岡看護学部より移管され、定員が100名である。2022年に言語聴覚学科が開設した（表1-1）。2024年3月に言語聴覚学科は閉校、2024年4月より診療縫線学科（60名）が設置された。

表1-1 入学定員と合計数

学部	学科・専攻	1学年定員	合計数	開設年	年限	備考
医療学部	理学療法学科	40	160	2019年	4年制	
	作業療法学科	40	160	2019年	4年制	
	視能訓練学科	40	160	2019年	4年制	
	言語聴覚学科	40	160	2023年	4年制	2023年設置
看護学部	看護学科	100	400	2021年	4年制	2021年移管
専攻科	言語聴覚専攻科	-	40	2019年	2年制	2023年閉校（2年生のみ）

1. 8 入試状況・在籍状況

本学は、日々進化する保健・医療・福祉の分野において、それぞれの需要に対応できる医療専門職を養成し、病める人も、障害を持つ人も、健常な人も、互いを認め合って暮らせる「共に生きる社会」の実現をめざし、それを基本理念としている。そのため本学では、豊富なグループ関連施設などと連携し、入学初期より実習を行うことで、「チーム医療・チームケア」の考え方やスキルを身につけ、また、海外研修を必修とすることで、国際的な視野や多言語によるコミュニケーション能力を育むカリキュラム変更を導入している。それにより、国際的に活躍できる医療専門職を養成し、また、それぞれの分野において指導者となり得る人材を養成することで、「共に生きる社会」の実現に尽くすものである。

- 1) 保健・医療・福祉の分野で活躍したいという目的意識が明確であり、何事にも自主的に取り組むことができる者
- 2) 基本的倫理観を持つ者
- 3) 各専門知識を学び応用するために必要な基礎学力を有している者
- 4) 海外の保健・医療・福祉に興味を持つ者

2024年度入試は、総合型入試、高校推薦入試（公募制・指定校制）・一般前期試験・一般後期試験を実施した。2020年度入試はA0入試、大学センター入試を導入した。一般前期試験は本学のみでなく、地方会場として山口・大分・長崎・鹿児島で実施した。2021年度入試では、A0入試が総合型選抜に、高校推薦入試（公募制・指定校制）が学校推薦型選抜（公募制・指定校制）、大学入試センター試験利用入試が大学入学共通テスト利用選抜に変更となり、移管された看護学部の入試が開始された。

2024年度入試状況は表1-2に4年間の受験者の動向をします。また表1-3は在籍者数を示す。

2024年度の入学生の出身都道府県は、福岡県が最も多く67.4%であり、九州地区出身者は全体の93.0%である（表1-4）。2023年度に言語聴覚学科の設置に伴い、この学科は総合型選抜と学校推薦型選抜を同時期で実施した。2024年度に診療放射線学科設置のため、は総合型選抜と学校推薦型選抜を同時期で実施した。

表1-2 2024年度入試 受験状況

	総合型選抜		学校推薦型		特待奨学生		特別選抜		一般前期		一般後期		共通テスト		合計		入学者数
	志願	合格	志願	合格	志願	合格	志願	合格	志願	合格	志願	合格	志願	合格	志願	合格	
医療学部理学療法学科																	
2019年			25	14			3	1	148	52	8	1			184	68	49
2020年	29	3	28	12			0	0	138	42	10	1	55	18	260	76	44
2021年	23	3	50	12			0	0	142	43	6	1	55	17	276	76	43
2022年	10	5	36	17			0	0	135	35	9	4	69	22	259	83	42
2023年	23	5	27	20			0	0	142	38	4	1	56	16	252	80	46
2024年	35	11	47	26			0	0	162	20	10	1	51	3	305	61	44
医療学部作業療法学科																	
2019年			14	14			0	0	55	37	0	0			69	51	47
2020年	16	4	21	17			1	1	68	29	3	1	30	7	139	59	44
2021年	4	3	23	21			0	0	55	24	6	6	22	8	110	62	44
2022年	17	6	30	26			0	0	50	20	2	1	20	9	119	62	45
2023年	5	2	23	22			0	0	41	25	2	1	17	8	88	58	42
2024年	10	6	24	22			0	0	46	18	5	1	9	7	94	54	43
医療学部言語聴覚学科 (2023年4月開設)																	
2023年	5	4	22	22			0	0	51	24	0	0	20	10	98	60	41
2024年	16	12	21	20			0	0	66	23	1	0	27	8	131	63	48
医療学部視能訓練学科																	
2019年			16	16			0	0	48	28	1	1			65	45	40
2020年	12	5	16	16			0	0	55	29	1	1	17	10	101	61	46
2021年	12	5	36	30			0	0	66	12	4	2	22	9	140	58	44
2022年	9	4	23	21			0	0	35	18	2	2	15	11	84	56	44
2023年	11	7	20	19			0	0	43	22	1	0	12	6	87	54	42
2024年	8	6	22	21			0	0	41	16	0	0	8	5	79	48	41
医療学部診療放射線学科 (2024年4月開設)																	
2024年	18	7	50	36			0	0	275	54	25	0	97	15	465	112	76
看護学部看護学科																	
2019年	39	16	63	42	189	65	3	3	220	50	19	0	42	22	575	198	119
2020年	33	15	69	42	181	51	4	2	346	31	18	4	74	12	725	157	105
2021年	32	15	72	39			3	1	412	102	23	15	130	14	672	186	111
2022年	23	15	66	43			1	0	413	117	34	9	133	27	670	211	111
2023年	33	15	48	43			2	2	350	119	11	0	110	28	554	207	112
2024年	32	20	65	51			1	0	261	103	10	1	61	15	430	190	120
言語聴覚専攻科 (2022年度募集停止)																	
	A O		一般				I 期		II 期		III 期						
2019年	16	15	10	10											26	25	23
2020年							10	10	12	12	5	5			27	27	26
2021年							12	12	7	7	11	10			30	29	28
2022年							5	5	6	6	4	4			15	15	14

表1-3 在籍者数

学年	PT	OT	ST	CO	NS	ST専攻	合計
1年生	46	42	41	42	112		283
2年生	42	44		45	111	12	254
3年生	44	45		41	101		231
4年生	47	44		39	103		233
合計	179	175	41	167	427	12	1001

2023.5.1 現在

表 1-4 2024 年度入学学生の出身県別一覧

県名	理学療法	作業療法	言語聴覚	視能訓練	診療放射線	看護学科	合計
北海道	0	1	0	0	0	0	1
京都府	0	0	1	0	0	0	1
大阪府	0	0	0	0	0	0	0
兵庫県	0	1	0	0	0	0	1
奈良県	0	0	0	0	0	0	0
和歌山県	0	0	0	0	0	0	0
鳥取県	0	0	0	0	0	0	0
島根県	0	0	0	0	1	1	2
岡山県	0	0	0	0	0	0	0
広島県	0	1	3	0	0	0	4
山口県	2	1	4	1	4	4	16
徳島県	0	0	0	0	0	0	0
香川県	0	0	0	0	0	0	0
愛媛県	0	0	0	0	1	0	1
高知県	0	0	0	0	0	0	0
福岡県	34	28	27	28	45	89	251
佐賀県	2	1	1	3	4	11	22
長崎県	2	4	3	1	9	4	23
熊本県	0	1	1	3	2	1	8
大分県	0	1	5	2	2	3	13
宮崎県	2	1	0	2	1	1	7
鹿児島県	1	3	2	1	5	3	15
沖縄県	1	0	1	0	2	3	7
海外	0	0	0	0	0	0	0
合計	44	43	48	41	76	120	372

1. 9 学年暦

2023年度の学年暦を表1-5に示す。

表1-5 2023年度学年暦

	大学行事	学科・専攻関係
4月	4, 5日(月火) 新入生オリエンテーション 3日(月) 入学式 7日(金) 前期授業開始	
5月	17日(水) 高校教員向け学校説明会	
6月	3日(土) 運動会実施 10日(土) 教育後援会幹事会 16日(金) 高校教員向け学校説明会	20日(火) 解剖学実習(PT, OT) 佐賀大学
7月	1日(土) 関連職種連携ワーク発表会 8日(土) 第1回地域公開講座 大人の健康 9日(日) オープンキャンパス 21日(金) 前期授業終了 22~29日(土) 前期試験	14日(木) 解剖学実習(Ns) 佐賀大学
8月	5日(土) オープンキャンパス 6日(日) オープンキャンパス 17日(木) 福岡国際医療福祉大学セミナー 19日(土) オープンキャンパス	2~16日 海外研修1 27日(日) 第13回IUHW学会(成田)
9月	22日(金) 学長と学生のFD 22日(金) 後期授業開始 24日(日) 職業体験型イベント	2~16日 海外研修2
10月	9日(日) オープンキャンパス(診療放射線学科) 14日(土) 総合型選抜入試 21日(土) 第2回地域公開講座(子ども) 28日(土) オープンキャンパス 28日(土) 大学祭(新風祭) 保護者会?	
11月	8日(水) 留学生の集い 18日(土) 高校推薦入試	
12月	23日(土) 教育後援会幹事会 27日(水) 冬期休暇(3日まで)	
1月	4日(木) 授業再開 13, 14日(土、日) 共通テスト 15日(月) 後期授業終了 16~25日 後期試験 26-27日(木、金) 入試(一般前期、社会人、留学生)	
2月	25日(土) 教育後援会幹事会	10日 保健師国家試験 12日 看護師国家試験 16日 視能訓練士国家試験 18日 言語聴覚士国家試験 19日 理学療法士作業療法士国家試験
3月	4日(月) 一般入試後期 7日(木) 卒業式, 謝恩会 20日 オープンキャンパス	21, 22, 26日 国家試験合格発表

2. 各職種の現状

2.1 理学療法士

1) 理学療法士の定義

理学療法士は1965年に公布された理学療法士及び作業療法士法により制定された。その法律の中で「理学療法」とは、「身体に障害のある者に対し、主としてその基本的動作能力の回復を図るため、治療体操その他の運動を行なわせ、及び電気刺激、マッサージ、温熱その他の物理的手段を加えることをいう。」と定義されている。

世界理学療法連盟では以下のように定義されている（1982年）。

理学療法は身体的治療の技術及び科学であり、運動療法、教育指導、温熱、寒冷、光線、水、マッサージ及び電気を治療手段とする。治療目的のなかに痛みの緩和、循環の増加、障害(disability)の予防と改善、力、可動性及び協調性の最大回復がある。

理学療法は、神経支配と筋力の障害(impairment)程度を決定するための電氣的・徒手的テスト、機能的能力を決定するためのテスト、関節可動域の測定、肺活量の測定を医師の診断補助とし、また経過を記録する目的として行うことを含む。

理学療法士は障害(disability)を予防し病人及び障害者(handicapped)を社会復帰(rehabilitate)させるために働くとともに、予防医学においても活動的であり、また臨床研究も行う。

2) 養成校の変遷

1963年に国立療養所東京病院附属リハビリテーション学院で開始された。その後、1979年、3年制短期大学が金沢大学医療技術短期大学部で設立、1992年に4年制が広島大学医学部に設立された。また、理学療法学分野の大学院修士及び博士課程が設立され、多くの学位取得者がみられるようになった。2024年では大学が130校、3年制短大が2校、専門学校が140校である（表2-1）。

3) 理学療法士の現状

2024年度の理学療法士の国家試験合格者の累計は225,017名である。毎年10,000名程度の増加がみられる（表2-1）。

日本理学療法士協会は理学療法士有資格者の職業団体である。現在約12万名の会員で組織されている。

世界理学療法連盟(World Physiotherapy)は127各国、60万名(2024-3-31)の組織団体である。最近では2年に一回、各国で学術大会を開催している。

4) 国家試験

理学療法士の国家試験は、作業療法士と同時に行われている。年1回、問題形式は五者択一又は五者択二である。問題数は200問であり、問題範囲は、基礎医学、臨床医学、理学療法などである。

受験者数と合格率について表に示す。最近の合格率は80%台である。

表 2-1 理学療法士の国家試験合格者数の変遷

		受験者数	合格者数	合格率	合格総計
2014	平成26年	11,129	9,315	83.7	119,979
2015	平成27年	12,035	9,952	82.7	129,931
2016	平成28年	12,515	9,272	74.1	139,203
2017	平成29年	13,719	12,388	90.3	151,591
2018	平成30年	12,148	9,885	81.4	161,476
2019	平成31年	12,605	10,809	85.8	172,285
2020	令和2年	12,283	10,608	86.4	182,893
2021	令和3年	11,946	9,434	79.0	192,327
2022	令和4年	12,685	10,096	79.6	202,423
2023	令和5年	12,948	11,312	87.4	213,735
2024	令和6年	12,629	11,282	89.3	225,017

2. 2 作業療法士

1) 作業療法士の定義

作業療法士は1965年に公布された理学療法士及び作業療法士法により制定された。その法律の中で「作業療法」とは、身体又は精神に障害のある者に対し、主としてその応用的動作能力又は社会的適応能力の回復を図るため、手芸、工作その他の作業を行なわせることをいうと定義されている。

しかし、現行の理学療法士及び作業療法士法(1965年)や日本作業療法士協会が1985年に定めた作業療法法の定義では、医療領域における実践イメージと結びつきやすく、多様化する今日の作業療法の現状を適切に表現するには定義を改定する必要が生じた。そこで日本作業療法士協会は、2018年5月、以下に示すとおり、協会が示す作業療法の定義文を改訂した。

「作業療法は、人々の健康と幸福を促進するために、医療、保健、福祉、教育、職業などの領域で行われる、作業に焦点を当てた治療、指導、援助である。作業とは、対象となる人々にとって目的や価値を持つ生活行為を指す。」

2) 養成校の変遷

1963年に国立療養所東京病院附属リハビリテーション学院で開始された。その後、1979年、3年制短期大学が金沢大学医療技術短期大学部で設立、1992年に4年制が広島大学医学部に設立された。また、作業療法分野の大学院修士及び博士課程が設立され、多くの学位取得者がみられるようになった。2024年では養成校数は、206校(209課程、入学定員約8000人)である。1998年より養成校が急増し、これはゴールドプランによる高齢者の増加に伴い医療福祉職の需要が多くなったことにより生じたものである(表2-2)。

3) 作業療法士の現状

2024年の有資格者数は118,021名である。その作業療法士数の変遷を表に示す。

作業療法の対象は、身体、精神、発達、高齢期の障害や、環境への不適応により、日々の作業に困難が生じている、又はそれが予測される人や集団である。

また、作業療法士が関わる領域は、医療、保健、福祉、教育、職業、その他に大別でき、現状では医療機関で働く作業療法士の数が最も多い。しかし、近年は高齢化社会への対応である介護領域で働く作業療法士の数が増加している。また、国が目指している「共生社会の実現」への対応として、障害福祉、教育、職業の領域で働く作業療法士の数も少しずつ増えてきている。

4) 国家試験

作業療法士の国家試験は、理学療法士と同時に行われている。年1回、問題形式は五者択一又は五者択二である。問題数は200問であり、問題範囲は、基礎医学、臨床医学、作業療法などである。

受験者数と合格率について表2-2に示す。最近の合格率は70-80%台であり、年によって変化が大きい。

表2-2 作業療法士の国家試験合格者数の変遷

		受験者数	合格者数	合格率	合格総計
2014	平成26年	5,474	4,740	86.6	70,648
2015	平成27年	5,324	4,125	77.5	74,773
2016	平成28年	5,004	4,711	94.1	79,484
2017	平成29年	5,983	5,007	83.7	84,491
2018	平成30年	6,164	4,700	76.2	89,191
2019	平成31年	6,358	4,531	71.3	93,722
2020	令和2年	6,352	5,548	87.3	99,270
2021	令和3年	5,549	4,510	81.3	103,780
2022	令和4年	5,723	4,608	80.5	108,388
2023	令和5年	5,719	4,793	83.8	113,181
2024	令和6年	5,736	4,840	84.4	118,021

2. 3 言語聴覚士

1) 言語聴覚士の定義

1997年に言語聴覚士法が公布され、言語聴覚士が制定された。その法律の中で、音声機能、言語機能又は聴覚に障害のある者についてその機能の維持向上を図るため、言語訓練その他の訓練、これに必要な検査及び助言、指導その他の援助を行うと定義されている。

2) 養成校の変遷

言語聴覚士の養成校は文部学大臣指定（認定）医療関係技術者養成学校一覧（令和2年5月1日現在）によれば大学が26校、専門学校が25校、2年制養成が26校である。2年制課程は大学卒業者が入学条件となっている。

3) 言語聴覚士の変遷

2021年の国家試験の合格者累計は37082名である。2021年度は1945名（合格率75%）が合格した。その言語聴覚士数の変遷を表に示す。

4) 国家試験

言語聴覚士の国家試験は、年1回、問題形式は五者択一である。問題数は200問であり、合格基準は120点である。最近の合格率は65～75%台である。

表2-5 言語聴覚士の国家試験合格者数の変遷

	実施年	回	受験者数	合格者数	合格率	合格累計
平成26年	2014	第16回	2,401	1,779	74.1	23,773
平成27年	2015	第17回	2,506	1,776	70.9	25,549
平成28年	2016	第18回	2,553	1,725	67.6	27,274
平成29年	2017	第19回	2,571	1,951	75.9	29,225
平成30年	2018	第20回	2,531	2,008	79.3	31,233
平成31年	2019	第21回	2,367	1,630	68.9	32,863
令和2年	2020	第22回	2,486	1,626	65.4	34,489
令和3年	2021	第23回	2,546	1,766	69.4	36,255
令和4年	2022	第24回	2,593	1,945	75.0	38,200
令和5年	2023	第25回	2,515	1,696	67.4	39,896
令和6年	2024	第26回	2,431	1,761	72.4	41,657

2. 4 視能訓練士

1) 視能訓練士の定義

視能訓練士 (Certified Orthoptist (略称CO)、Orthoptist の前3字でORTとも略される) は、小児の弱視や斜視の視能矯正や視機能の検査をおこなう国家資格を持つ専門技術職として 1971 年に視能訓練士法が公布され、制定された。この法律の中では、両眼視機能に障害のある者に対する機能回復のための矯正訓練及びこれに必要な検査を行なうと定義されていた。このように視能訓練士法制定当時は視能訓練士の業務は小児の斜視や弱視の視機能の検査や視能矯正に限定されていたが、その後、高齢化に伴う眼科領域の疾病構造の変化や、検査機器の進歩による眼科検査の多様化などを受け、1993 年の関係法令成立により、医師の指示の下、人体に影響を及ぼす程度が高い一部の検査を除き、臨床で一般的に行われている眼科諸検査全般を行うことができるようになった。

視能訓練士は、弱視や斜視に対しての視力向上や正常な両眼視機能の獲得を目的とした視能訓練、両眼視能検査、眼筋機能検査、斜視訓練、弱視訓練を行うと同時に、視力検査・屈折検査・眼鏡処方検査・コンタクトレンズ検査・視野検査や、眼の奥の写真や組織の断層を撮影する画像診断検査、正確な手術をおこなうための手術前の検査など様々な眼科一般検査および精密な特殊検査を行う。さらにリハビリテーション分野でも眼疾患や外傷などにより視機能が低下した状態となったロービジョン患者を一人一人に合わせた光学的補助具 (拡大鏡、遮光眼鏡等) の選定、見え方を補う様々な工夫で生活の質の改善を支援して、視覚リハビリテーション施設と連携するなど、ロービジョンに対する視能リハビリテーションも行っている。

2) 養成校の変遷

1970 年 4 月に東京都世田谷区にあった国立小児病院構内にわが国初の視能訓練士の養成施設が厚生省立として設置開校された。この国立小児病院附属視能訓練学院は短期大学卒業以上の女子を入学資格とし、修業年限 1 年、定員は 30 名であった。5 年遅れて同様の養成校 (国立大阪病院附属視能訓練学院) が国立大阪病院構内に付設された。その後、1977 年に新潟医療技術専門学校が高校卒業以上を対象とした私立の 3 年制の専門学校として誕生した。養成校が 3 校のみという時代が長く続いたが、1988 年岐阜視能訓練専門学院 (現、平成医療短期大学) の開設を皮切りに多くの養成校が誕生することになる。その一方で、創成期を支えた国立の養成校 2 校はその役目を終え閉校することになった。

最初の視能訓練士養成大学は 1991 年に岡山県倉敷市に誕生した川崎医療福祉大学である。同大学は 1996 年には大学院を設置した。今では視能訓練士にも修士、博士といった学位取得者を見受けるようになった。現在は、大学が 10 校、専門学校が 16 校、短期大学が 1 校、計 27 校である。養成の場は徐々に大学にシフトしつつあるが、専門学校の人気も根強い。九州には専門学校が 2 校で、大学は本学だけである。

3) 視能訓練士の現状

2024 年の国家試験の合格者累計は 20,321 名であり、毎年約 900 名が増加している。視能訓練士数の変遷を表に示す。

斜視、弱視の視能訓練という専門分野のみを業務としていた創成期に対して、現在は、視能訓練や眼科検査以外にも、3 歳児健診や成人健診などでの視機能スクリーニング、低視力者のリハビリテーション指導など、幅広い業務を担当するようになり、業務は飛躍的に拡大している。さらに近年では、高齢者や発達障害児が抱える視覚の問題に対する包括的なケアを求める社会のニーズも増大している一方、視能訓練士は不足しており、一般病院では看護師が慣れない視力検査をおこなっているところも多く、検査精度が問題になっている。

4) 国家試験

視能訓練士の国家試験は、年 1 回、東京と大阪の 2 会場で行われる。出題分野は、基礎医学大要、基礎視能矯正学、視能検査学、視能障害学、及び視能訓練学である。問題形式は五者択一又は五者択二である。問題数は 150 問であり、合格基準は 60% である。最近の合格率は 95% 以上である。

表 2-3 視能訓練士の国家試験合格者の変遷

		受験者数	合格者数	合格率	合格累計
2016	平成28年	886	833	94.0	13,716
2017	平成29年	832	775	93.1	14,491
2018	平成30年	910	889	97.7	15,380
2019	平成31年	834	819	98.2	16,199
2020	令和2年	837	804	96.1	17,003
2021	令和3年	850	774	91.1	17,777
2022	令和4年	842	773	91.8	18,550
2023	令和5年	943	842	89.3	19,392
2024	令和6年	976	929	95.2	20,321

2. 5 看護師

1) 看護師の定義

「看護師」とは、厚生労働大臣の免許を受けて、傷病者若しくはじよく婦に対する療養上の世話又は診療の補助を行うことを業とする者と保健師助産師看護師法五条で定められている。

また、ICN（国際看護師協会）看護師の定義（日本看護協会訳）の定義は、看護師とは、基礎的で総合的な看護教育の課程を修了し、自国で看護を実践するよう適切な統制機関から権限を与えられている者である。看護基礎教育とは、一般看護実践、リーダーシップの役割、そして専門領域あるいは高度の看護実践のための卒後教育に向けて、行動科学、生命科学および看護科学における広範囲で確実な基礎を提供する、正規に認定された学習プログラムである。看護師とは以下のことを行うよう養成され、権限を与えられている。(1)健康の増進、疾病の予防、そしてあらゆる年齢およびあらゆるヘルスケアの場および地域社会における、身体的、精神的に健康でない人々および障害のある人々へのケアを含めた全体的な看護実践領域に従事すること；(2) ヘルスケアの指導を行うこと；(3) ヘルスケア・チームの一員として十分に参加すること；(4) 看護およびヘルスケア補助者を監督し、訓練すること；(5) 研究に従事することである。

2) 養成校の変遷

看護師の養成校は、4年制大学、3年制短期大学、3年制専門学校などで1064養成校がある。そのうち263校が4年制大学である（約25%）。今後も看護大学が増加している現状である。

3) 看護師の現状

2024年の国家試験の合格者は63931名（受験者63301名55557名合格 合格率95.7%）である。

医療の高度化や高齢社会に伴い、2025年の看護師必要数は188万人～202万人であり、同年において6～27万人の不足数が推定されている（厚生労働省看護職員需給推計 2019年）。看護師等の人材確保とともに社会的要請に対応できる専門的知識と技能の向上のために、1992年「看護師等の人材確保の促進に関する法律」が制定され、看護系大学が急激に増加している（[ulist.pdf \(janpu.or.jp\)](#) 一般社団法人 日本看護系大学協議会）。

看護師の育成は高等教育化を辿っており、看護学の教育研究者や高度実践者の育成を目指し、看護系大学院（修士課程）は令和2年3月現在で186校、国公立87校、私立99校が開設されている（日本看護系大学協議会、国公立看護系大学等の状況 [monbukagakusyou-ulist.pdf](#)）。しかし、「教育体制充実のための看護系大学院における教育者養成に関する調査研究報告」（平成27年3月）では（[完-教育者養成に関する調査研究報告書.indd \(janpu.or.jp\)](#)）、看護系大学の急増に伴う教員不足、教育的資質を十分問われることなく教員として採用されていく現状が取り上げられている。保健医療の他職種や実習医療機関と連携し看護学の実践科学という特徴を踏まえた教育・研究能力を有する看護学の教育研究者の育成が必要である。また、大学院の増加により看護学のエビデンスが蓄積されているが、臨床や教育における看護実践の成果に着目し、エビデンスの活用が指摘されている（国際看護師協会、[INTERNATIONAL COUNCIL OF NURSES](#)）。保健医療サービスにおける看護実践に根差したエビデンスを解明し、明確な臨床判断に基づいて行動できる高度な看護実践者の育成が必要である。

4) 国家試験

看護師の国家試験は、年1回（2月）、全国12会場で行われる。出題分野は、基礎医学、臨床医学、看護の専門の科目等である。問題形式は五者択一又は五者択二である。問題数は250問であり、合格基準は必須問題では80%以上、一般問題と含めて60～70%以上で、社会の状況により合格基準が変化する。

3. 教育内容

3.1 大学のポリシー

3.1.1 カリキュラム・ポリシー

本学では、基本理念・教育目標を実現するため、調和のとれた人格形成に必要な教養科目を基礎におき、また専門分野に関する科目については体系的に構成するカリキュラムとなっている。

以下に本学のカリキュラム・ポリシーおよびカリキュラム体系を示す。

- ①総合教育科目：幅広い教養や視野、国際的なセンスを備えた、豊かな人間性を養う。
 - ②専門基礎科目：人体の構造や、疾病に関わる基礎的な知識を学修し、「チーム医療・チームケア」に欠かせないコミュニケーション能力、関連職種に関する知識と連携能力および課題解決能力を身につけた専門職を養成する。
 - ③専門科目：保健、医療、福祉のプロフェッショナルになるための専門知識および技術を身につけ、専門職として社会に貢献できる人材を養成する。
-
- ①総合教育科目：幅広い教養や視野、国際的なセンスを備えた豊かな人間性を養うとともに、専門教育を受ける上での基本的な知識を修得する科目である。総合教育科目は人間系、社会系、自然・情報系、保健体育系、総合系、外国語系に区分される。
 - 4年間にわたり学べる機会を設けている。
 - 原則として全学科共通の開講科目である。
 - 外国語系科目は海外研修を念頭に置いた実用性を重視した内容である。
 - ②専門基礎科目：「チーム医療・チームケア」に欠かせないコミュニケーション能力、関連職種に関する知識と連携能力および課題解決能力を身につけた専門職を養成する科目である。専門科目（高度な専門的知識・技術）を学ぶための前提となる知識、技術を学ぶとともに、医療関連専門職として共通して修得すべき科目であり、原則として全学科共通の開講科目である。
 - ③専門科目：保健、医療、福祉のプロフェッショナルになるための専門知識および技術を身につけ、専門職として社会に貢献できる人材を養成する科目であり、各学科単独の開講科目である。

3.1.2 ディプロマ・ポリシー

本学は、保健、医療、福祉の分野において、高い知識と優れた技能、そして科学的・創造的探究心と豊かな人間性を備えた、時代のニーズや地域医療に貢献できる有為な専門職を養成することで、基本理念にある「共に生きる社会」の実現を目指すものである。

そのため、総合教育と専門教育に重点を置いた体系的なカリキュラムを構築し、学生へ前もって成績評価基準を明示し、「GPA (Grade Point Average)」を用いた厳格な成績評価を行う。卒業要件を満たす所定の単位を修得したものに対して、卒業を認定し、学位を授与する。

本学で卒業までに身につけるべき内容は、以下のとおりである。

- ①「生命の尊厳・生命の平等」という基本的倫理を尊び、一人の人間として豊かな心を身につけ、時代のニーズや地域で起こっている事象への関心を深め、社会へ貢献するために専門職として必要な高い専門的能力や技術力、実践力を身につける。
- ②他職種を理解し、職種を超えて問題を探求する姿勢を身につけ、基礎的および専門的な学力を養い、保健、医療、福祉の分野において指導者・研究者となり得る基本的能力を身につける。
- ③国際社会で活躍するにあたって必要な能力を育むため、知識と技能、語学力を身につける。

3.1.3 理学療法学科のポリシー

カリキュラム・ポリシー

- ①「生命の尊厳・生命の平等」という基本的倫理と豊かな教養を学修するための授業科目を開設する。
- ②保健・医療・福祉分野における関連職種の役割を理解しチーム医療・チームケアが実践でき、対象者の健康と体力の維持・向上に貢献できる能力を身につけるための授業科目を開設する。
- ③理学療法の実践に必要な、基礎的および専門的な知識・技術を学修するための授業科目を開設する。
- ④国際的な視点に立ち、周辺諸国の歴史、文化、海外保健事情を理解するとともに海外での活動を体験することができる授業科目を開設する。

ディプロマ・ポリシー

- ①「生命の尊厳・生命の平等」という基本的倫理を理解し、豊かな教養と高い専門能力を用いて、時代のニーズや地域で起こっている課題を理解することができる。
- ②理学療法士として医療分野における他職種の役割を理解し、対象者や利用者と共に感しながらチーム医療・チームケアが実践でき、健康と体力の維持・向上に貢献できる。
- ③基礎的および専門的な知識や技術に基づいた理学療法を実践できるとともに、理学療法の指導者・研究者となり得る基礎的能力を身につける。
- ④国際化に対応した幅広い知識・技術を学修し、国際的視点を持つことができる。

3.1.4 作業療法学科のポリシー

カリキュラム・ポリシー

- ①「生命の尊厳・生命の平等」という基本的倫理と豊かな教養を学修するための授業科目を開設する。
- ②人の心と生活を支えるために必要な専門知識と技術を兼ね備え、チーム医療・チームケアが実践できる人材を育成するための授業科目を開設する。
- ③科学的・創造的探究心を持ち、作業療法の実践に必要な、基礎的および専門的な知識・技術を学修するための授業科目を開設する。
- ④国際的な視点に立ち、周辺諸国の歴史、文化、海外保健事情を理解するとともに海外での活動を体験することができる授業科目を開設する。

ディプロマ・ポリシー

- ①「生命の尊厳・生命の平等」という基本的倫理を理解し、豊かな教養と高い専門能力を用いて、時代のニーズや地域で起こっている課題を理解することができる。
- ②作業療法士としての専門知識、技術を有し、他職種と協働してチーム医療・チームケアを実践することができ、社会的責任をもって人の心と生活を支援できる。
- ③向上心、探究心をもって、科学的・創造的思考を身につけ作業療法を実践でき、作業療法の指導者・研究者となり得る基礎的能力を身につける。
- ④国際化に対応した幅広い知識・技術を学修し、国際的視点を持つことができる。

3.1.5 言語聴覚学科

カリキュラム・ポリシー

- ①「生命の尊厳・生命の平等」という基本的倫理と豊かな教養を学修するための授業科目を開設する。
- ②保健・医療・福祉分野における関連職種の役割を理解し、チーム医療、チームケアが実践でき、対象者の生活の質の向上と地域医療の活性化に貢献できる人材を育成するための授業科目を開設する。
- ④国際的視野に立ち、周辺諸国の歴史、文化、海外保健事情を理解するとともに海外での活動を体験することができる授業科目を開設する。
- ③言語聴覚療法の基礎的及び専門的な知識・技術を学修し、臨床における問題点の本質を捉え、自らの力でその問題を解決に導ける実践的能力を育成するための授業科目を開設する。

ディプロマ・ポリシー

- ①「生命の尊厳・生命の平等」という基本的倫理を理解し、豊かな教養と高い専門能力を用いて、時代のニーズや地域で起こっている課題を理解することができる。

- ②言語聴覚士として他職種の役割を理解し、チーム医療・チームケアを実践し、対象者の生活の質の向上と地域医療の活性化に貢献できる。
- ③基礎的および専門的な知識や技術に基づいた言語聴覚療法を実践できるとともに、言語聴覚療法の指導者・研究者となり得る基礎的能力を身につける。
- ④国際化に対応した幅広い知識・技術を学修し、国際的視点を持つことができる。

3.1.6 視能訓練学科のポリシー

カリキュラム・ポリシー

- ①「生命の尊厳・生命の平等」という基本的倫理と豊かな教養を学修するための授業科目を開設する。
- ②眼科医療において必要とされる専門的知識と技術を学修し、さらに他職種と円滑なコミュニケーションを図りながら医療チームの一員として活躍でき、目の健康と生活の質の向上に貢献できる人材を育成するための授業科目を開設する。
- ③ 視覚分野における学術的課題を自ら見出し、科学的根拠に基づいて論理的に分析できる人材を育成するための授業科目を開設する。
- ④国際的な視点に立ち、周辺諸国の歴史、文化、海外保健事情を理解するとともに海外での活動を体験することができる授業科目を開設する。

ディプロマ・ポリシー

- ①「生命の尊厳・生命の平等」という基本的倫理を理解し、豊かな教養と高い専門能力を用いて、時代のニーズや地域で起こっている課題を理解することができる。
- ②視能訓練士として必要な知識と技術を有し、さらに他職種と連携してチーム医療を推進することができる、目の健康と生活の質の向上に貢献できる。
- ③視覚分野における学術的課題を多角的視点から思考し、収集した情報を科学的根拠に基づいて論理的に分析し解決することができ、視能訓練の指導者・研究者となり得る基礎的能力を身につける。
- ④国際化に対応した幅広い知識・技術を学修し、国際的視点を持つことができる。

3.1.7 看護学科のポリシー

カリキュラム・ポリシー

- ①看護師・保健師として必要な豊かな人間性とアイデンティティを育成する。
- ②人間の健康に寄与する専門職として、看護の本質を追究する学習に主体的かつ創造的に取り組む姿勢を育成する。
- ③ヒューマンケアの専門職として必要不可欠なスキルを修得し、保健医療福祉分野におけるチーム医療において協働できる能力を育成する。
- ④物事の本質をみつけ、幅広く学問を探究し、論理的に思考できる能力を育成する。
- ⑤科学的な根拠に基づく判断力と、問題解決ができる基礎的な看護実践能力を育成する。
- ⑥国内外の健康課題を理解し、国際的な視野で問題解決を図る能力を育成する。

ディプロマ・ポリシー

- ①人間への深い関心と尊厳をもって看護の対象を理解し、看護実践の場における倫理的な対処ができる。
- ②多様な学問領域に関心を持ち、人間や健康を学際的にとらえることができる。
- ③自ら学問を探究する姿勢や学習課題を明らかにし、課題達成に取り組むことができる。
- ④看護におけるさまざまな事象に対して、論理的かつ批判的に考え行動できる。
- ⑤他者の感情や体験に共感できるような感性を磨き、人間関係を円滑に築くことができる。
- ⑥個人、家族、組織、地域社会における健康課題を査定し、チームの一員として基本的な看護実践ができる知識・技術・態度を持つことができる。
- ⑦国内外における看護の機能と役割を追究する姿勢を持つことができる。

3.2 カリキュラムの内容

カリキュラムは、総合教育科目・専門基礎科目・専門科目に分かれている。総合教育科目は1・2年次に多く履修する。総合教育科目や専門基礎科目の一部は学科共通科目で、学科間の交流もできる。1年次より一部の専門基礎科目を履修する。2年生はより細分化された分野を勉強する。3年生になると実習が多くなり、より実践に近い形で勉強する機会が増える。4年生では実習と卒業研究、国家試験のための模擬試験等を行う。表には系統図を示す。

総合教育科目

- ①人 間 系：心理学、哲学、倫理学、文学、教育学、教育方法論、コミュニケーション概論
死生学、雑談と傾聴、日本近現代史、宗教学
- ②社 会 系：海外保健福祉事情Ⅰ（講義）、海外保健福祉事情Ⅱ（実習）、アジア比較文化論、法学、
経済学、社会学、国際医療福祉論、社会保障制度論、ボランティア論、ボランティア実践
- ③自然・情報系：生物学、生化学、物理学、データサイエンス、医療とICT、生命倫理、人間工学、
医学・医療史
- ④保 健 体 育 系：健康科学理論、健康スポーツ実践
- ⑤総 合 系：大学入門講座、メディカルマナー入門、医療福祉教養講義
- ⑥外 国 語 系：医学英語Ⅰ・Ⅱ、英語（基礎・応用）、英会話、韓国語、中国語、日本語（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ）

カリキュラム、系統図は履修要項を参照

4. 大学生生活

4.1 学生生活

大学には勉強にも勝る大切なものとして大学行事、そして個人的なクラブ又はサークル活動等がある。様々な活動や人との関わりは人格形成大いに役立つと考えられる。友達や先輩、後輩などお互いの考えに耳を傾け、その上で共感したり、議論したりできる関係は、将来、医療専門職としての人生も豊かにする。大学行事には、運動会、大学祭などが予定されていたが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。

4.2 表彰（学生優秀賞及び受賞など）

年間成績優秀賞は、学業成績が優秀で人品の優れた学生を顕彰し、副賞として奨学金が授与される。2020年度の成績から選出される。学長賞はGPAがトップ、また、優秀な学生には各職業団体の協会賞、教育関連の協会による協会賞などが授与される。

表 4-1 2023 年度年間優秀賞・学長賞・各協会賞

	理学療法学科	作業療法学科	視能訓練学科	看護学科	言語聴覚専攻科
年間優秀賞2年	宇野 日芽子	安達 なづな	香川 友杏	松岡 直	
3年	一ノ宮 翔那	元山 結萌	坂元 亜美	紫村 奈未	
4年	長澤 由香子	上瀧 雅也	舩田 美冴	松尾 沙椰	
学長賞	蒲池 崇広	上瀧 雅也	三島愛理	松尾沙耶	徳田 一興
協会賞	新本 航介	梅津 龍大	坂井麗夏		青山 佳織
学校関係*	一ノ宮 翔那	亀山 瑞歩	舩田美冴	占部美佳	日野 阿希子

*：学校関係：全国リハビリ学校協会（PT,OT,ST）、日本私立看護系大学学長賞、全国視能訓練士学校協会

4.3 奨学金関係

1. 日本学生支援機構奨学生 延べ人数						
種別	種別詳細	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
貸与	第一種(無利子)	38	68	211	278	296
	第二種(有利子)	57	95	275	316	317
貸与合計		95	163	486	594	613
給付 (返済不要)	I 区分	0	26	71	103	81
	II 区分	0	18	56	69	44
	III 区分	0	10	20	23	13
給付合計		0	54	147	195	138
総合計		95	217	633	789	751

2. 日本学生支援機構奨学生 実数					
年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
学生実数	80	151	433	527	544

4.3 クラブ及びサークル

クラブは大学で承認された公式の認可団体で、部室及び援助金が提供される。サークルは個人的な団体（届出のみで活動可能）である。

【部活】

	設立年	団体名	活動内容	会員数
1	2016年	ボランティア部	ボランティア	24
2	2018年	救急医療部	救急対応技術練習	39
3	2020年	箏曲部	箏曲演奏	7

	設立年	団体名	活動内容	会員数
4	2013年	軽音サークル	音楽	17
5	2019年	野球サークル	野球	5
6	2019年	スポーツサークル liquid	スポーツ	24
7	2019年	バレーボールサークル	バレーボール	10
8	2019年	バスケットサークル	バスケットボール	35
9	2019年	バドミントンサークル	バドミントン	47
10	2019年	S-Labo サークル		2
11	2021年	P.E. サークル	スポーツ	22
12	2021年	ダンスサークル Moondust	ダンス	22
13	2021年	バレーボールサークル愛好会	バレーボール	35
14	2022年	レクリエーションサークル	スポーツ	29
15	2023年	foot ball サークル	フットボール	11
16	2023年	がちがちサークル	スポーツ	17
17	2023年	OT スポーツサークル～Te る～	スポーツ	14
18	2023年	Power Miracles サークル	スポーツ	18

4.4 国家試験状況・就職状況

2024年2月に受験した国家試験の合格者を表4-2、2023年度就職率を表4-3に示す。

表4-2 国家試験状況 2024受験

	受験者数	合格者数	合格率 (%)	全国合格率 (%)
看護師	102	96	94.1	87.8
保健師	18	18	100	93.7
理学療法士	43	43	100	89.2
作業療法士	40	40	100	84.1
視能訓練士	38	36	94.7	95.2
言語聴覚士	12	12	100	72.4

表4-3 就職状況

2023年度	卒業者数	就職希望者数	就職者数	就職率 (%)	進学者数
看護学科	103	96	96	100	4
理学療法学科	43	43	43	100	2(2)
作業療法学科	40	39	39	100	0
視能訓練学科	38	37	36	97.3	1
言語聴覚専攻科	12	12	11	91.7	0
		国家試験合格者限定			() は大学院進学：就職と重複

5. 委員会及び研究

5.1 委員会組織と委員

2023年度の委員会組織と委員を表5-1に示す。なお、各委員会の業務などは自己点検・評価報告書に記載している。

表5-1 委員会組織と名簿

委員会名	審議・協議事項(規定)	組織構成(規定)	委員長・室長	副委員長 副室長	副学長 学部長	PT	OT	ORT	NS	ST	事務系ほか	列席等	事務担当	開催頻度 曜日・時間
1 管理運営委員会	(目的) 大学の管理運営に関する重要事項を審議し、理事会との連絡調整を図る。 (審議事項) ※学則 ①学則その他の重要な規則の制定、改定 ②学部・学科の重要な組織の設置及び廃止 ③本学の運営方針等の採択及び修正	①学長 ②副学長 ③学部長 ④事務局長 ⑤学則委員 ⑥学則委員が指名した副学部長 ⑦学則委員 ⑧理事が指名した常任理事及び理事 ⑨学長が必要と認めた職員(任意)	①原学長 <学長名>	丸山副学長 <学長名>	②丸山副学長 <学長名>	⑥山田学部長	⑥丹羽学部長	⑥吉富学部長 ⑥松岡副学部長	⑥高野学部長	④為数学科長	⑦花園副理事 ⑦高木常務理事 ④事務局長 ⑧事務部長	全課長	総務課	
2 学部長・学科会議	(目的) 各学科間の連絡調整を図り、本学の教学について円滑な運営を図る。 (審議事項) 規定なし	①学長 ②副学長 ③学部長・副学部長 ④学則委員 ⑤学則委員が指名した者	①原学長 <学長名>	丸山副学長 <学長名>	②丸山副学長 <学長名>	④山田学部長	⑥丹羽学部長	④吉富学部長 ④松岡副学部長	④高野学部長	④為数学科長	⑤事務局長 ⑤事務部長	全課長	総務課	
3 教育研究戦略会議	①教育研究に係る将来構想及び中期計画の策定 ②教育研究に係るマネジメント体制の構築 ③教育研究に係る組織の設置及び再編 ④その他学長が必要と認めた者	①学長 ②副学長 ③学部長・副学部長 ④学則委員 ⑤学則委員が指名した理事 ⑥事務局長 ⑦事務部長 ⑧その他学長が必要と認めた者	①原学長 <学長名>	丸山副学長 <学長名>	②丸山副学長 <学長名>	④山田学部長	④丹羽学部長	④吉富学部長 ④松岡副学部長	④高野学部長	④為数学科長	⑦事務局長 ⑦事務部長	関係課長	総務課	
4 自己点検・評価委員会	①自己点検・評価の基本方針及び自己点検・評価項目の策定 ②自己点検・評価の組織及び体制の整備 ③自己点検・評価の実施 ④自己点検・評価の報告書の作成及び検証 ⑤自己点検・評価報告書の作成及び検証 ⑥自己点検・評価の実施方針の策定及び実施 ⑦自己点検・評価に必要な資料・データの収集及び分析 ⑧自己点検・評価報告書の作成 ⑨実地調査への対応 ⑩その他学長が必要と認めた者	①学長 ②副学長 ③学部長・副学部長 ④学則委員 ⑤学則委員が指名した理事 ⑥事務局長 ⑦事務部長 ⑧その他学長が必要と認めた者	①原学長 <学長名>	丸山副学長 <学長名>	②丸山副学長 <学長名>	④山田学部長	④丹羽学部長	④吉富学部長 ④松岡副学部長	④高野学部長	④為数学科長	⑧花園副理事 ⑧事務局長 ⑦事務部長	関係課長	総務課	
4-1 自己点検・評価委員会 認証評価対策チーム	①自己点検・評価の実施方針の策定及び実施 ②自己点検・評価に必要な資料・データの収集及び分析 ③自己点検・評価報告書の作成 ④実地調査への対応 ⑤その他学長が必要と認めた者	①副学長 ②学長が指名する専任教員 ③その他学長が必要と認めた者	①丸山副学長 <副学長名>	②丹羽学部長 <学部長名>	①丸山副学長	②山田学部長 (1)池田学部長 ②池田学部長	②丹羽学部長 ②中區学部長	②橋本准教授 ②藤井川助教	②千々田教授 (学生委員会 委員)	②池下助教	④事務局長 ④事務部長	総務課長 田原主任	総務課	
5 大学質保証推進委員会	①内部質保証の方針及び手続の策定 ②内部質保証のための体制整備 ③内部質保証システムの機能向上 ④その他内部質保証の推進	①学長 ②副学長 ③学部長・副学部長 ④学則委員 ⑤学則委員が指名した理事 ⑥事務局長 ⑦事務部長 ⑧その他学長が必要と認めた者	①原学長 <学長名>	丸山副学長 <学長名>	②丸山副学長 <学長名>	④山田学部長	④丹羽学部長	④吉富学部長 ④松岡副学部長	④高野学部長	④為数学科長	⑥事務局長 ⑦事務部長	総務課長	総務課	
6 人事委員会	(目的) 理事長の諮問に応じ、 1) 本学の教職職員(教授、准教授、講師(非常勤講師を除く)、助教、助産師)に関する以下の審議 ①任用、任免及び解任 ②表彰及び懲戒 ③教育研究活動報告書 ④「教職職員に関する規程」及び「契約教職員規程」に定める契約の更新	①学長 ②副学長 ③学部長の指名する副学長、学部長、副学部長等 ④理事の指名する学識経験者及び理事 ⑤事務局長 ⑥事務部長 ⑦その他学長が必要と認める者	①原学長 <学長名>	<- - >	②丸山副学長	-	-	-	-	-	③高木常務理事 ④事務局長 ⑥事務部長	総務課長	総務課	
7 FD・SD推進委員会	①FD・SD活動の企画・立案 ②FD・SD活動の実施 ③FD・SD活動の点検・評価 ④FD・SD活動の情報収集と提供 ⑤その他FD・SD活動の推進	①学長が指名する専任教員 ②理事が推薦する者 ③総務課長、学務課長 ④その他学長が必要と認めた者	①吉富学部長 <学長名>	松田准教授 <学長名>	-	①藤田講師	①松田准教授	①吉富学部長	①高木講師 ①水尾講師	①吉永助教	③総務課長 ③事務部長	-	学務課 (総務課)	
8 ハラスメント防止委員会	(目的) 本学における学生及び教職員に対するセクシャル・ハラスメント、アカデミック・ハラスメント並びにパワー・ハラスメントを防止する。 (審議事項) ①本学におけるハラスメントを防止するために必要な事項を立案し学長に答申 ②本学におけるハラスメントの防止	学長が指名する専任の教職員及び職員(10名以内)	松岡副学部長 <学長名>	橋本准教授 <学長名>	-	①山田学部長	丹羽学部長	吉富学部長 松岡副学部長	高野学部長 橋本准教授	福井講師	総務課長	-	総務課	
9 危機管理委員会	①危機情報の収集・分析 ②危機管理体制の整備 ③危機管理マニュアル等の整備 ④教職員、学生及び関係者への教育・訓練 ⑤危機管理対策の推進及び見直し ⑥その他危機管理に必要事項	①学長 ②副学長 ③学部長・副学部長 ④学則委員 ⑤学則委員が指名した理事 ⑥事務局長 ⑦事務部長 ⑧その他学長が必要と認めた者	①原学長 <学長名>	丸山副学長 <学長名>	②丸山副学長 <学長名>	④山田学部長	④丹羽学部長	④吉富学部長 ④松岡副学部長	④高野学部長	④為数学科長	⑥事務局長 ⑦事務部長 ⑧全課長	関係事務職員	総務課	
9-1 危機管理委員会 防災対策部会	①防災対策に関すること ②防災設備の設置及び充実に関すること ③防災教育及び訓練に関すること ④防災に関する連絡調整に関すること	①学長が指名する専任教員 ②管理課長 ③その他学長が必要と認めた者	①丸山副学長 <学長名>	①丸山副学長	①藤田講師	①佐野講師	①財津教授	①木村講師	①吉永助教	②管理課長	-	管理課		
9-2 危機対策本部 新型コロナウイルス感染症 対策チーム会議	(審議事項) ①学生、教職員の罹患状況及び健康状況の把握 ②講義、実習(学内外)等における感染予防や拡大防止対策についての検討 ③感染予防・拡大防止対策の周知 ④罹患発生時の対応及び対応策の検討 ⑤休講、閉鎖、閉館等の検討及び決定 ⑥発症時、経過時、終息時の学生、教職員への対応策を立案し学長に答申 ⑦教職員の健康確保を防止するための基本となるべき対策 ⑧教職員の健康の保持増進を図るための基本となるべき対策 ⑨労働災害の原因及び再発防止対策で、衛生に係るもの ⑩その他教職員の健康確保の防止及び	①学長 ②副学長 ③学部長 ④学則委員 ⑤学則委員が指名した理事 ⑥事務局長 ⑦事務部長 ⑧その他学長が必要と認めた者	①原学長 <学長名>	丹羽学部長 <学長名>	②丸山副学長 <学長名>	④山田学部長	④丹羽学部長	④吉富学部長	④高野学部長 ④多賀准教授	④為数学科長	⑦事務局長 ⑦事務部長 ⑧関係課長	-	総務課	
10 衛生委員会	①学長 ②副学長 ③学部長 ④学則委員 ⑤学則委員が指名した理事 ⑥事務局長 ⑦事務部長 ⑧その他学長が必要と認めた者	①学長が指名する専任教員 ②管理課長 ③その他学長が必要と認めた者	①丸山副学長 <学長名>	①丸山副学長 <学長名>	①丸山副学長	③田中教授 ⑤藤田講師	⑤佐野講師	⑤財津教授	⑤木村講師	⑤吉永助教	②総務課長	-	総務課	

11	設備・機器整備検討委員会	(目的) 本学における設備・機器の整備(整備計画の作成、整備状況の確認、調達に係る仕様決定及び価格選定等)について協議を行うことにより、適切かつ効果的な設備・機器の導入、更新等を行う。	①学長が指名する専任教員 ②理事長が推薦する者 ③管理課長 ④その他学長が必要と認めた者	①丸山副学長 <学長指名>	—	①丸山副学長 <学長指名>	(都度指名)	(都度指名)	(都度指名)	(都度指名)	(都度指名)	③管理課長	—	管理課
12	情報委員会	①教育・研究・事務に係る情報化推進戦略の企画・立案 ②情報ネットワーク及び情報システムへの導入・構築 ③情報教育の推進 ④情報コンプライアンス ⑤情報セキュリティ対策の企画・立案	①学長が指名する専任教員 ②山之口講師 <学長指名> ③管理課長 ④その他学長が必要と認めた者	①山之口講師 <学長指名>	—	①山之口講師 <学長指名>	①山之口講師 ①松田准教授 ①吉澤講師 ①平賀助教	①田村講師 ①本原助教	①水尾講師	①皇嶋助教 ①石川准教授	③管理課長	—	管理課 (学務課)	
13	教務委員会	①学長が指名する専任教員 ②学務課長 ③その他学長が必要と認めた者	①学長が指名する専任教員 ②学務課長 ③その他学長が必要と認めた者	①丹羽学部長 (01) <学長指名>	高野学部長 <学長指名>	①丸山副学長	①森田学部長 ①吉澤講師 ①丹羽学部長 ①吉富学部長 ①横本准教授	①月羽学部長 ①中西教授	①高野学部長 ①中西教授	①為数学科長 ①石川准教授	②学務課長	—	学務課	
13-1	教務委員会 カリキュラム部会	①カリキュラムの編成に関すること ②カリキュラム運営の方法並びにその改善及び支援に関すること ③その他カリキュラムに関すること	①教務委員長が指名する専任教員 ②学務課長 ③その他学長が必要と認めた者	①丹羽教授 (01) <学長指名>	<—>	—	①藤田講師 ①丹羽教授 ①中国講師	①松岡副学部長 ①大川講師	①石川准教授	②学務課長	—	学務課		
14	開地実習委員会	①実習の企画・立案及び運営 ②実習施設との連絡及び調整 ③実習に係る事前・事後指導 ④その他実習	①学長が指名する専任教員 ②各学科及び専攻科の実習担当教員 ③学務課長 ④理事長が推薦する者 ⑤学務課長 ⑥その他学長が必要と認めた者	<学長指名>	①④丸山副学長 ②森田学部長 <学長氏名>	①丸山副学長 ②森田学部長 ②平賀助教 ②瀬井川助教	②川口教授 ②吉永助教	⑤学務課長	—	学務課				
15	国家試験等対策委員会	①国家試験等に係る取組の企画・立案 ②国家試験等に係る連絡及び連絡調整 ③国家試験等に係る事前教育及び手続	①学長が指名する専任教員 ②理事長が推薦する者 ③学務課長 ④その他学長が必要と認めた者	②高野学部長 <学長指名>	皇嶋助教 <学長指名>	①吉村講師 ①谷口助教 ①中国講師 ①木村助教 ①田村講師	①松岡副学部長 ①中野准教授 ①宇治田助教 ①石川准教授	③学務課長	—	学務課				
16	学生委員会	①学生の活動 ②学生の生活支援(奨学金等) ③学生の表彰及び褒賞 ④学生の福利厚生 ⑤その他学生の支援	①学長が指名する専任教員 ②学務課長 ③その他学長が必要と認めた者	①千々岩教授 (NS) <学長指名>	松田准教授 <学長指名>	—	①光武講師 ①池田助教 ①松田助教 ①瀬井川助教	①横本准教授 ①千々岩教授 ①前田講師 ①皇嶋助教	②学務課長	—	学務課			
17	奨学金委員会	※高木学園規定 (目的) 学校法人高木学園における各種の奨学金等の制度を一体的に管理するとともに、適正な制度設計並びに運用を図る。 (審議事項) ①奨学金等の制度の設計、変更、廃止に関する審議 ②奨学金等の奨学生の選考案又は推薦等の最終承認 ③奨学金等の制度の運営状況の監理 ④外部の奨学金、貸付金を含む大学の学生の奨学金等の利用状況の掌握	①理事長が指名する専任教員 ②理事長が推薦する者 ③学務課長 ④その他学長が必要と認めた者	②学務課長 <理事長任命>	丸山副学長 <—>	①丸山副学長	—	—	①花園副理事長 ①高木学務課長 ③事務局長 ④学務課長	—	学務課			
18	学生募集委員会	①学生募集に係る企画・立案 ②学生募集の実施 ③その他学生募集	①理事長が指名する専任教員 1名 ②学長が指名する専任教員 ③理事長が推薦する者 ④専門的な専任教員(アドミッション・オフィサー) ⑤入試・広報課長 ⑥その他学長が必要と認めた者	<学長指名> 為数学科長 (ST)	②丸山副学長 ②森田学部長 ②高野学部長	②森田学部長 ②谷口助教 ②平賀助教 ②横本准教授 ②佐々木講師	②高野学部長 ②為数学科長 ②松岡副学部長 ②高木講師	③事務局長 ⑥入試・広報課長	—	入試・広報課				
19	入試試験委員会	(目的) 入試試験を的確かつ円滑に実施するため、その制度、方法を審議する。 (審議事項) 規定なし	①理事長 ②学長 ③理事長が指名した者 ④学長が指名した者	④丸山副学長 <理事長指名>	<—>	④丸山副学長 ④森田学部長 ④吉村講師 ④丹羽学部長 ④多賀准教授	④吉富学部長 ④松岡副学部長 ④山口准教授 ④高野学部長 ④松岡副学部長 ④山口准教授	④為数学科長 ①福井講師	③花園副理事長 ③事務局長 ④事務部長 ④入試・広報課長	—	入試・広報課			
20	研究・産学連携推進委員会	①研究及び産学連携に係る推進戦略の企画・立案 ②学内研究費 ③学内研究費等の競争的研究資金の振替 ④産学連携に係る企画・立案及び実施 ⑤研究及び産学連携に関する情報の収集及び提供	①学長が指名する専任教員 ②学務課長 ③その他学長が必要と認めた者	①森田学部長 <学長指名>	①丸山副学長	②山之口講師 ②中国講師 ②平賀助教	②飛松教授 ②田村講師 ②大川講師	②横尾講師 ②堀川教授 ②池下助教	③学務課長	—	学務課 研究・産学連携支援室			
21	研究倫理審査委員会	※旧倫理審査委員会 (目的) 「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」(文部科学省、厚生労働省)等の医学研究に関する指針に基づき、倫理的観点及び科学的観点から、研究機関及び研究者等の利益保護に関する情報を含めて中立的かつ公正に審査を行う。 ⑤専任女性で構成 ⑥5名以上 (審議事項) 規定なし	①旧倫理審査委員会 ①医学・医療の専門家等の自然科学の知識を ②倫理学・法律学の専門家等の人文・社会科学の知識を ③一般の立場から意見を述べることが出来る者 ④委員会の設置者の所属機関に所属しない者(複数名) ⑤専任女性で構成 ⑥5名以上	①吉富学部長 <学長指名>	<—>	①田川教授 ①中国講師 ①吉富学部長	①山口准教授 ②堀川教授	①矢永医師(外部) ③事務局長(外部) ③事務局長	—	学務課 研究・産学連携支援室				
22	利益相反管理委員会	(目的) 利益相反を適正に管理する。 (審議事項) ①本学利益相反マネジメントポリシー及びその規程の見直し並びに細則の制定・改廃 ②利益相反自己申告書 ③利益相反管理の対象者に対する審査、通知、指導又は勧告 ④約研究員申請における利益相反等管理に関する情報公開 ⑤開示推進の基本方針	①学長が指名する専任教員 ②総務課長、学務課長 ③その他学長が必要と認めた者 ④外部委員	①高野学部長 <学長指名>	田川教授 <—>	①田川教授 ①松田准教授 ①吉富学部長	①横尾教授 ①為数学科長	④上松津、課(外部) ②学務課長 ②総務課長	—	学務課 研究・産学連携支援室				
23	図書委員会	①図書、逐次刊行物及び視覚資料の選定及び購入 ②図書、逐次刊行物及び視覚資料の予算及び配分 ③図書等の管理	①図書館長 ②学部長 ③専攻科長 ④事務局長 ⑤その他学長が必要と認めた者	①森田学部長 <学長指名>	①丸山副学長	②森田学部長 ②丹羽学部長	②吉富学部長 ②高野学部長	②為数学科長	④事務局長 ⑤総務課長	—	総務課 学術情報室			
24	教授会(代表者会議)	(学長に意見を述べるのみ) ①学生の入学、卒業及び課程の修了 ②学給 ③教育研究に関する重要な事項	①学長 ②学部長 ③学部長 ④副学部長 ⑤学部長 ⑥学部の専任教員 学長が必要と認める専任教員 ※規程(代表者会議) ①副学長 ②学部長及び学部長等の意見を聴いて承認する者	丸山副学長 <—>	①丸山副学長	①森田学部長 ①田川教授 ①丹羽学部長 ①多賀准教授	①吉富学部長 ①松岡副学部長	①高野学部長 ①中西教授 ①為数学科長 ①石川准教授	—	事務部長 副部長	総務課			
25	学科会	(目的) 学科内の教学に関する事項について、連絡調整及び協議する。												

推進室等															
1	IR推進室	(業務) ①本学の運営の基盤となる情報の収集・整理・分析及び管理 ②情報の分析に基づく経営判断及び意思決定等の支援に関する事項 ③その他	①学長が指名する専任教員 ②総務課長 ③IR推進担当職員 ④外部有識者 ⑤その他学長が必要と認めた者	①山之口講師 <学長指名>	<学長指名>	①丸山副学長	①山之口講師 ①池田講師	①丹羽学科長 ①松田助教	①橋本准教授 ①瀬井川助教	①新進教授 ①吉村助教	①池下助教 ①石川准教授	④事務部長 ②総務課長 ③田原主任	-	総務課	-
2	広報室	(業務) ①広報戦略の基本方針の策定 ②広報活動の企画・実施 ③機関誌等発行のための情報収集及び編集活動 ④その他	①学長が指名する専任教員 ②入試・広報課長 ③広報担当職員 ④外部有識者 ⑤その他学長が必要と認めた者	①丸山副学長 <学長指名>	吉塚講師 <学長指名>	①丸山副学長	①吉塚講師	①木村助教	①瀬井川助教 ①本居助教	①甲斐講師 ①横山助手	①池下助教	⑤事務局長 ⑤事務部長 ②入試・広報課長 ④中主任	-	入試・広報課	-
3	地域連携推進室	(業務) ①地域連携の推進に関する基本方針の策定及び実施 ②地域貢献に係る調査・研究 ③生涯学習に関する事業の企画・実施 ④その他	①学長が指名する専任教員 ②総務課長 ③地域連携推進担当職員 ④その他学長が必要と認めた者	為数学科長 (ST) <学長指名>	仙波准教授 <学長指名>	-	①光武講師 ①池田講師	①佐野講師 ①松田助教	①松原副学科長 ①本居助教	①仙波准教授 ②森山准教授	①福井講師 ①豊島助教	②総務課長 ③	-	総務課	-
4	学生相談室	(業務) ①学生相談に関する基本方針の策定 ②学生相談の実施及び相談 ③関係機関との連携及び協力 ④その他	①学生委員会委員長 ②学長が指名する専任教員 ③臨床心理士 ④学務課長 ⑤学生相談担当職員 ⑥その他学長が必要と認めた者	①千々岩教授 (NS) <学長指名>	<学長指名>	-	②吉村講師	②木村助教	②佐々木講師	①千々岩教授 ②彌永准教授	②吉永助教	③臨床心理士 ④学務課長 ⑤	-	学務課	-
5	ボランティア推進室	(業務) ①ボランティア活動振興の基本方針の策定 ②ボランティアに関する情報の収集及び提供 ③関係機関との連携 ④その他	①学長が指名する専任教員 ②学務課長 ③ボランティア担当職員 ④その他学長が必要と認めた者	①石川准教授 <学長指名>	仙波准教授 <学長指名>	-	①光武講師 ①松田助教	①佐野講師 ①松田助教	①佐々木講師 ①本居助教	①仙波准教授 ①池田助教	③石川准教授 ①池下助教	②学務課長 ③田光職員	-	学務課	-
6	キャリア支援室	(業務) ①キャリア教育及び就職支援の基本方針の策定 ②就職に関する情報の収集及び提供 ③就職支援の実施 ④その他	①学長が指名する専任教員 ②学務課長 ③キャリア支援担当職員 ④その他学長が必要と認めた者	①新進教授 (NS) <学長指名>	吉永助教 <学長指名>	-	①谷口助教	①木村助教	①田村講師	①新進教授 ①橋本准教授	①吉永助教	②学務課長 ③	-	学務課	-
7	国際交流室	(業務) ①国際交流の推進に関する基本方針の策定 ②学生交流・留学生支援の実施 ③海外研修プログラムの企画・実施 ④その他	①学長が指名する専任教員 ②学務課長 ③国際交流担当職員 ④その他学長が必要と認めた者	①多賀准教授 (OT) <学長指名>	田川教授 <学長指名>	-	①田川教授	①多賀准教授 ①佐野講師	①財津教授 ①佐々木講師	①森山准教授 ①伊東助手	①豊嶋助教 ①福井講師	②学務課長 ③松浦主任	-	学務課国際室	-

5.2 Good Teaching 賞、FD・SD 研修、研究費受給

Good teaching 賞を表 5-2、FD/SD 研修（外部の研修含む）を表 5-3、研究費受給を表 5-4、受託研究費等の人数を表 5-5、学内研究助成を表 5-6 に示す。

表 5-2 2023 年度 Good Teaching 賞受賞者

	最優秀賞	優秀賞	優秀賞
2023年度	吉塚 久紀	谷口 隆憲	新道 由記子

5.3 FD, SD

FD, SD 講習会は FDS D 委員会主催が 4 回、他委員会との共同開催が 11 回、団体及び業者による e-learning による講習会など実施した（表 5-3）。

表 5-3 FD・SD 等の講習会セミナー

FD 研修会一覧（主催 FD 委員会及び合同主催）			
日時	タイトル	講師	主担当
FIUHW FDS D 委員会主催			
2023年6月30日	発達障害、学習障害が疑われる学生への対応	岩田（心理）	FD 委員会
2023年9月22日	学生参加型 FD 4 年間を振り返って	学長、学生	FD 委員会
2023年11月10日	教員向け FD 講話（第 1 回教員研修会）	原学長、丸山副学長	FD 委員会
2024年3月18日	good teaching 賞（第 2 回教員研修会）	発表会	FD 委員会
FIUHW 委員会との合同 FD 研修会			
2023/5/15～	研究倫理講習	Online 学修	CREDIT
2023年5月18日	コンプライアンス研修	飛松省三（FIUHW=ORT）	研究産学連携推進委員会
2023年5月18日	私立学校法の改正について		文部科学省
2023年5月26日	科研費申請講習会	堀川悦夫、中園	研究産学連携推進委員会
2023年6月2日	公的研究説明会	事務スタッフ	研究産学連携推進委員会
2023年7月26日	メンタルヘルス講習会/ハラスメント講習会	田川辰也	衛生委員会・ハラスメン
2023年8月17日	福岡国際医療福祉大学セミナー	各学科	研究産学連携推進委員会
2023年12月6日	質保証人材育成セミナー	Online	IR 推進室
2023年12月末	リスクマネジメント研修	Online	研究産学連携推進委員会
2024年1月19日	経営情報交換会：寄附行為変更上のポイント	Online	私大協
2024年2月8日	第 80 回公開研究会	Online（山田礼子）	私学高等教育研究所
学科 FD	毎月開催：カリキュラム、教育方法、評価、学生指導法など		
	各学科：教育、学生指導		各学科

5.4 研究費受給（外部研究費、学内研究費）

文部科学省の科学研究費の取得状況および学内研究費の取得状況を表5-4に示す。

表5-4 文部科学省科学研究費 受給者一覧

	氏名	所属	職名	課題番号	種類	基金助成金/補助金	代表者/分担者	研究期間	研究テーマ	直接経費	間接経費	配分額
1	光武 翼	PT	講師	20H04059	基盤研究(B)	補助金	代表者	令和2年度～令和5年度	ノイズ前庭電気刺激の姿勢安定性に関する多角的な研究	500,000	150,000	650,000
2	佐野伸之	OT	講師	20K19301	若手研究	基金	代表者	令和2年度～令和5年度	造成功能の本質に基づく客観的評価法の開発と介入プログラムの作成	700,000	210,000	910,000
3	川口 眞津子	NS	准教授	21K10831	基盤研究(C)	基金	代表者	令和3年度～令和5年度	プラチナナースの就労継続を可能にする働き方モデルの開発	500,000	150,000	650,000
4	松藤 佳名子	ORT	准教授	21K11281	基盤研究(C)	基金	代表者	令和3年度～令和5年度	キメラ視覚画像刺激を用いた半側空間無視におけるプリズム順応効果の検証	700,000	210,000	910,000
5	吉塚 久記	PT	講師	21K17541	若手研究	基金	代表者	令和3年度～令和5年度	脳神経解剖学的知見を基盤とした筋電図解析：機能解剖学的知見を基盤とした筋電図解析	300,000	90,000	390,000
6	萩原 綱一	NS	准教授	21K09001	基盤研究(C)	基金	代表者	令和3年度～令和6年度	前庭覚による島葉賦活-新たな疼痛緩和戦略	500,000	150,000	650,000
10	中園 寿人	OT	講師	21K11174	基盤研究(C)	基金	分担者	令和3年度～令和6年度	脳状態依存刺激を活用した手指分離運動の神経基盤解明とリハビリへの応用	50,000	15,000	65,000
19	石橋 曜子	NS	講師	20K10777	基盤研究(C)	基金	代表者	令和2年度～令和5年度	喉頭全摘出者の家族の術後生活への移行を促進する外来での生活支援プログラムの開発	1,200,000	360,000	1,560,000
22	吉塚 久記	PT	講師	21K11263	基盤研究(C)	基金	分担者	令和3年度～令和5年度	感圧測定システムによる踵筋帯の機能解析～筋帯損傷のテーラードメイド予防を目指して	200,000	60,000	260,000
23	宇治田 さおり	NS	助教	21K02349	基盤研究(C)	基金	分担者	令和3年度～令和6年度	XR（仮想空間技術）を活用した虐待予防教育プログラムの開発	30,000	9,000	39,000
1	堀川 悦夫	ORT	教授	22H03447	基盤研究(B)	補助金	代表者	令和4年度～令和6年度	日常的運動行動記録と下肢の自己受容感覚解析によるペダル踏み間違い事故の要因解明	3,800,000	1,140,000	4,940,000
2	中園 寿人	OT	講師	22H03460	基盤研究(B)	補助金	代表者	令和4年度～令和7年度	運動野に可塑性を誘導する新規非侵襲的脳刺激法の開発：その神経基盤と臨床応用	10,000,000	3,000,000	13,000,000
5	佐々木 信	ORT	講師	22K13673	若手研究	基金	代表者	令和4年度～令和6年度	眼の感受性期を考慮した新眼鏡浴による弱視治療法の開発：視覚誘発電位による検証	200,000	60,000	260,000
6	田村 省悟	ORT	講師	22K17381	若手研究	基金	代表者	令和4年度～令和5年度	小児視覚スクリーニングのゴールドスタンダード確立：いつ実施すべきか？	700,000	210,000	910,000
7	山之口 稔隆	PT	講師	22K17406	若手研究	基金	代表者	令和4年度～令和7年度	慢性腎臓病（CKD）重症化分類と潜在性動脈硬化との関連を解明する疫学的検討	700,000	210,000	910,000
8	松田 大輝	OT	助教	22K17609	若手研究	基金	代表者	令和4年度～令和6年度	没入型VRを用いた新しい運動イメージトレーニングプログラムの効果に関する検証	1,200,000	360,000	1,560,000
9	谷口 隆憲	PT	助教	22K17626	若手研究	基金	代表者	令和4年度～令和6年度	運動恐怖を有する変形性膝関節症者の運動学的評価と電気刺激を併用した運動療法の開発	900,000	270,000	1,170,000
14	高野 政子	NS	教授	21K07866	基盤研究(C)	基金	分担者	令和3年度～令和6年度	小児AYA世代のがん経験者や家族の知的・身体的レジリエンスを評価・支援する研究	50,000	15,000	65,000
15	江本 勲	NS	教授	20K09649	基盤研究(C)	基金	代表者	令和2年度～令和6年度	子宮癌肉腫細胞の血管新生制御を目的とした新たなドラッグデリバリーシステムの構築	700,000	210,000	910,000
16	萩原 綱一	NS	准教授	21K11271	基盤研究(C)	基金	分担者	令和3年度～令和5年度	空間注意を伴う運動により増大する脳活動領域：頭蓋内電極を用いた検討	170,000	51,000	221,000
17	石橋 曜子	NS	講師	22K10769	基盤研究(C)	基金	分担者	令和4年度～令和7年度	発達障害傾向看護学生のコミュニケーション力育成プログラムの試行	40,000	12,000	52,000
18	石橋 曜子	NS	講師	22H03379	基盤研究(B)	補助金	分担者	令和4年度～令和7年度	エッセンシャルワーカーとしての看護師の継続する危機への適応能力教育パッケージ開発	150,000	45,000	195,000
1	湖井川 修一	ORT	助教	23K02325	基盤研究(C) (一般)	基金	代表者	令和5年度～令和7年度	ウェアラブルAI端末を用いた小学生の「近業」実態調査：学童近視の環境要因研究	900,000	270,000	1,170,000
2	飛松 省三	ORT	教授	23K06799	基盤研究(C) (一般)	基金	代表者	令和5年度～令和7年度	ヒトの優位性の役割は何か？両眼干渉と両眼鏡合調律を用いた視覚誘発電位研究	1,600,000	480,000	2,080,000
3	橋本 勇希	ORT	准教授	23K10818	基盤研究(C) (一般)	基金	代表者	令和5年度～令和7年度	脈絡膜変化に着目した眼精疲労の新たな他覚的評価法の開発	2,100,000	630,000	2,730,000
4	吉村 千草	NS	助教	23K09922	基盤研究(C) (一般)	基金	代表者	令和5年度～令和7年度	病院と大学の連携によるマイクロラーニング型看護職者復職教育プログラムの開発と検証	900,000	270,000	1,170,000
5	吉村 美香	PT	講師	23K16507	若手研究	基金	代表者	令和5年度～令和7年度	就労能力と転倒災害防止策の現状分析による高齢労働者の転倒災害低減に向けた研究	2,000,000	600,000	2,600,000
6	本居 快	ORT	助教	23K17178	若手研究	基金	代表者	令和5年度～令和7年度	斜視の「感覚適応抑制」の脳内基盤：モデル作成と事象関連電位研究	1,300,000	390,000	1,690,000
7	千々岩 友子	NS	教授	23K10325	基盤研究(C) (一般)	基金	代表者	令和5年度～令和7年度	自殺念慮をもつ身体疾患のある在宅療養者に対する訪問看護実践ガイドラインの開発	800,000	240,000	1,040,000
8	石川 幸伸	ST	准教授	21K10776	基盤研究(C) (一般)	基金	代表者	令和3年度～令和6年度	喉頭がん、下咽頭がんにより喉頭摘出術を受けた患者に対する携帯型嗅覚知覚装置の開発	800,000	240,000	1,040,000
9	新進 由紀子	ST	准教授	19K19651	若手研究	基金	代表者	令和元年度～令和5年度	家庭訪問事業における助産師コンピテンシーモデルの開発	1,090,494	0	1,090,494
10	堀川 悦夫	ST	教授	23K10562	基盤研究(C) (一般)	基金	分担者	令和5年度～令和8年度	ワゴンホイール効果を用いたパーキンソン病等による思考緩慢の測定法開発と臨床応用	30,000	9,000	39,000
11	千々岩 友子	NS	教授	20K11115	基盤研究(C) (一般)	基金	代表者	令和2年度～令和5年度	身体疾患をもち自殺念慮を有する在宅療養者の訪問看護実践モデルの開発	677,444	0	677,444
12	千々岩 友子	NS	教授	23K10043	基盤研究(C) (一般)	基金	分担者	令和5年度～令和8年度	精神看護学教育に共同創造を促すためのガイドラインの開発	165,000	49,500	214,500
13	石橋 曜子	NS	講師	23H03199	基盤研究(B)	補助金	分担者	令和5年度～令和9年度	喉頭全摘出者の退院後のQOL向上を目指す継続看護チームの介入：RCTによる縦断調査	220,000	66,000	286,000
14	上岡 奈美	NS	助手	23K19879	研究活動スタート支援	基金	代表者	令和5年度～令和6年度	モバイルアプリと対面講習でのメンタルヘルセルフケアにおける効果検証	1,100,000	330,000	1,430,000
15	溝口 晶子	NS	講師	20K23149	研究活動スタート支援	基金	代表者	令和2年度～令和5年度	下部尿路症状のある高齢者への個別の包括的排尿ケアは認知機能を改善できるか？	1,052,429	0	1,052,429
										38,025,367	10,561,500	48,586,867

表 5-5 受託研究費、共同研究、奨学寄附金、助成など

	氏名	所属	職名	課題番号	種類	代表者/ 分担者	研究期間	研究テーマ	間接経費	配分額
1	光武 翼	PT	講師	22FA1003	厚労科研費	分担者	2022年度～2024年度	エビデンスに基づいたロコモティブシンドローム早期対策の実践に資する包括的研究	0	200,000

表 5-6 学内研究助成

番号	1. 研究種目	所属	職位	氏名	2. 研究課題名	採択額 (千円)
1	1 一般研究 A 一般	医学学部 視能訓練学科	2 准教授	橋本 勇希	眼周囲温熱療法による全身および脈絡膜の血流変化と眼精疲労に対する効果の検討	300千円
2	1 一般研究 A 一般	医学学部 視能訓練学科	3 講師	佐々木 信	回折格子(レンチキュラーレンズ)を用いた自然視に近い立体視検査表の開発	150千円
3	1 一般研究 A 一般	医学学部 理学療法学科	4 助教	谷口 隆憲	変形性膝関節症患者の脊椎アライメントが歩行運動学に及ぼす影響	200千円
4	1 一般研究 A 一般	医学学部 理学療法学科	3 講師	池田 拓郎	ギブス不活動後の膝運動感覚機能の変化と身体動揺との関連の検討	300千円
5	1 一般研究 A 一般	言語聴覚専攻科	4 助教	豊嶋 明子	応答的態度による絵本読みが就学前期幼児の物語再生発話に与える影響	200千円
6	2 一般研究 B 奨励	医学学部 理学療法学科	3 講師	藤田 大輔	経皮的迷走神経刺激が精神ストレス後の心拍回復に及ぼす影響	200千円
7	2 一般研究 B 奨励	医学学部 作業療法学科	4 助教	平賀 勇貴	脳血管疾患患者におけるドライビングシミュレーターの特徴および神経心理学検査との関連性	250千円
8	2 一般研究 B 奨励	言語聴覚専攻科	4 助教	吉永 明史	舌面振動刺激の嚥下運動誘発に対する有効性について	80千円
9	3 教育手法研究	医学学部 言語聴覚学科	2 准教授	石川 幸伸	言語聴覚学科の学生に対する自己調整学習方略尺度の開発—信頼性と妥当性の検証	140千円
10	3 教育手法研究	看護学部看護学科	3 講師	木村 一絵	Prosocialの手法を用いた学生グループ学習の支援	30千円
11	3 教育手法研究	医学学部 作業療法学科	1 教授	丹羽 敦	診療参加型臨床実習による職業的モデル(実習指導者)の特性が作業療法学生の職業アイデンティティに与える効果	50千円
12	地域調査	医学学部 理学療法学科	3 講師	吉村 美香	住民主体とした通いの場における医療専門職としての支援方法の検討	50千円
13	臨床研究	医学学部 言語聴覚学科	3 講師	福井 恵子	聴覚情報処理障害/聞き取り困難に対する聞き取り訓練教材の作成	100千円
14	臨床研究	看護学部看護学科	3 講師	木村 一絵	地域保健における養育者向けCAREの養育スキル獲得効果の検証—ランダム化比較試験—	100千円
15	6 プロジェクト研究	医学学部 理学療法学科	1 教授	森田 正治	脳のフレイル予防プログラムの開発: 地域コミュニティの場の構築とその活用	500千円
						2,650千円

	申請件数	採択件数
2019年度	7	5
2020年度	12	5
2021年度	17	14
2022年度	25	20
2023年度	22	15

6. 国際関係

6.1 留学生・研修生 2023 年度

1) 留学生

学部	学科	学年	国籍
医療学部	作業療法学科	3年	中国
看護学部	看護学科	3年	韓国
		4年	中国

2) 海外研修生受入

韓国コニャン大学 学生 37 名 教員 3 名 2024 年 1 月 15 日～24 日

		AM	PM	夕食
1月15日	月		夕方ホテル着	
16日	火	オリエンテーション 昼：歓迎	日本の文化	学長主催歓迎会
17日	水	文化体験：九州国立博物館	文化体験：大宰府	
18日	木	日本医療福祉 学科プログラムPT	福岡山王病院見学 CO機器見学	学科懇談会
19日	金	学科プログラムNs 学科プログラムCO	学科プログラムST 学科プログラムOT	
20日	土	自由行動	自由行動	
21日	日	自由行動	自由行動	
22日	月	学生交流	西新・百道の文化を知ろう	
23日	火	文化体験：着付け、抹茶	トモダチアワー（学生交流）	
24日		ホテルチェックアウト	帰国	

6.2 国際学術活動

1) 講演：学術大会、研修会など

(1) 中国訪問中国リハセンター等：高木邦康、森田正治、丹羽敦、松浦雅子 7月27日～7月30日

(2) 韓国:学術大会参加：Maruyama Hitoshi:The 35th International Meeting of Physical Therapy Science in Korea Sept 9, 2023.

• • •

6.3 他の国際活動

1) 北京朝陽腫瘍病院 病院長他 5 名 2024 年 3 月 29-30 日 本学訪問（福岡山王病院）

6.4 海外保健福祉事情

医療学部 2年生、看護学部 3年生

1. 研修先と参加学生数

開学はじめての海外研修が開始された。各国へ221名の学生が海外研修を行われた。

国名	場所	Ns	PT	OT	CO	合計	引率教員	日程
韓国	インツジェ	3	3	3	4	13	中園寿人	8/2-8/11
	コニャン	4	18	9	12	43	池田拓郎、本居快	8/2-8/11
	テグハグ	4				4		8/2-8/11
台湾		9	3	2		14	新道由記子	8/5-8/15
中国夏		1				1	千々岩友子	8/5-8/15
ラオス					2	2		8/5-8/15
タイ夏		11		3		14	佐野伸之	8/2-8/12
ベトナム①	ホーチミン	10	6	8	2	26	丹羽敦、光武翼	8/6-8/16
	ハノイ	4	3		12	19	吉富健志、佐々木信	8/5-8/15
オーストラリア	グリフィス	7	2	3		12	藤田大輔	8/2-8/15
	TAFEG	8		1	2	11	前田和香子	8/2-8/15
	TAFEGケアンズ	2	1	3	1	7	松田隆治	8/2-8/15
カンボジア		11				11		8/5-8/15
マレーシア		5		5		10		8/5-8/15
インドネシア		9		3		12	森山ますみ	8/3-8/11
イギリス		5				5		8/5-8/15
シンガポール		3		2	1	6		8/4-8/14
シンガポールSIT			3		3	6	田中陽子	8/4-8/14
フィリピン			2			2	高野政子	9/5-9/15
モンゴル			1		2	3	森田正治	9/1-9/12
合計		96	42	42	41	221		

6.5 海外学術交流協定機関一覧

国・地域別	番号	種別	協定先	締結日	備考
中国	1	機関	中国リハビリテーション研究センター	2022年1月29日	2022年11月1日更新
韓国	2	大学	建陽大学校	2020年3月14日	
台湾	3	大学	元培醫事科技大学	2019年10月28日	
ベトナム	4	大学	ホーチミン市医科薬科大学	2019年12月13日	四者協定
		病院	国立チョーライ病院		
ミャンマー	5	大学	ヤンゴン医療技術大学	2020年8月10日	
		病院	国立リハビリテーション病院		
モンゴル	6	大学	国立モンゴル医科大学	2020年2月27日	
シンガポール	7	大学	シンガポール工科大学	2020年9月9日	
韓国	8	大学	大邱韓医大学校	2020年3月11日	
韓国	9	大学	仁済大学校	2020年7月17日	
韓国	10	大学	乙支大学校	2021年7月29日	
シンガポール	11	機関	ナンヤンポリテクニク	2020年7月13日	
ベトナム	12	大学	ハノイ医科大学	2021年2月25日	
		病院	バックマイ病院	2021年2月25日	
オーストラリア	13	機関	TAFE クイーンズランド（ケアンズ・ゴールドコースト）	2020年11月27日	
オーストラリア	14	大学	グリフィス大学	2020年12月4日	
マレーシア	15	大学	マレーシア経営科学大学	2023年6月8日	
タイ	16	大学	クリスチャン大学	2023年8月10日	
フィリピン	17	大学	フィリピン大学マニラ校	2023年12月12日	
インドネシア	18	大学	ウダヤナ大学	2024年2月1日	

6.6 協定校（日本）

1) 国際医療福祉大学

7. 地域貢献

7.1 地域公開講座

地域社会のために、公開講座及公開教室を開催している（表 7-1）。

表 7-1 2023 年度地域公開講座等

内容	講師	対象	日時
1) 公開講座			
①大人の健康		地域	2023年7月8日
認知症の理解と予防	原英夫		
脳が若返る5つの習慣	飛松省三		
②子どもの健康		地域	2023年10月21日
乳幼児期の食育	高野政子		
健やかな視機能を育むために	田村省悟		

7.2 ボランティア

2023年6月ラブアースクリーンアップに100名以上参加をはじめ、ボランティア活動が再開した。ボランティアの科目（単位認定有）が設定された。

8. 教員と業績（業績は2023年1月1日より2023年12月31日まで）

表8-1 学科長等と学年担任

学科長・担任・アドバイザー/一覧

学科	学科長		1年生担任	2年生担任	3年生担任	4年生担任
理学療法学科	学科長	森田正治	吉塚久紀 (光武翼)	池田拓郎	藤田大輔	吉村美香 谷口隆憲
作業療法学科	学科長	丹羽 敦	中園寿人 松田大輝	佐野伸之 松田大輝	松田隆治 平賀勇貴	多賀 誠 木村まり子
視能訓練学科	学科長	吉富健志	本居 快	田村省悟	松藤佳名子	潮井川修一
言語聴覚学科	学科長	為数哲司	石川幸伸 池下博紀			
看護学科	学部長（学科長）	高野政子	学科全教員がアドバイザーを担当			

8.1 学長・副学長

8.1 学長・副学長

1) 原 英夫 学長、教授

学歴：九州大学医学部卒業

博士 九州大学 医学博士

職歴：九州大学医学部付属病院神経内科

国立精神・神経研究所室長、国立長寿医療センター研究所室長

佐賀大学医学部内科学講座教授、医学部長、名誉教授

福岡国際医療福祉大学学長

資格：医師

研究内容：アルツハイマー病の病態修飾薬の開発、アミロイド血管症モデルの開発

研究業績：

Stroke risk and antithrombotic treatment during follow-up of patients with ischemic stroke and cortical superficial siderosis. *Neurology* 100 e1267-e1281, 2023.

Joan Martí-Fàbregas, Pol Camps-Renom, Jonathan G Best, et al.

Harboring Cnm-expressing *Streptococcus mutans* in the oral cavity relates to both deep and lobar cerebral microbleeds. *Eur. J. Neurol.* 30:3487-3496, 2023.

S Ikeda, S Saito, S Hosoki, S Tonomura, et al.

Hypertension, cerebral Amyloid, aGe Associated Known neuroimaging markers of cerebral small vessel disease Undertaken with stroke REgistry (HAGAKURE) prospective cohort study: baseline characteristics and association of cerebral small vessel disease with prognosis in an ischemic stroke cohort.

Frontiers in Aging Neuroscience, section Alzheimer's Disease and Related Dementias. 15:1117851, 2023.

S IKEDA, Y Yakushiji, J Tanaka, M Nishihara, et al.

Impact of Cerebral Microbleeds in Stroke Patients with Atrial Fibrillation.

Annals of Neurology 94:61-74, 2023.

Y Soo, A Zietz, B Yiu, V C. T. Mok, et al.

Scaffold-free human vascular calcification model using a bio-three-dimensional printer. *Biofabrication* 15:044101, 2023.

Y. Nagaishi, D. Murata, H. Yoshizato, T. Nonaka, M. Itoh, H. Hara, K. Nakayama.

Associations for Progression of Cerebral Small Vessel Disease Burden in Healthy Adults: The Kashima Scan Study. *Hypertension Research* 47:302-310, 2023.

T. Ide, Y. Yakushiji, K. Suzuyama, Nishihara, M. Eriguchi, A. Ogata, A. Matsumoto, M. Hara, H. Hara.

Nerve enlargement differs among chronic inflammatory demyelinating polyradiculoneuropathy subtypes and multifocal motor neuropathy.

Clinical Neurophysiology Practice 8:228-234, 2023.

M. Yoshikawa, K. Sekiguchi, H. Suehiro, S. Watanabe, Y. Noda, H. Hara, R. Matsumoto.

社会的業績

役員歴：日本神経学会専門医・指導医、評議員

日本内科学会内科認定内科医・指導医、評議員

日本認知症学会認知症専門医・指導医、元理事

日本神経免疫学会元理事

2) 丸山仁司 副学長、教授

学歴：行岡リハビリ専門学校

東京理科大学工学部、大学院修士

職歴：東京都老人医療センター、東京都板橋ナーシングホーム

東京都老人総合研究所、埼玉医科大学短期大学

国際医療福祉大学理学療法科学科科長・教授、副学長、副大学院長

福岡国際医療福祉大学副学長

資格：理学療法士、専門療法士（内部障害、基礎、教育管理）

修士（工学）博士（医学）

原著：

・ Shuangyan Shao, Tsubasa Mitsutake, Hitoshi Maruyama: Effects of Diamond Steps Exercises on Balance Improvement in Healthy Young and Older Adults: A Protocol

Proposal. *Healthcare* 2023, 11(13), 1834

・ Yuetong Zhu, Hitoshi Maruyama, Ko Onoda, Yue Zhou, Qiuchen Huang, Chunying Hu, Zhongqiu Ye, Bo Li, Zimin Wang: Body mass index combined with (waist + hip)/height accurately screened for normal-weight obesity in Chinese young adults. *Nutrition* (Burbank, Los Angeles County, Calif.) 108 111939-111939 2023年4月

講演：

1) リハビリのための心電図基礎講座1 令和5年4月15日 リハビリ科学研究会 福岡

2) リハビリのための心電図基礎講座2 令和5年6月17日 リハビリ科学研究会 東京

3) リハビリのための心電図基礎講座3 令和5年9月30日 リハビリ科学研究会 福岡

4) ひかりを灯す教育 日本リハビリテーション教育学会 令和5年12月23日

学会等発表：

1) HEONSOO HAN, HITOSHI MARUYAMA: Rotational flexibility of hip joints in young healthy Japanese adults. *JPTS* 2023:38Ⓣsuppl. 7):18 The 35th International Meeting of Physical Therapy Science in Korea Sept 9, 2023.

役員歴： 社) 理学療法科学学会理事長、日本保健科学学会 理事、評議員、編集委員

所属学会：日本リハビリテーション医学会、理学療法科学学会、日本保健科学学会、日本理学療法士協会

8.2 理学療法学科

教員：森田 正治（教授・学科長）

丸山 仁司（教授）、田川 辰也（教授：内科）、池田 拓郎（准教授）、
山之口 稔隆（講師：医療情報）、吉村 美香（講師）、吉塚 久記（講師）、
藤田 大輔（講師）、谷口 隆憲（講師）、光武 翼（講師）、邵 双燕（助教）

1) 森田 正治 学科長、教授

学歴：国立療養所福岡東病院附属リハビリテーション学院卒業（昭和61年）

学士（文学：平成8年）玉川大学文学部（現：教育学部）教育学科

博士（医学：平成16年）長崎大学大学院医学研究科社会医学系専攻後期博士課程修了

職歴：社会福祉法人佐賀整肢学園（昭和61年3月-平成2年3月）

柳川リハビリテーション学院（平成2年3月-平成13年3月）

福岡国際医療福祉学院（平成13年4月-平成24年9月）

国際医療福祉大学大学院 准教授（平成22年9月-平成25年3月）

国際医療福祉大学保健医療学部 准教授（平成24年10月-平成25年3月）

国際医療福祉大学保健医療学部 副学科長・教授（平成25年4月-平成26年3月）

国際医療福祉大学福岡保健医療学部 学科長・教授（平成26年4月-令和2年3月）

国際医療福祉大学小田原保健医療学部 学科長・教授（令和2年4月-令和5年3月）

福岡国際医療福祉大学医療学部 学科長・教授（令和5年4月-）

資格：理学療法士（昭和61年）

専門理学療法士（生活環境支援：平成21年3月）（教育・管理：平成21年3月）

役員歴：

日本理学療法士協会代議員（平成21年4月-）

理学療法科学学会評議員（平成25年4月-）

福岡県理学療法士会理事（平成15年4月-平成19年3月）

福岡県理学療法士会監事（平成27年4月-令和3年6月）

社会福祉法人こぐま福祉会評議員（平成16年4月-令和2年3月）

公益社団法人日本高等教育評価機構大学評価員（平成27-29年年度／令和5-7年度）

大川市まち・ひと・しごと創生有識者会議委員（平成27年8月-平成28年3月）

大川市まち・ひと・しごと創生総合戦略検証委員（平成29年8月1日-令和2年7月31日）

福岡県障がい者施策審議会委員（令和元年9月5日-）

日本理学療法士協会 オンラインツールを利用した新たな臨床実習指導者講習会のあり方に関する
検討会構成員（令和2年8月3日-令和4年3月31日）

小田原市おだぴよ子育て支援センター相談事業相談員（令和2年7月1日-令和5年3月31日）

小田原市支援教育相談支援チーム巡回相談員（令和2年7月8日-令和5年3月31日）

社会的活動：

早良区における福岡国際医療福祉大学の社会貢献に関する打合せ（福岡市早良区社会福祉協議会）

学会及び社会における活動等：

公益社団法人日本理学療法士協会代議員（神奈川県選出）

全国リハビリテーション学校協会（教員養成講習会講師、臨床実習指導者講習会世話人）

理学療法科学学会（評議員、査読委員）

第130回理学療法科学学会学術大会（運営／特別講演司会）

アジアリハビリテーション科学学会（査読委員）

Journal of Rehabilitation Practices and Research (The handling editor of new special issue
named “Physical Therapy: From acute care to rehabilitation and wellness”)

所属職能団体：

公益社団法人日本理学療法士協会、理学療法科学学会

2) 田川 辰也 教授

学歴：九州大学 医学部医学科 卒業
医学博士（九州大学）

職歴：九州大学医学部附属病院・研修医
山口赤十字総合病院内科・医師
九州大学医学部附属病院・医員（冠動脈疾患治療部）
日本学術振興会・特別研究員（九州大学医学部循環器内科で研究）
オーストラリア・シドニー大学生理学・特別研究員・リサーチアシスタント
北九州市立医療センター・循環器科部長
琉球大学医学部臨床薬理学講座・助教授
琉球大学大学院医学研究科薬物作用制御学分野（臨床薬理学）・助教授
西南女学院大学保健福祉学部栄養学科・教授
福岡国際医療福祉大学医療学部理学療法学科・教授

資格：医師免許
労働衛生コンサルタント（保健衛生）
日本内科学会認定総合内科専門医・認定内科医
日本循環器学会認定循環器専門医
日本高血圧学会認定高血圧専門医
日本医師会認定産業医
日本医師会認定健康スポーツ医
心臓リハビリテーション指導士

原著 1) Fujita D, Kubo Y, Tagawa T.: Effects of lower limb venous dilation on the autonomic cardiac response among healthy young men. *Healthcare*.11(4), 548, 2023.

学会発表

社会的活動

地域活動への参加・協力：福岡市ニコニコペース健康教室に協力

所属職能団体

日本内科学会、日本循環器学会、日本高血圧学会・評議員、日本栄養改善学会、日本医師会、日本労働安全衛生コンサルタント会、九州大学医学部同窓会（同窓会名簿編集委員）

3) 池田 拓郎 准教授

学歴：佛教大学 社会学部 学士（社会学）
国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科 修士（保健医療学）
国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科 博士（保健医療学）

職歴：国際医療福祉大学 福岡保健医療学部 理学療法学科 助教、講師
国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科 助教、講師
福岡国際医療福祉大学 医療学部 理学療法学科 非常勤講師
福岡国際医療福祉大学 医療学部 理学療法学科 講師、准教授（現在に至る）
国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科 特別講師、特別准教授（現在に至る）

資格：理学療法士

原著 1) Takuro Ikeda Shinichiro Oka Junya Tokuhiko Akari Suzuki Kensuke Matsuda. Short-Term Cast Immobilization of a Unilateral Lower Extremity and Physical Inactivity Induce Postural Instability during Standing in Healthy Young Men. *Healthcare*. 11(18):2525, 2023.
2) Takuro Ikeda, Koichi Takeda, Masashi Ikeda. *Journal of Back and Musculoskeletal Rehabilitation*. 36(4):941-946, 2023.
3) Kensuke Matsuda, Takuro Ikeda, Ryota Okoba, Yoshio Takano. Associations of Physical Activity with Mental Health and Health Literacy among Medical University Students during The Coronavirus Disease 2019 Pandemic. *Journal of Asian Rehabilitation Science*

6(4):46-52, 2023.

- 4) 小林 昂将, 池村 健, 裴 東海, 横川 武, 山内 匡也, 池田 拓郎, 堀本 ゆかり. 理学療法士管理者の経験学習プロセスの調査 -学習支援方法の提案に向けて-. 日本リハビリテーション教育学会誌. 6(3), 116-134, 2023.

総説 1) 池田 拓郎, 後藤 純信: 経頭蓋直流電気刺激 (tDCS) と半側空間無視. 精神科, 43(4):444-449, 2023. 学会発表

- 1) 小金丸 大我, 生駒 凌一, 池田 拓郎. ギブス不活動後の膝固有感覚と片脚立位姿勢調節の急性変化. 第130回理学療法科学学会学術大会, 神奈川県, 2023. 1.
- 2) 野中 嘉代子, 池田 拓郎, 堀本 ゆかり. 理学療法士の職業的アイデンティティ仮尺度の内容妥当性の検討. 第36回教育研究大会・教員研修会, 大阪府, 2023. 8.
- 3) Takuro Ikeda, Naoki Nomura, Shinichiro Oka, Akari Suzuki, Kensuke Matsuda. Relationship between Upright stance and Foot Sole Sensation after Short Term Movement Restriction of the Unilateral Lower Extremity. The 35th International Meeting of Physical Therapy Science in Korea, Korea, 2023. 9.
- 4) 松田 憲亮, 村井 逸晟, 江頭 陽介, 大古場 良太, 池田 拓郎, 高野 吉朗. 転倒リスクを伴う骨格筋量減少高齢者は実行機能課題中の股関節運動の累積角度が増大する. 第12回日本運動器理学療法学会, 福岡県, 2023. 10.
- 5) 後藤 和彦, 杉 剛直, 池田 拓郎, 山崎 貴男, 飛松 省三, 後藤 純信. 視差勾配の違いが自己運動知覚に与える影響: 視覚誘発電位の特徴解析. 第53回日本臨床神経生理学会学術大会, 福岡県, 2023. 11.
- 6) 緒方 勝也, 松野 豊, 池田 拓郎, 後藤 純信. 正中神経と尺骨神経同時刺激による手内筋F波はTMSで促通する. 第53回日本臨床神経生理学会学術大会, 福岡県, 2023. 11.
- 7) 野中 嘉代子, 池田 拓郎, 堀本 ゆかり. 理学療法士の職業的アイデンティティ仮尺度の信頼性の検証. 第12回日本理学療法教育学会学術大会, 埼玉県, 2023. 12.
- 8) 佐々木 圭太, 金子 秀雄, 池田 拓郎, 堀本 ゆかり. 理学療法学科学生の非認知能力と学業成績との関連 - 時間的焦点とグリットに着目して. 第19回日本リハビリテーション教育学会学術大会, 東京都, 2023. 12.

研究費取得

- 1) 池田 拓郎: 加齢による立体運動視の脳内神経ネットワークの変化と転倒との因果関係の検討. 日本学術振興会科学研究費助成事業 若手研究. ~2024年3月迄.
- 2) 池田 拓郎: ギブス不活動後の膝運動感覚機能の変化と身体動揺との関連の検討. 令和5年度学内研究費.

学会及び社会における活動等

- 1) 第53回日本臨床神経生理学会学術大会 プログラム委員 (2022年11月~2023年11月)
- 2) 第53回日本臨床神経生理学会学術大会 シンポジウム: 職種による神経生理へのアプローチ. オーガナイザー.
- 3) 第53回日本臨床神経生理学会学術大会 ハンズオンセミナー: 視覚誘発電位 (VEP). コーディネーター, 座長
- 4) 第20回日本リハビリテーション教育学会学術大会. 一般口述演題. 座長
- 5) Brain Science. Academic Editor: Special Issue "Advances in Research on Brain Health and Dementia: Prevention and Early Detection of Cognitive Decline and Dementia"
- 6) 2023年原著論文査読 14編 (和文12編, 英文2編)
- 7) 2023年度臨床実習指導者3校合同講習会, 講師, 世話人 (会場: 福岡国際医療福祉大学, 2023年12月16-17日)

所属職能団体

公益社団法人日本理学療法士協会, 日本臨床神経生理学会 (代議員), 理学療法科学学会, 日本ヘルスプロモーション理学療法学会

4) 山之口 稔隆 講師

学歴：福岡大学大学院医学研究科 社会医学専攻 博士課程後期 修了

職歴：(株) 日立メディコ

九州大学病院

福岡大学病院

九州大学 インスティテューショナル・リサーチ室

福岡国際医療福祉大学 医療学部 理学療法学科

資格：博士 (医学) (福岡大学)

日本医療情報学会認定 上級医療情報技師

日本医療情報学会認定 上級医療情報技師育成指導者

原著

1) Morinaga A, Iwanaga K, Maki K, Ueno T, Kawano K, Funakoshi S, Yamanokuchi T, Tsuji M, Abe M, Satoh A, Kawazoe M, Maeda T, Yoshimura C, Takahashi K, Tada K, Ito K, Yasuno T, Kawanami D, Masutani K, Arima H.: Association between serum ALT levels and incidence of new-onset diabetes in general population of Japanese: a longitudinal observational study (ISSA-CKD) : BMJ open, 13(8), e074007, 2023. 08

2) Imabayashi S, Hashimoto Y, Ishimaru Y, Umemoto R, Yamanokuchi T, Yoshitomi T.: Changes in Choroidal Circulation Hemodynamics Measured Using Laser Speckle Flowgraphy after a Cold Pressor Test in Young Healthy Participants. Tomography (Ann Arbor, Mich.) 9(2) 790-797 2023

3) Mimata R, Yamanokuchi T, Maeda T, Arima H, Akiyoshi K. Relationship between minute-to-minute variability of intraoperative arterial blood pressure and postoperative acute kidney injury in patients undergoing noncardiac surgery, Med. Bull. Fukuoka Univ., 50(1) 29-34 2023

4) Hashimoto Y, Imabayashi S, Umemoto R, Yamanokuchi T, Yoshitomi T.: Changes in Choroidal Blood Flow by Diurnal Variation in Healthy Young Adults, Open Ophthalmology Journal 17 2023

研究費取得

1) 山之口稔隆：慢性腎臓病（CKD）重症度分類と潜在性動脈硬化との関連を解明する疫学的検討，科研費（若手研究）代表，2022-2025，継続

社会的活動

地域活動への参加・協力

福岡大学大学院公衆衛生学講座では、福岡県（2020年度は、主に那珂川市）で健康診断を受ける40歳以上の男女に研究説明を行い、同意取得できた方を対象として疫学調査を実施し、動脈硬化性疾患の危険・予防因子を明らかにし、超高齢化社会の日本に必要とされる動脈硬化性疾患の一次予防に関する知見を得ることが期待できる。私は、福岡大学医学研究科研究員として本事業に参加し、那珂川市健診サポート及び情報収集、情報分析等の研究活動を行い、論文執筆に向けた準備を行っている。

所属職能団体

日本医療情報学会、日本公衆衛生学会、データサイエンティスト協会

その他機関

福岡大学 医学部 研究員

帝京大学 福岡医療技術学部 非常勤講師

5) 吉村 美香 講師

学歴：専門学校 柳川リハビリテーション学院 夜間部 理学療法学科 卒業
国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究所 修士課程 修士 (保健医療学)
国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究所 博士課程 博士 (保健医療学)

職歴：医療法人せいわ 聖和記念病院
志摩老健センター・パキス
学校法人高木学園 福岡国際医療福祉学院
学校法人高木学園 福岡国際医療福祉大学

資格：理学療法士 介護支援専門員 博士 (保健医療学)

学会発表

1) 吉村美香：通所リハビリテーション利用者におけるフレイルの現状と転倒リスクとの関連. 国際医療福祉大学学会学術大会, 2023年9月3日

研究費取得

1) 吉村 美香：就労能力と転倒災害防止策の現状分析による高齢労働者の転倒災害低減に向けた研究. 科研費 (若手研究) 代表, 2023-2025, 新規
2) 吉村 美香：住民を主体とした通いの場における医療専門職としての支援方法の検討.
令和5年度学内研究費.

社会的活動

地域活動への参加・協力：介護予防型個別支援会議 (福岡市早良区)
地域リハビリテーション活動支援事業 (福岡市理学療法士派遣事業)

所属職能団体

日本理学療法士協会
福岡県理学療法士会 (社会局職能部 部長)

6) 吉塚 久記 講師

学歴：福岡国際医療福祉学院 (現：福岡国際医療福祉大学) 理学療法学科 卒業
佐賀大学大学院 医学系研究科 修士課程医科学専攻 修了
佐賀大学大学院 医学系研究科 博士課程医科学専攻 修了

職歴：特定医療法人弘医会 福岡鳥飼病院 理学療法士
専門学校 柳川リハビリテーション学院 理学療法学科 専任教員
佐賀大学医学部 生体構造機能学講座 解剖学・人類学分野 客員研究員
国際医療福祉大学大学院 特別講師

資格：理学療法士、専門理学療法士 (基礎理学療法)、認定理学療法士 (学校教育)

修士 (医科学) 佐賀大学

博士 (医学) 佐賀大学

原著

1) 黒川洸成, 長澤由香子, 光武 翼, 吉塚久記：腓腹筋に対する超音波療法の照射部位の違いが筋硬度に及ぼす影響：ストレインエラストグラフィを用いた解析. 物理療法科学 30(1): 76-82, 2023.

学会発表

1) 光武 翼, 中菌寿人, 谷口隆憲, 吉塚久記：右後部頭頂皮質に対する異なる経頭蓋電気刺激波形が下肢関節角速度による姿勢制御反応に及ぼす影響. 第2回日本前庭理学療法研究会学術集会 (群馬), 2023.

2) Yoshizuka H, Nakao Y, Kuraoka A: Inversion enhances tensioner effect by the calcaneofibular ligament: A pilot study using pressure sensitive sensor on cadavers. 16th Asian Confederation for Physical Therapy Congress (Thailand), 2023.

研究費

1) 吉塚久記：長腓骨筋の機能向上に最適な運動課題の開発：機能解剖学的知見を基盤とした筋電図解析. 科研費 (若手研究) 代表, 2021-2024, 継続

- 2) 倉岡晃夫, 吉塚久記: 感圧測定システムによる踵腓靭帯の機能解析〜靭帯損傷のテーラーメイド予防を目指して. 科研費 (基盤研究C) 分担, 2021-2024, 継続

社会的活動

- 1) 臨床実習指導者講習会, 講師 (久留米リハビリテーション学院, 福岡) 2023年9月3日
- 2) 臨床実習指導者講習会, 講師 (九州栄養福祉大学, 福岡) 2023年10月15日
- 3) 臨床実習指導者講習会, 講師 (福岡国際医療福祉大学, 福岡) 2023年12月16日
- 4) 原著論文の査読: 2023年4編 (Scientific Reports, BMC Musculoskeletal Disorders, Journal of Physical Therapy Science, 理学療法科学)

所属職能団体

日本理学療法士協会, 日本基礎理学療法学会, 日本理学療法教育学会, 福岡県理学療法士会, 日本解剖学会, 理学療法科学学会

7) 藤田 大輔 講師

学歴: 聖隷クリストファー大学

聖隷クリストファー大学大学院 博士(リハビリテーション科学)

職歴: ケアハウス第2アドナイ館

磐田市立総合病院

健康科学大学 理学療法学科

資格: 理学療法士, 博士

原著

- 1) Fujita D, Kubo Y, Tagawa T.: Effects of lower limb venous dilation on the autonomic cardiac response among healthy young men. Healthcare. In press.
- 2) Tsubasa Mitsutake, Takanori, Taniguchi, Daisuke Fujita, Hisato Nakazono: Effects of passive interpersonal light touch during walking on postural control responses: An exploratory study. Human movement science.
- 3) Tsubasa Mitsutake, Hisato Nakazono, Tomoyuki Shiozaki, Daisuke Fujita, Maiko Sakamoto: Changes in vestibular-related responses to combined noisy galvanic vestibular stimulation and cerebellar transcranial direct current stimulation. Experimental brain research

学会発表

- 1) 久保裕介, 杉山秀平, 藤田大輔, 他: 人工膝関節全置換術後の虚血再灌流障害に対する術前4週間の血流制限下運動の効果. 第11回日本運動器理学療法学会大会, 福岡, 2023年10月.
- 2) 大澤一貴, 小椋遼治, 伊豫田朗, 藤田大輔: 慢性閉塞性肺疾患合併肺がん患者における術後6分間歩行距離の臨床的意義のある最小変化量. 第33回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会, 宮城, 2023年12月.

研究費取得

[継続] 科研費 若手研究「慢性心不全患者における呼吸困難感に関連する新しい因子の同定」

2020-2023年度

学内研究費「経皮的迷走神経刺激が精神ストレス後の心拍回復に及ぼす影響」

社会的活動

地域活動への参加・協力

地方自治体の事業への協力: 山梨県昭和町の介護予防に関する研究に携わる

所属職能団体

福岡県理学療法士会(福岡県理学療法士養成校連絡協議会 委員)

8) 谷口 隆憲 講師

学歴：福岡国際医療福祉学院 理学療法学科 卒業

国際医療福祉大学大学院 医療福祉研究科 修士課程 修了

国際医療福祉大学大学院 医療福祉研究科 博士課程 修了

職歴：社会医療法人財団白十字会 白十字病院 リハビリテーション科

医療法人正明会 諸岡整形外科病院 リハビリテーション部

医療法人育優会 さくらクリニック リハビリテーション科

学校法人高木学園 福岡国際医療福祉学院 理学療法学科

資格：理学療法士、認定理学療法士（運動器）

修士、博士（保健医療学）

原著

- 1) Tsubasa Mitsutake, Hisato Nakazono, Takanori Taniguchi, Hisayoshi Yoshizuka, Maiko Sakamoto. Effects of transcranial electrical stimulation of the right posterior parietal cortex on physical control responses. *Neuroscience Letters* 818 137565-137565, 2023.
- 2) 井上 大樹, 安心院朗子, 谷口隆憲. 靴のサイズ適合性が高齢者の歩行安定性へ及ぼす影響. *日本予防理学療法学会雑誌* 3(1) 51-56 2023年.
- 3) Yuichi Kurita, Takumi Okumura, Ryota Imai, Tomohiko Nishigami, So Tanaka, Takanori Taniguchi. Stair-Climbing Training System Using Visual VR Display for Total Knee Arthroplasty Patients. *Journal of Robotics and Mechatronics* 35(3) 612-621, 2023.
- 4) Tsubasa Mitsutake, Takanori Taniguchi, Daisuke Fujita, Hisato Nakazono. Effects of passive interpersonal light touch during walking on postural control responses: An exploratory study. *Human Movement Science* 87 103051-103051, 2023.

学会発表

- 1) 田中創, 谷口隆憲, 松田秀策, 徳永真巳, 吉本隆昌. 末期変形性膝関節症における内側脛骨大腿関節の bone marrow lesions には歩行時の内側広筋と半腱様筋の共収縮が関連する. 第1回日本膝関節学会, 2023年12月8日.
- 2) 橋本 勇希, 谷口 隆憲, 一木 咲良璃, 上原 萌花, 中崎 愛海. VDT 作業における眼精疲労と眼血流および僧帽筋弾性率の関連. 第13回国際医療福祉大学学会学術大会, 2023年9月3日.
- 3) 谷口隆憲. 変形性膝関節症患者の疼痛関連因子と下肢関節運動の関連性. 第13回国際医療福祉大学学会学術大会, 2023年9月3日.
- 4) 山中愛莉, 石隈就也, 吉田弘樹, 村上真由美, 谷口隆憲, 相良亜木子. 脆弱性脊椎圧迫骨折患者の入院時栄養不良と予後の関係. 第60回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2023年7月1日.
- 5) 宜喜雅人, 氷室千尋, 吉田弘樹, 村上真由美, 谷口隆憲, 相良亜木子. 骨粗鬆症性脊椎圧迫骨折患者のサルコペニアの有無と予後の関係. 第60回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2023年6月30日.
- 6) 谷口 隆憲, 田中 創, 西上 智彦. 末期変形性膝関節症患者における歩行評価と患者立脚型評価の関連性. 第27回日本ペインリハビリテーション学会学術大会, 2023年6月25日.
- 7) 光武 翼, 中藪寿人, 谷口隆憲, 吉塚久記. 右後部頭頂皮質に対する異なる経頭蓋電気刺激波形が下肢関節角速度による姿勢制御反応に及ぼす影響. 第2回日本前庭理学療法研究会学術集会, 2023年6月11日.
- 8) 田中創, 谷口隆憲, 西上智彦, 徳永真巳. 変形性膝関節症に対する長期的な足底挿板の使用は変性進行予防や Bone marrow lesions の改善に有効か? ~末期変形性膝関節1症例の1年間の変化~. 第32回福岡県理学療法士学会, 2023年5月21日. (優秀賞)

講演等

- 1) 第16回日本運動器疼痛学会 シンポジウム10「ペインリハビリテーションの実際」, 2023年11月4日. (共同演者)
- 2) 第11回日本運動器理学療法学会学術大会 ナイトセミナー「臨床におけるバイオメカニクス研究の工夫」, 2023年10月13日.

研究費取得

- 1) 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C). 脈絡膜変化に着目した眼精疲労の新たな他

- 覚的評価法の開発. (研究分担者) [新規]
- 2) 学内研究費 一般研究. 変形性膝関節症患者の脊椎アライメントが歩行運動学に及ぼす影響. [新規]
 - 3) 日本学術振興会 科学研究費助成事業 若手研究. 運動恐怖を有する変形性膝関節症者の運動学的評価と電気刺激を併用した運動療法の開発. (研究代表者) [継続]
 - 4) 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(B). 日常的運転行動記録と下肢の自己受容感覚解析によるペダル踏み間違い事故の要因解明. (研究分担者) [継続]

社会的活動

地域活動への参加・協力:

その他: 臨床実習指導者講習会 世話人

所属職能団体

公益社団法人日本理学療法士協会

公益社団法人福岡県理学療法士会 (福岡支部 2 地区 運営委員, 代議員)

一般社団法人 日本運動器理学療法学会 (評議員, 広報委員)

8.3 医療学部 作業療法学科

教員：丹羽敦（教授・学科長）

副島修（教授：整形外科）、佐伯和彦（教授：整形外科）、松田隆治（准教授）、多賀誠（准教授）
中藪寿人（准教授）、佐野伸之（講師）、木村まり子（助教）、平賀勇貴（助教）、松田大輝（助教）

1) 丹羽 敦 教授

学歴：熊本リハビリテーション学院 作業療法学科

北九州大学 外国語学部 英米学科 卒業 学士（外国語）

国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科 保健医療専攻修了

職歴：慈恵曽根病院リハビリテーション科作業療法室長・地域医療サービス部兼務

柳川リハビリテーション学院 作業療法学科 専任教員

国際医療福祉大学 保健学部 作業療法学科 助手

福岡国際医療福祉学院 作業療法学科作業療法学科主任

国際医療福祉大学 福岡リハビリテーション学部 講師、准教授

広島都市学園大学 健康科学部 作業療法学 教授、専攻長、大学院教授

学校法人 高木学園 福岡国際医療福祉大学 医療学部 作業療法学科 教授

JICA（国際協力事業団）の「中国リハビリテーション専門職養成プロジェクト」の作業療法専門家 専門家リーダー中国リハビリテーション研究センター（北京市）（2001年8月 平成14年5月まで（平成2006年6月平成18年8月まで）

資格：作業療法士免許証、介護支援専門員（ケアマネージャー）、福祉用具プランナー

修士（保健医療学）2001年3月、認定作業療法士2004年4月1日

著書：

<資料・教本作成>

1)（一社）日本作業療法士協会 養成教育委員会：MTDLP を活用した作業療法参加型臨床実習ガイド、P7-8 執筆、2023年3月1日、（一社）日本作業療法士協会

2)（一社）日本作業療法士協会 養成教育委員会：作業療法臨床実習の手引き【実践編】、編集およびP9-12 執筆、2023年9月4日、日本作業療法士協会。

講演：

1) 沖縄県回復期リハビリテーション病棟 第34回研修会

テーマ：「新時代の育成～リアルをカラフルに」 2023年5月12日（Web）

学会発表：

1) 角田孝行、丹羽 敦、谷川良博、永井邦明：作業の持つ意味を作業療法初年次生はどう捉えているか - 経時的変化の検討、第36回教育研究大会・教員研修会、2023年8月26日

2) 小林幸治、徳地亮、松本嘉次郎、丹羽敦、鈴木孝治：作業療法教育ネットワークとしてのMTDLP 推進協力校連絡会の活動、第28回日本作業療法教育学会学術大会、2023年11月5日

社会的活動：

1) 所属職能団体

日本作業療法士協会

・教育部 養成教育委員会 副委員長（3月まで） ・教育部 教育審議委員会 委員長（4月より）

・教育部養成教育課 全国作業療法士学校養成施設連絡会担当班 班長 および指定規則・カリキュラム検討コア委員

福岡県作業療法協会 副会長

2) 厚労省指定 臨床実習指導者講習会 講師および運営（3回/年）

3) 日本作業療法協会主催・厚労省後援 臨床実習指導実践研修会 講師および運営（3回/年）

2) 厚労省指定 臨床実習指導者講習会 講師および運営（3回/年）

3) 日本作業療法協会主催・厚労省後援 臨床実習指導実践研修会 講師および運営（3回/年）

2) 松田 隆治 准教授

学歴：熊本リハビリテーション学院作業療法学科卒業
明星大学人文学部心理・教育学科卒業
日本大学大学院総合社会情報研究科人間科学専攻修士課程修了
九州保健福祉大学大学院保健科学研究科博士課程単位取得後退学

職歴：厚生年金事業振興団 湯布院厚生年金病院
吉備国際大学保健科学部作業療法学科助手
九州保健福祉大学保健科学部作業療法学科講師
熊本総合医療リハビリテーション学院作業療法学科講師
九州栄養福祉大学リハビリテーション学部作業療法学科講師
帝京大学福岡医療技術学部作業療法学科准教授
福岡国際医療福祉大学医療学部作業療法学科准教授

資格：作業療法士免許、人間科学修士

社会的活動：

研修会等への参加・協力

福岡県作業療法協会臨床実習指導者講習会世話人

熊本県作業療法士会現職者講習会講師「実践のための作業療法研究」

全国リハビリテーション学校協会臨床実習指導者講習会福岡県連絡校 OT 担当

全国リハビリテーション学校協会臨床実習指導者講習会世話人

地域活動への参加・協力

地域ケア会議（大牟田市手鎌地区）

所属職能団体

日本作業療法士協会、福岡県作業療法協会

3) 多賀 誠 准教授

学歴：労働福祉事業団 九州リハビリテーション大学校 作業療法学科
国際医療福祉大学大学院 保健医療学専攻 作業療法学分野 修了

職歴：医療法人 慈光会 若久病院

精神障害者地域生活援助事業所グループホーム若久荘

精神障害者社会適応訓練事業所ソシエテわかひさ

柳川リハビリテーション学院 作業療法学科

JICA（国際協力機構）より専門家として中国北京へ派遣

福岡国際医療福祉学院 作業療法学科

国際医療福祉大学福岡保健医療学部講師、准教授・大学院准教授

福岡国際医療福祉大学 医療学部 作業療法学科 准教授

資格：作業療法士

修士（保健医療学）

社会的活動：

役員歴：福岡・佐賀精神科 OT 懇話会（現福岡県精神科病院協会 OT・PT 会）筑後ブロック長

福岡ブロック運営委員、福岡・佐賀精神科 OT 懇話会

福岡県作業療法協会 規約委員、将来構想委員、福岡市体育振興会

日本作業療法士協会 教育部 生涯教育運営委員

九州作業療法士学校連絡協議会 OT 啓発プロジェクト実行委員、新人教員教育実行委員

特定非営利活動法人とびら 理事

4) 中菌 寿人 准教授

学歴：メディカルカレッジ青照館 卒業

九州大学大学院医学系学府 医科学専攻修了 医科学修士 修了

九州大学大学院医学系学府 医学専攻修了 博士（医学） 修了

職歴：熊本機能病院 総合リハビリテーション部

麻生介護サービス アップルハート訪問看護ステーション福岡西

九州大学大学院医学系学府 ティーチングアシスタント

九州大学大学院医学系学府 リサーチアシスタント

日本学術振興会特別研究員 (DC1)・(PD)

福西会南病院 リハビリテーション部

資格：作業療法士

修士（医科学）、博士（医学）

原著：

- 1) Watanabe A, Sawamura D, Nakazono H, Tokikuni Y, Miura H, Sugawara K, et al. Transcranial direct current stimulation to the left dorsolateral prefrontal cortex enhances early dexterity skills with the left non-dominant hand: a randomized controlled trial. J. Transl. Med. 21: 143, 2023.
- 2) Mitsutake T, Taniguchi T, Fujita D, Nakazono H. Human Movement Science Effects of passive interpersonal light touch during walking on postural control responses: An exploratory study. Hum. Mov. Sci 87: 103051, 2023.
- 3) Tanaka M, Yamada E, Yamasaki T, Fujita T, Nakaniwa Y, Ogata K, Nakazono H, Maekawa T, Tobimatsu S. Asynchronous neural oscillations associated with subliminal affective face priming in autism spectrum disorder. Neuroreport 34: 150-155, 2023.

学会発表：

- 1) 渡邊陽裕, 時國幸奈, 三浦拓, 中菌寿人, 澤村大輔. 非利き手の巧緻動作に対する左背外側前頭前野への経頭蓋直流電気刺激の効果—二重盲検無作為化比較試験—. 第14回日本ニューロリハビリテーション学会学術集会. 2023年4月. 北九州国際会議場 (福岡).
- 2) 時國幸奈, 渡邊陽裕, 三浦拓, 中菌寿人, 澤村大輔. 左背外側前頭前野における経頭蓋電気刺激がワーキングメモリに及ぼす影響—tDCSとtRNSの直接比較—. 第14回日本ニューロリハビリテーション学会学術集会. 2023年4月. 北九州国際会議場 (福岡).
- 3) Hagiwara K, Nakazono H. Frontal alpha activity rendered painful seizures non-painful in a case of insular lobe epilepsy. The 18th European Congress of Clinical Neurophysiology. 2023, May. France.

講演：

- 1) 中菌寿人. シンポジウム：作業療法と臨床神経生理学 神経振動に注目した新たなニューロモデュレーションの開発. 第53回日本臨床神経生理学会. 2023年11月. 福岡国際会議場 (福岡).

研究費取得：

- 1) 中菌寿人. 運動野に可塑性を誘導する新規非侵襲的脳刺激法の開発：その神経基盤と臨床応用. 日本学術振興会 基盤研究(B) 2022年 - 2025年. (代表)
- 2) 光武翼. ノイズ前庭電気刺激の姿勢安定性に関する多角的研究. 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(B) 2020- 2023年度. (分担)
- 3) 松藤佳名子. キメラ視覚画像刺激を用いた半側空間無視におけるプリズム順応効果の検証. 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 2021- 2023年度. (分担)
- 4) 緒方勝也. 脳状態依存刺激を活用した手指分離運動の神経基盤解明とリハビリへの応用. 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 2021- 2024年度. (分担)

5) 佐野 伸之 講師

学歴：吉備国際大学保健科学部作業療法学科 卒業

吉備国際大学大学院保健科学研究科保健科学専攻修士課程、博士課程 修了

職歴：一般財団法人津山慈風会津山中央病院 作業療法士

株式会社アール・ケア 作業療法士

吉備国際大学保健医療福祉学部作業療法学科 ティーチングアシスタント

神戸医療福祉大学社会福祉学科 非常勤講師

吉備国際大学保健医療福祉学部作業療法学科 講師)

国際医療福祉大学福岡保健医療学部作業療法学科 講師)

福岡国際医療福祉大学医療学部作業療法学科 講師)

資格：作業療法士、認定作業療法士、作業療法士実習指導者

修士 (保健学)、博士 (保健学)

原著：

- 1) Nakamura-Thomas H, Sano N, Maciver D: Factors influencing junior high school students' perceptions of attending school in Japan. Child and Adolescent Psychiatry and Mental Health 17 (86), 2023
- 2) Minami S, Kobayashi R, Horaguchi T, Kondo K, Ishimori T, Aoki H, Fukumoto Y, Sano N, Shinoda A, Hashimoto K, Aoyama T: Purposeful activity-based electrical stimulation therapy promoted adaptability to daily life for a patient with moderate/severe upper extremity paralysis after a chronic stroke: a case report. COGNITION & REHABILITATION 4 (1): 54-58, 2023

講演：

- 1) 令和5年度福岡県作業療法士協会 第2回SV講習会 講義5 職業倫理および連携論 (講師), 2023年9月23-24日
- 2) 令和5年度 高邦会OT技術教育研修会:「臨床研究のファーストステップ～事例報告に向けた準備～」 (講師), 2023年6月23日
- 3) 百道浜公民館事業 第2回認知症講座:「はやめはやめの認知症予防」 (講師), 2023年8月30日

学会発表：

- 1) 中村裕美, 佐野伸之, 森正樹, 上原美子, 森田満里子: 中学校の通学認識に関連する要因の探索的解明—6429名の横断的調査—. 第57回日本作業療法学会, 2023
- 2) 松本健太郎, 佐野伸之: リハビリテーションに関する達成動機尺度に基づく自己評定法と面接法, 歩数計を併用した介入. 第57回日本作業療法学会, 2023

研究費取得：

- 1) 佐野伸之: 達成動機の本質に基づく客観的評価法の開発と介入プログラムの作成. 科学研究費助成事業 若手研究 (代表者) 2020年4月-2024年3月

社会的活動：

所属職能団体

日本作業療法士協会：日本作業療法学会演題審査委員 (2018年1月～現在)

福岡県作業療法士会：福岡県作業療法学会査読委員 (2019年7月～現在), ジャーナル「作業療法・福岡」論文査読委員 (2019年9月～現在)

九州作業療法学会：九州作業療法学会 演題査読者 (2020年1月～現在)

日本臨床作業療法学会：学術誌「日本臨床作業療法研究」査読委員 (2020年10月～現在), 「日本臨床作業療法研究」編集委員 (2021年4月～現在)

6) 木村 まり子 助教

学歴：熊本リハビリテーション学院 作業療法学科 卒業

国際医療福祉大学大学院医療福祉学研究科 作業療法学分野 修士課程 修了

国際医療福祉大学大学院医療福祉学研究科 作業療法学分野 博士課程 修了

職歴：社会福祉法人こぐま福祉会 肢体不自由児通園施設こぐま学園

おがた小児歯科医院 発達保育科

熊本県福祉総合相談所 発達障害児通園指導事業

玉名市・荒尾市社会福祉協議会 在宅障害児指導事業

久山町・粕屋町ことばの教室

介護老人保健施設 ケアプラザ伊都

福岡国際医療福祉学院

福岡国際医療福祉大学

資格：作業療法士、作業療法士実習指導者、介護支援専門員、感覚統合療法認定セラピスト/認定講習会インストラクター、修士（保健医療学）、博士（保健医療学）

原著：

- 1) 木村まり子：「気になるこども」を担当する保育士に対する作業療法士による発達臨床コンサルテーションの効果. 西九州リハビリテーション研究 16:7-12, 2023

学会発表：

- 1) 木村まり子：ウェイトッドブランケットの重量の違いにおける自律神経活動への影響
第13回国際医療福祉大学学会学術大会 2023年9月3日 国際医療福祉大学大田原キャンパス

研究費取得：なし

社会的活動：

地域活動への参加・協力

博多区内の保育園におけるコンサルテーション

博多区内の児童発達支援施設におけるコンサルテーション

所属職能団体

日本感覚統合学会：事業局；認定講習部/教育局；資格認定部

7) 平賀 勇貴 助教

学歴：九州大学大学院医学系学府医療経営管理学専攻修了

国際医療福祉大学大学院医療福祉学研究科保健医療学専攻修了

職歴：福岡豊栄会病院

福岡リハビリテーション病院

国際医療福祉大学福岡医療学部作業療法学科

資格：作業療法士，認定作業療法士，福祉住環境コーディネーター2級

AMPS 認定評価者，作業療法士実習指導者

受賞：吉田裕作，平賀勇貴：幼稚園への発達支援コンサルテーションを通して明確化された作業療法士の可能性. 第27回福岡県作業療法学会，優秀賞.

原著：

- 1) Yuki Hiraga, Ryusei Hara, Yoshiyuki Hirakawa, Shinya Hisano, Eiji Kitajima, Katsuko Hida: Effects of Occupational Therapy Practice on Patient Outcomes after High Tibial Osteotomy: A Non-randomized Study in Japan. Occupational therapy in health care 1-16, 2023.
- 2) 川上隆三，平賀勇貴，許山勝弘，平川 善之：階段昇降への恐怖に対し段階的暴露療法を併用した作業療法実践により目標達成に至った人工膝関節置換術後の事例. 作業療法ジャーナル 57(9):1091-1095, 2023.
- 3) Ryusei Hara, Yuki Hiraga, Yoshiyuki Hirakawa: Occupational Therapy Practice With Cognitive

Behavioral Therapy for Early Postoperative Pain: A Case Report. Cureus 15(9), 2023.

- 4) Yuki Hiraga, Ryusei Hara, Yoshiyuki Hirakawa, Eiji Kitajima, Katsuko Hida: Psychological Factors Mediate the Relationship between Physical Activity and Goal Attainment for Occupational Therapy Practice: An Observational Study in Japan. Occupational Therapy In Health Care 1-19, 2023.

講演:

- 1) 第26回福岡県作業療法学会 教育セミナー 2月4日
「エビデンスに基づく作業療法介入—研究を臨床につなげる意義—」
- 2) リハガクオンライン 2月15日
「疼痛の作業療法—エビデンスに基づいた評価を学ぶ—」
- 3) リハガクオンライン 2月22日
「疼痛の作業療法—エビデンスに基づいた介入を学ぶ—」
- 4) 鹿児島県作業療法士協会 12月1日
「クリニカル・クエスチョンからの文献検索」

研究費取得:

- 1) 原竜星, 平賀勇貴, 平川善之: 人工膝関節術後の疼痛および心理的要因に対する coping skills を用いた作業療法実践の効果と術後早期における coping skills の特徴. 福岡県作業療法協会 次世代を担う研究助成事業. 2022年4月-2023年3月 (研究分担者).
- 2) 平賀勇貴: 脳血管疾患患者におけるドライビングシミュレーターの特徴および神経心理学検査との関連性. 令和5年度学内研究費. 2023年4月-2024年3月 (代表者).

社会的活動:

所属職能団体

- 日本作業療法士協会: 学術部, 学術誌「作業療法」編集委員
日本作業療法学会演題査読委員
福岡県作業療法協会: 教育部コア研修, 学術誌「作業療法・福岡」第一査読者
福岡県作業療法学会演題査読委員
日本ペインリハビリテーション学会: 代議員, ガイドライン委員会
日本ペインリハビリテーション学会演題査読委員
九州作業療法学会: 九州作業療法学会演題査読委員

8) 松田 大輝 助教

学歴: 長崎大学 医学部 保健学科 作業療法学専攻 卒業

長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 保健学専攻 修士課程 修了

長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 医療科学専攻 博士課程 修了

職歴: 医療法人 真和会 山中内科消化器科医院

日本赤十字社 長崎原爆病院

福岡国際医療福祉大学医療学部作業療法学科 助教

資格: 作業療法士, 修士 (作業療法学)、博士 (医学), 作業療法実習指導者,

社会的活動:

所属職能団体

- 日本作業療法士協会, 福岡県作業療法協会,
九州作業療法学会: 九州作業療法学会演題査読委員
日本作業療法研究学会: 日本作業療法研究学会演題査読委員

研究費取得:

- 1) 松田大輝. 没入型VRを用いた新しい運動イメージトレーニングプログラムの効果に関する検証. 日本学術振興会 科研費 若手研究 2022-2025年度. (代表)

8.4 医療学部 言語聴覚学科・言語聴覚専攻科

教員：言語聴覚学科

爲数哲司（教授・学科長）、尾籠晃司（教授）、堀川悦夫（教授）、石川幸伸（准教授）、
福井恵子（講師）、池下博紀（助教）

教員：言語聴覚専攻科

爲数哲司（教授・専攻科長）、豊嶋明子（助教）、吉永明史（助教）

1) 爲数哲司（教授 学科長）

学歴：西南学院大学、国立身体障害者リハビリテーション学院、長崎大学大学院修士課程

西南学院大学大学院人間科学研究科

職歴：長崎リハビリテーション学院学科長

国際医療福祉大学福岡保健医療学部言語聴覚学科学科長

福岡国際医療福祉大学医療学部言語聴覚学科学科長

資格および学位：言語聴覚士、修士（経済学）博士（人間科学）

学会発表：

1) 古賀遼平、爲数哲司；言語聴覚士と学生のVF評価時における観察部位の相違について. 第24回日本言語聴覚学会, 2023年

2) 久保田遥香, 福井恵子, 爲数哲司；言語聴覚士養成学生における聴覚領域への関心についての検討, 第24回日本言語聴覚学会, 2023年

社会的活動：

1) 全国リハビリテーション学校協会理事, STブロック担当理事、国家試験対策委員

2) 日本言語聴覚士協会養成教育部臨床実習指導者講習会準備委員長

3) リハビリテーション教育評価機構評価員

所属職能団体：日本言語聴覚士協会、福岡県言語聴覚士協会

2) 尾籠晃司（教授）

学歴：九州大学大学院医学研究科

職歴：九州大学医学部神経精神医学教室 福岡大学医学部精神医学教室

資格（学位含む）：医学博士 精神保健指定医 日本精神神経学会専門医・指導医

総説：高齢者のうつ病・双極性障害・適応障害 尾籠晃司

3) 堀川悦夫 教授

学歴：最終学歴 東北大学大学院博士課程（情報生物学）中退

職歴：日本学術振興会 特別研究員、

東北大学医療技術短期大学部 助教授、

文科省在外研究員、

米国ミシガン大学 老年医学研究センター（モビリティリサーチセンター）客員研究員

東北大学医学部 助教授、

佐賀大学医学部 認知神経心理学分野 教授、同、大学院教授、

佐賀大学医学部附属病院 動作解析・移動支援開発センター長、

同 医学部 地域医療科学教育研究センター 福祉健康科学部門長、

（公財）交通事故総合分析センター 客員研究員、同 特別研究員、

福岡国際医療福祉大学 医療学部 視能訓練学科 教授

国際医療福祉大学大学院 特別教授

国立長寿医療研究センター 運転寿命延伸プロジェクト・コンソーシアム 理事

日本安全運転医療学会 評議員

佐賀大学医学部 脳神経内科 客員研究員

学位・資格：博士（学術）東北大学 博士（医学）東北大学、佐賀大学名誉教授
公認心理師、臨床神経心理士（新規取得）、臨床心理士、
DRS（米国運転リハビリテーション専門士 基礎資格）、
介護福祉士、厚生省認定ジョブコーチ（職場適応援助者）

原著論文・書籍：

- 1) Wataru Matsushita, Tsubasa Mitsutake, Ayako Takamori, Katsuko Hida, Etsuo Horikawa, Relationship between Driving Skills and Cognitive Functions in Cerebrovascular Disease Patients and Short-Term Effects of Driving Training International Journal of Gerontology 18 (2024) 36-41 [https://doi.org/10.6890/IJGE.202401_18\(1\).0007](https://doi.org/10.6890/IJGE.202401_18(1).0007)
- 2) 堀川悦夫、加齢と自動車運転、高齢者運転の提言、第2章、日本老年学会 高齢者運転提言委員会(印刷中)

学会発表等

- 1) 堀川悦夫、原 照子、井上美和、井手俊宏、鈴山耕平、江里口 誠、「実車運転評価における車両挙動解析の問題点の検討」、第12回日本認知症予防学会 2023/9/15-17 浦上賞（学会創設者の賞）受賞
- 2) 中山孝二、福島章憲、藤井美希、森田剛之、堀川悦夫、「運転再開後の脳卒中後遺症患者のモビリティに関する追跡研究」、日本リハビリテーション医学会、2023/6/30 学会賞候補演題
- 3) 堀川悦夫、朝田隆、「症例から考える、いわゆるグレイゾーンや経過観察の方の運転可否判断」、第38回日本老年精神医学会【秋季大会】日本教育会館（東京都千代田区）、2023年10月13日（金）シンポジウム、企画者、オーガナイザー：
- 4) 堀川悦夫、「モビリティ支援シンポジウム 2024」、2024年2月18日、シンポジウム、企画者、オーガナイザー：佐賀大学医学部看護学科棟

各種講演

- 1) 堀川悦夫、「行きたい時に、行きたいところへ、行きたい人と」、第1回新型モビリティ大集合（免許返納後の移動手段）展示試乗会、ゆめタウン佐賀、主催、損保ジャパン（株）、後援 佐賀県 ほか
- 2) 堀川悦夫、データに基づく交通安全教育を目指してー認知機能、加齢、モビリティー、福岡県安全運転管理者講習会 2023/7/21、10/6、1/18。
- 3) 堀川悦夫、「運転行動記録にもとづく運転者再教育とその効果」、自動車技術会 映像活用委員会、2024/3/21

研究費取得・共同研究など

- 1) 堀川悦夫（研究代表者）、2022-24年度 文科省科研費（基盤B）、「日常的運転行動記録と下肢の自己受容感覚解析によるペダル踏み間違い事故の要因解明」2023年度 交付決定額 4,940千円 3年間合計 14,300千円
- 2) 堀川悦夫（研究代表者）、2022-23年度、スズキ財団研究助成、「軽度認知機能低下群の運転可否判断と、小形電動車（セニアカー）利用者の移動に関する、車両挙動解析に基づく連続的モビリティ支援開発」2022-2023年度 経費合計 2,500千円
- 3) 堀川悦夫（研究代表者）、日立ケーイーシステムズ、共同研究、高齢者用運転シミュレータの機能向上、2022-23年度 経費合計 800千円
- 4) 堀川悦夫（研究代表者）、2020-23年度、日本損害保険協会自賠責益還元事業による研究助成事業 「高齢者の運転再教育および運転リハビリテーションによる運転期間延伸手法の科学的論証と体系化に関する研究」（2020年度からの佐賀大学医学部への研究助成の継続）2023年度 1,400千円 期間経費合計 22,500千円

4) 堀川悦夫 (研究代表者)、共同研究2件 (NDAにより明記せず)

社会貢献 (メディアからの発信などで 福岡国際医療福祉大の業績として配信のものを含む)

1) 堀川悦夫 (研究代表者)、佐賀大学定例記者会見、「ドライブレコーダ AI 解析技術を用いた高齢者安全運転支援の実証実験を開始」、福岡国際医療福祉大学、佐賀大学、トヨタモビリティ基金、デンソーほか。
2023年5月29日、

●テレビ放映 ①NHK 佐賀放送局 6時のニュース「ただいま佐賀」

②佐賀テレビ 夕方のニュース

●ソーシャルメディア発信

① NHK NEWS WEB, ②FNN オンライン、③ dmenu

2) 堀川悦夫 ほか、「AI で高齢者の運転診断し安全運転サポート」、ニュース番組“いまサガ” 2023年11月9日、18:00 から、NHK 佐賀放送局管内で放映、

3) 堀川悦夫、「e スポーツを楽しみながら高齢者の健康維持・改善を」、介護・健康・福祉特集 介護の日記念、みんなのかいご、佐賀新聞、2023年11月11日、

4) 堀川悦夫 ほか、「AI で高齢者の運転診断し安全運転サポート」、7:45からのニュース番組“おはよう九州・沖縄”でNHK九州・沖縄管内で放映、2023年11月28日、

5) 堀川悦夫 ほか、「AI で高齢者の運転診断し安全運転サポート」、5:40からのニュース番組“おはよう日本”NHK全国版で放映、2023年12月12日、

6) これらの活動の配信 時事ドットコム (jiji.com) 大町自動車学校グループ、「ドライブレコーダ AI 解析技術を活用した高齢者 安全運転支援についての説明会」を2024年1月30日 (火) に開催:

7) 堀川悦夫、2024年2月8日、「高齢者の安全運転ドラレコで支援」、シニア100年ライフ、西日本新聞、

4) 石川 幸伸 准教授

学歴: 国際医療福祉大学保健医療学専攻言語聴覚分野博士課程修了

職歴: にしなすの総合在宅ケアセンター

国際医療福祉大学三田病院

国際医療福祉大学 福岡保健医療学部 言語聴覚学科

資格および学位: 言語聴覚士、博士 (保健医療学)

原著:

1) Changes in olfactory identification function in total laryngectomy patients - A retrospective study focusing on nasal airflow-inducing maneuver usage, Open Essence misreactions, and odor cluster. Yukinobu Ishikawa, Michi Suzuki American journal of otolaryngology 44(2) 103778-103778 2023年

学会発表:

1) 喉頭摘出者のクラスター毎の嗅覚自覚度について 国際医療福祉大学学会小規模ファースト千葉県成田市 成田キャンパス 2023/9/3

2) 訪問リハビリテーション利用者における摂食嚥下機能に関する研究-聖隷式嚥下質問紙評価法を用いた検討日本ヒューマンケアネットワーク学会”小規模セカンド埼玉県川越市ウエスタ川越 2023/12/10

研究費取得:

1) 喉頭がん、下咽頭がんにより喉頭摘出術を受けた患者に対する携帯型嗅覚知覚装置の開発 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 2021年4月 - 2025年3月

所属職能団体: 日本高次脳機能障害学会、日本神経心理学会、日本音声言語医学会、日本頭頸部外科学会、日本ヒューマンケアネットワーク学会

5) 福井恵子 講師

学歴：国際医療福祉大学大学院 保健医療学専攻 言語聴覚分野 博士課程修了

職歴：平田東九州病院

柳川リハビリテーション病院

国際医療福祉大学 福岡保健医療学部 言語聴覚学科

九州大学病院 耳鼻咽喉・頭頸部外科

資格：言語聴覚士、認定言語聴覚士（聴覚障害領域）、博士（言語聴覚学）

学会発表：

- 1) 聴覚情報処理障害/聞き取り困難 (APD/LiD) 患者の性格特性についての検討. 第 68 回日本聴覚医学会 学術集会、口述、幕張メッセ、2023 年 10 月 12-13 日

研究費：

- 1) 視線解析の手法を用いた難聴児における他者感情認知の分析と訓練法の開発 ～2023 年 3 月主 21K17371

- 2) 聴覚情報処理障害/聞き取り困難に対する訓練教材の作成 ～2024 年 4 月主学内研究

社会的活動：

地域活動への参加・協力

福岡県専門家活用事業（福岡高等聴覚特別支援学校）

聴覚障害者相談（難聴サロンパピヨンパルレの主催）

6) 池下博紀 助教

学歴：国際医療福祉大学大学院 保健医療学専攻 言語聴覚分野 博士課程満期退学

職歴：吉備高原医療リハビリテーションセンター

佐賀大学医学部附属病院 先進総合機能回復センター

脳神経センター大田記念病院 急性期リハビリテーション課

福岡国際医療福祉大学 言語聴覚専攻科

福岡国際医療福祉大学 医療学部 言語聴覚学科

資格・学位：言語聴覚士、修士（言語聴覚学）

研究報告書：

- 1) アルツハイマー型認知症患者における潜在記憶. 2022 年度若手・女性研究者奨励金研究レポート

学会発表：

- 1) クラスタに着眼した言語流暢性課題の質的分析. 第 24 回日本言語聴覚学会 in えひめ. 2023 年 6 月, 口述, 愛媛県県民文化会館（愛媛県）

- 2) 時間推移に着眼した言語流暢性課題の質的分析. 第 13 回国際医療福祉大学学会. 2023 年 8 月, ポスター

- 3) 意味素性分析による呼称訓練が談話レベルの発話に及ぼす影響. 第 47 回日本高次脳機能障害学会学術総会. 2023 年 10 月, ポスター, 仙台国際センター（宮城県）

研究費取得：

- 1) アルツハイマー型認知症患者の潜在記憶. 2022 年度若手・女性研究者奨励金（代表者）. 2023 年 1 月～3 月

講演：

- 1) 生活期失語症者に対する意味素性分析による呼称訓練の効果：単一事例研究. 福岡県言語聴覚士会西ブロック会, 2023 年 2 月, (福岡市)

社会的活動：

- 1) 福岡市の失語症サロンにおける失語症者への会話支援

- 2) 福岡県言語聴覚士会 西ブロック世話人

7) 豊嶋明子 助教

学歴：国際医療福祉大学 修士課程 修了

職歴；恵光会原病院、畏敬会井野辺病院、弘医会福岡鳥飼病院、
福岡国際医療福祉学院、福岡国際医療福祉大学

資格：言語聴覚士、認定言語聴覚士（吃音・小児構音障害領域）、認定言語聴覚士（言語発達障害領域）
修士（保健医療学）国際医療福祉大学、公認心理士

講演：

- 1) 言葉を理解し話すことが難しい子どもたち ～発達性言語症 DLD 認知レベルでの因果説明を意識する、高邦会リハビリテーション教育講演、2023年11月
- 2) 幼児の育ちとかわり、福岡市私立幼稚園連盟人権教育講演、2023年11月
- 3) 子どもの言葉を育てる、あたごはま幼稚園未就園児保護者の会、2023年11月
- 4) 小児言語聴覚療法とは、福岡子ども研究会、2023年12月

社会的活動：

地域活動への参加・協力

幼稚園でのことばの相談

中間市立療育センター 言語発達相談、支援

所属職能団体：、日本言語聴覚士協会、福岡県言語聴覚士会 総務局理事

賞罰等：

- 1) 第13回国際医療福祉大学学会学術大会優秀ポスター賞、発達性言語障害時の統語機能獲得過程の検討、国際医療福祉大学学会、2023年9月

8) 吉永明史 助教

学歴：長崎リハビリテーション学院 言語聴覚学科卒業

国際医療福祉大学大学院 保健医療学専攻 修了

国際医療福祉大学大学院 保健医療学専攻 言語聴覚分野 博士課程満期退学

職歴：誠愛リハビリテーション病院

柳川リハビリテーション学院 教員

福岡国際医療福祉学院 教員

資格：言語聴覚士、修士（保健医療学）

社会的活動：

地方自治体の事業への協力：

福岡市、筑紫野市、みやま市の地域ケア会議助言者

筑紫野市の地域ケア個別会議運営アドバイザー

所属職能団体：福岡県言語聴覚士会（副会長）

国、自治体、公的機関の役員・委員等

自治体：福岡県在宅医療推進協議会委員、福岡県在宅医療現場における利用者等からの暴力・ハラスメント対策部会委員、福岡県介護予防活動普及展開事業アドバイザー、福岡県災害リハビリテーションチーム委員、福岡県災害福祉援助チーム派遣員、福岡 PEG・半固形化栄養法研究会世話人

8.5 視能訓練学科

(1) 教員紹介

教員：吉富健志（教授・学科長）

飛松省三（教授：生理学）、財津裕一（教授：公衆衛生）、森望（教授：解剖学、生理学、薬理学）

橋本勇希（教授）、松藤佳名子（准教授）、佐々木信（講師）、田村省吾（講師）、

潮井川修一（助教）、本居快（助教）

1) 吉富健志 学科長、教授

学歴：九州大学医学部

九州大学大学院医学研究科博士課程修了

職歴：九州大学医学部附属病院

米国 Yale 大学 Research Associate

北里大学医学部眼科講師

和歌山県立医科大学眼科助教授

秋田大学医学部附属病院眼科教授

資格：医師（日本眼科学会認定眼科専門医、指導医）、視覚障害者用補装具適合判定医師

博士（医学）、秋田大学名誉教授

役員歴：日本眼科学会名誉会員、日本緑内障学会名誉会員、日本神経眼科学会名誉会員

日本視野画像学会名誉会員、日本眼薬理学会名誉会員、日本自律神経学会評議員

原著：

- 1) Kurahashi K, Hashimoto Y, Shiraishi K, Kubota N, Yoshitomi T. Choroidal Morphology and Systemic Circulation Changes During the Menstrual Cycle in Healthy Japanese Women. *Cureus*. 2023 Nov 1;15(11): e48124.
- 2) Kuwahara F, Hashimoto Y, Toh N, Imabayashi S, Sakamoto A, Shiraishi K, Igawa R, Yoshitomi T. Parasympathetic Dominance Decreases the Choroidal Blood Flow Velocity Measured Using Laser Speckle Flowgraphy. *Cureus*. 2023 Oct 13;15(10):e46996.
- 3) Sakata R, Araie M, Yoshitomi T; for lower normal pressure glaucoma study members in Japan Glaucoma Society. Factors associated with visual field or structure progression occurring first in a prospective study on patients with untreated open-angle glaucoma with normal intraocular pressure. *Eye (Lond)*. 2023 Oct 5. doi: 10.1038/s41433-023-02766-8.
- 4) Asaoka R, Sakata R, Yoshitomi T, Iwase A, Matsumoto C, Higashide T, Shirakashi M, Aihara M, Sugiyama K, Araie M; Lower Normal Pressure Glaucoma Study Members in Japan Glaucoma Society. Differences in Factors Associated With Glaucoma Progression With Lower Normal Intraocular Pressure in Superior and Inferior Halves of the Optic Nerve Head. *Transl Vis Sci Technol*. 2023 Aug;12(8):19.
- 5) Imabayashi S, Hashimoto Y, Ishimaru Y, Umemoto R, Chiyozono M, Yamanokuchi T, Yoshitomi T. Changes in Choroidal Circulation Hemodynamics Measured Using Laser Speckle Flowgraphy after a Cold Pressor Test in Young Healthy Participants. *Tomography*. 2023 6;9(2):790-797.
- 6) Hashimoto Y, Igawa R, Sakai Y, Yoshimura M, Yoshitomi T. Seasonal variation of choroidal thickness and circulation in young, healthy participants. *Acta Ophthalmol*. 2023 Sep;101(6):708-709.
- 7) 橋本 勇希(福岡国際医療福祉大学), 坂元 亜美, 中野 涼花, 佐藤 祥伍, 今林 櫻子, 吉富 健志. 寒冷刺激試験における網膜循環動態の変化. *眼科臨床紀要* 16 卷(2023)11 号 Page824

- 8) 寺崎 浩子(名古屋大学未来社会創造機構), 東 範行, 北岡 隆, 日下 俊次, 近藤 寛之, 仁科 幸子, 盛 隆興, 山田 昌和, 吉富 健志, 未熟児網膜症眼科管理対策委員会, 未熟児網膜症に対する抗 VEGF 療法の手引き(第2版) 日本眼科学会雑誌(0029-0203) 127 巻 5 号 Page570-578(2023. 05)
- 9) 藤原 康太(九州大学), 上田 瑛美, 橋本 左和子, 中村 駿, 秦 淳, 中野 聡子, 村上 祐介, 久保田 敏昭, 吉富 健志, 二宮 利治, 園田 康平. 地域住民における角膜ヒステリシスと緑内障の関連 久山町研究. 日本眼科学会雑誌(0029-0203) 127 巻臨増 Page220(2023. 03)

講演:

- 1) OCTによる緑内障の新しい見方. 筑豊ブロック眼科懇話会 2023年2月18日
- 2) 緑内障とは どんな病気? 第36回「目の健康講座」アクロス福岡6階:福岡県眼科医会 2023年8月26日

社会的活動:

(独) 医薬品医療機器総合機構 医療機器審査委員
水俣病認定審査委員会専門委員
福岡市保健福祉審議会臨時委員

2) 財津裕一 教授

学歴:九州大学医学部

職歴:九州大学医学部小児科助手

米国 W.A.J. Cell Science Center Research Fellow

福岡県筑紫保健福祉環境事務所所長

資格:医師(産業医、小児科専門医)、医学博士

社会的活動:

地方自治体の事業への協力:福岡市や福岡県の市民公開講座や研修会の講師

3) 森 望 教授

学歴:東京大学薬学部

東京大学大学院薬学系研究科博士課程修了

職歴:東邦大学薬学部助手

米国シティーオブホープ研究所研究員

米国カリフォルニア工科大学研究員

米国ハワードヒューズ医学研究所上級研究員

米国南カリフォルニア大学アンドラス老年学研究所助教授

科学技術振興機構さきがけ研究21「遺伝と変化」領域研究者

国立長寿医療研究センター(分子遺伝学研究部)部長

名城大学大学院総合学術研究科特任教授(兼任)

科学技術振興機構「脳を守る」戦略研究代表者(兼任)

長崎大学医学部教授(第一解剖)

日本学術振興会アジア研究教育拠点事業

Asian Aging Core for Longevity) 日本側代表者(兼任)

長崎大学附属図書館長(兼任)

資格:薬学博士(東京大学)

著書：

- 1) 森望 (著) 『老いと寿のはざままで：人生百年の健やかを考えるヒント』 (日本橋出版) (2023. 5)
- 2) 森望 (著) 『老いをみつめる脳科学』 (メディカル・サイエンス・インターナショナル, MEDSi) (2023. 12)
- 3) 森望 (著) 『老いをみつめる脳科学』 (電子版) (医書.jp) (2023. 12)
- 4) 森望 (著) 『老いと寿のはざままで：人生百年の健やかを考えるヒント』 (電子書籍) (ディスカヴァー・デュエンティワン) (2024. 3)

科学解説記事：

- 1) 長寿科学振興財団機関紙『エイジングアンドヘルス』連載エッセイ「老いの科学・長寿への道」(2023)
第1回：老いの遍歴
第2回：寿命遺伝子
第3回：東と西の養生訓
第4回：老いをみつめる脳科学
- 2) 長寿科学振興財団機関紙『エイジングアンドヘルス』最新研究情報 (2023)
森望：老化脳での遺伝子発言変動の時空間分析
森望：食と脳：食事制限模倣薬 (2-DG) が脳卒中や認知症への抵抗性を高める
森望：アルツハイマー病 (AD) 研究の新展開：介在性ニューロンの秘密を暴く
森望：生体内リプログラミングによる組織幼若化と寿命延伸の試み
- 3) 森望：「老いと寿のはざままで：人生百年の健やかを考えるヒント」(2023) の紹介、基礎老化研究 47 (3) 57-58 (2023)
- 4) 森望：「老いをみつめる脳科学」(2023) の紹介、基礎老化研究 48 (1) 51-52 (2024)

講演：

- 1) 森望：「老・脳・寿：老いをみつめる脳科学」 in 第42回東邦大学生命科学シンポジウム (2023. 11. 4)

社会的活動：

役員歴：日本基礎老化学会理事、日本老年学会理事、
国際放射線神経生物学会 (ISRN) 理事、
日本神経化学会評議員、日本生化学会評議員、
長崎メンタルヘルス研究会理事、脳の医学生物学研究会会長
福岡市総合図書館運営審議会委員など

4) 飛松省三 教授

学歴：九州大学医学部 医学博士

職歴：九州大学医学部附属病院

九州労災病院

シカゴ・ロヨラ大学医学部神経内科

九州大学医学部

九州大学大学院医学研究院

資格：医師 (日本神経学会専門医)

医学博士 (九州大学)

九州大学名誉教授

原著：

- 1) Tanaka M, Yamada E, Yamasaki T, Fujita T, Nakaniwa Y, Ogata K, Nakazono H, Maekawa T, Tobimatsu S: Asynchronous neural oscillations associated with subliminal affective face priming in autism spectrum disorder. *NeuroReport*, 34(3): p150-155, February 1, DOI: 10.1097/WNR.0000000000001871
- 2) Maekawa T, Kuroki T, Tanaka M, Ogata K, Yamasaki T, Matsubara T, Tobimatsu S: Effects of spatially filtered fearful faces and awareness on amygdala activity in adults with autism spectrum disorder: A magnetoencephalography study. *Neurosci Lett*, 800 (2023), 137135.
- 3) Nakamura M, Taulu S, Tachimori H, Tomo Y, Kawashima T, Miura Y, Itatani M, Tobimatsu S: Single-trial neuromagnetic analysis reveals somatosensory dysfunction in chronic Minamata disease. *Neurimage Clin*, 38(2023) 103422. <https://doi.org/10.1016/j.nicl.2023.103422>.
- 4) Fujita T, Ihara Y, Hayashi H, Inoue T, Nagamitsu S, Yasumoto S, Tobimatsu S: Scalp-recorded high-frequency oscillations can predict the seizure activity period of Panayiotopoulos syndrome. *Clin Neurophysiol*, 156: 106-112, 2023.

総説：

- 1) 飛松省三：臨床神経生理 A to Z. 視覚誘発電位 ① 視覚のメカニズム. *Clinical Neuroscience*, 41(7): 884-885, 2023.
- 2) 飛松省三：カルシウムと臨床. 脳波. *Clinical Neuroscience*, 41(7): 964-967, 2023.
- 3) 飛松省三：臨床神経生理 A to Z. 視覚誘発電位 ② 視覚のメカニズム. *Clinical Neuroscience*, 41(8): 996-998, 2023.
- 4) 飛松省三：臨床神経生理 A to Z. 視覚誘発電位 ③ パターンリバーサル検査. *Clinical Neuroscience*, 41(9):1119-1121, 2023.
- 5) 飛松省三：臨床神経生理 A to Z. 視覚誘発電位 ④ 視覚背側路の機能と評価. *Clinical Neuroscience*, 41(10):1271-1273, 2023.
- 6) 飛松省三：臨床神経生理 A to Z. 視覚誘発電位 ⑤ 視覚腹側路の機能と評価. *Clinical Neuroscience*, 41(11):1395-1397, 2023.

著書：

- 1) 飛松省三：5 生物学的病態 b 神経生理学. 榊原洋一, 神尾陽子 (編). 発達障害の診断と治療 ADHD と ASD. pp166-172. 診断と治療社, 2023.

学会発表：

- 1) 飛松省三：視覚情報処理と VEP -脳科学の視点から-. 2022 年度視能訓練学会臨床実地指導者会議. 2023 年 3 月 18 日, 福岡, 特別講演.
- 2) 飛松省三：デジタル脳波判読の実際. -Tips & Pitfalls-. PD エキスパート WEB セミナー. 2023 年 6 月 16 日, 特別講演, 米子.
- 3) 飛松省三：脳が若返る 5 つの習慣 -脳の健康百寿を目指して- 福岡国際医療福祉大学・地域公開講座. 2023 年 7 月 8 日.
- 4) 飛松省三：脳波の歴史とデジタル診断. 第 9 回脳波セミナー・アドバンスコース. 京都, 2023 年 8 月 5 日.
- 5) 飛松省三：視覚誘発脳磁場 (VEF) -V1 から V4 までの機能探索- 日本脳磁図コンソーシアム第 10 回教育セミナー 2023 年 8 月 26 日
- 6) 飛松省三：ここに気を付ける！体性感覚誘発電位検査. Web セミナー (ガデリウス社後援) 2023 年 9 月 13 日
- 7) Shozo Tobimatsu: How to record reliable VEPs. Dec. 2, 2023, Japanese Society of Clinical Neuropsychology 2023, Fukuoka, Symposium.
- 8) 飛松省三：読めない脳波 vs 読める脳波. 第 53 回日本臨床神経生理学会. 2023 年 12 月 2 日. 熱血講義, 福岡.

研究助成金：

日本学術振興会 基盤C代表者 “2023～2025” 3,600,000円

ヒトの優位眼の役割は何か？両眼干渉と両眼競合課題を用いた視覚誘発電位研究

社会的活動：

役員歴：認知神経科学会理事、国際複合医学会理事(元理事長)、日本臨床神経生理学会名誉会員、日本てんかん学会名誉下院日本、生体磁気学会名誉会員、日本脳機能マッピング学会名誉会員など

5) 橋本勇希 教授

学歴：川崎医療福祉大学感覚矯正学科 卒業

川崎医療福祉大学大学院医療技術学部感覚矯正学科 修了 修士 (感覚矯正学)

北海道大学大学院医学研究院医学専攻 修了 博士 (医学)

職歴：北海道大学病院眼科 入職

福岡国際医療福祉大学 医療学部 視能訓練学科 准教授

国際医療福祉大学大学院 特別准教授

資格：視能訓練士 博士 (医学)

原著：

1. Kurahashi K, **Hashimoto Y***, Shiraishi K, Kubota N, Yoshitomi T. Choroidal morphology and systemic circulation changes during the menstrual cycle in healthy Japanese women. *Cureus* 15: e48124, 2023.
2. Kuwahara F, **Hashimoto Y***, Toh N, Imabayashi S, Sakamoto A, Shiraishi K, Igawa R, Yoshitomi T. Parasympathetic dominance decreases the choroidal blood flow velocity measured using laser speckle flowgraphy. *Cureus* 15: e46996, 2023
3. Imabayashi S, **Hashimoto Y***, Ishimaru Y, Umemoto R, Chiyozone M, Yamanokuchi T, Yoshitomi T. Changes in choroidal circulation hemodynamics measured using laser speckle flowgraphy after a cold pressor test in young healthy participants. *Tomography* 9: 790-797, 2023.
4. **Hashimoto Y**, Ishimaru Y, Chiyozone M, Imabayashi S, Umemoto R, Yamanokuchi T, Yoshitomi T. Changes in choroidal blood flow by diurnal variation in healthy young adults. *Open ophthalmol J* 17: e187436412301300, 2023.
5. **Hashimoto Y**, Igawa R, Sakai Y, Yoshimura M, Yoshitomi T. Seasonal variation of choroidal thickness and circulation in young, healthy participants. *Acta Ophthalmologica* 101: 708-709, 2023.
6. Umemoto R, **Hashimoto Y***, Imabayashi S, Yoshitomi T. Changes in choroidal thickness in healthy participants after induction of sympathetic hyperactivity using the cold pressor test. *Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol* 261: 585-587,

講演：

1. 今林櫻子、**橋本勇希**、吉富健志. 寒冷刺激試験における正常眼の脈絡膜変化. 第181回九州大学眼科研究会, 2023, 福岡.
2. 今林櫻子、**橋本勇希**、倉橋伽奈、久保田ののか、白石華暖、吉富健志. 正常月経周期における全身の循環動態と脈絡膜形態の変化. 第64回日本視能矯正学会, 2023, 高松.
3. 石丸侑実、**橋本勇希**、千代蘭好歩、今林櫻子、梅本璃乃、吉富健志. 第64回日本視能矯正学会, 2023, 高松.
4. **橋本勇希**. 小児の脈絡膜が教えてくれること. 第33回小児眼科(斜視・弱視)症例検討会・勉強会, 2023, 相模原.
5. **橋本勇希**, 谷口隆憲, 一木咲良璃, 上原萌花, 中崎愛海. VDT作業における眼精疲労と眼血流および僧帽筋弾性率の関連. 第13回国際医療福祉大学学会, 2023, 大田原.
6. 今林櫻子、**橋本勇希**、桑原颯風、藤夏海、坂元亜美、白石華暖、井川玲菜、石丸侑実、吉富健志. 温熱刺激試験における脈絡膜循環動態の変化. 第39回日本眼循環学会, 2023, 奈良.
7. **橋本勇希**, 今林櫻子, 梅本璃乃, 石丸侑実, 坂元亜美, 中野涼花, 佐藤祥伍, 吉富健志. ストレスが正常眼の脈絡膜に及ぼす影響. 第38回九州視機能研究会, 2023, 佐賀.
8. 今林櫻子、**橋本勇希**、桑原颯風、藤夏海、坂元亜美、白石華暖、井川玲菜、石丸侑実、吉富健志. 温熱刺激試験における脈絡膜循環動態の変化. 第38回九州視機能研究会, 2023, 佐賀.
9. 佐藤祥悟、今林櫻子、坂元亜美、中野涼花、梅本璃乃、**橋本勇希**. 脈絡膜形態を用いた新たなストレ

ス評価法. 第23回北海道視能研究会, 2023, 札幌.

10. 坂元亜美、橋本勇希、佐藤祥伍、中野涼花、今林櫻子、吉富健志. 寒冷刺激試験における視神経乳頭血管の循環動態変化. 第23回北海道視能研究会, 2023, 札幌.

11. 倉橋伽奈、橋本勇希、久保田ののか、白石華暖、齋藤大智、羽田満愉美、三島愛理、吉富健志. 正常月経周期における脈絡膜形態の変化. 第23回北海道視能研究会, 2023, 札幌.

研究費取得：日本学術振興会 基盤C 代表者

社会的活動：第7回備えあい Festa

所属職能団体

日本視能訓練士協会、日本眼科学会、日本眼循環学会、日本網膜硝子体学会
国、自治体、公的機関の役員・委員等
国：視能訓練士国家試験作成委員会（厚生労働省）

6) 松藤佳名子 准教授

学歴：東洋大学文学部教育学科卒業

国立小児病院附属視能訓練学院卒業

熊本大学文学研究科人間科学専攻修了

川崎医療福祉大学医療技術学研究科感覚矯正学専攻科満期退学

職歴：熊本大学医学部付属病院

健康保険組合人吉総合病院

福岡大学病院

福岡国際医療福祉学院

福岡国際医療福祉大学

資格：視能訓練士（1986年）

日本視能訓練士協会認定専任教員（2017年）

修士（文学 熊本大学 2006年）

研究費取得：

文科省科研費

「キメラ視覚画像刺激を用いた半側空間無視におけるプリズム順応効果の検証」

社会的活動：

地域活動への参加・協力

令和5年度 文部科学省 児童生徒当の近視実態調査研究事業

所属職能団体

公益社団法人日本視能訓練士協会、全国視能訓練士学校協会（理事）

7) 佐々木信 講師

学歴：近畿大学九州工学部 経営工学科

北九州市立大学大学院 人間文化研究科 修士課程

産業医科大学大学院 医学研究科 博士課程

福岡国際医療福祉学院 視機能療法学科

職歴：医療法人彦星会ふなつ眼科光分院田中眼科

医療法人社団青木眼科

福岡国際医療福祉学院 視機能療法学科 専任教員

医療法人高邦会高木病院 非常勤

産業医科大学眼科学教室 訪問研究員

資格：視能訓練士、日本視能訓練士協会認定視能訓練士、日本視能訓練士協会認定専任教員

学位：学士（工学）近畿大学

学士（保健衛生学）独立行政法人大学評価学位授与機構

修士（人間関係学）北九州市立大学

博士（医学）産業医科大学

学会発表：

1)佐々木信,吉富健志:レンチキュラーレンズを用いた自然視に近い立体視検査法の開発:第38回九州視機能研究会,佐賀,2023年6月11日.

2)佐々木信.レンチキュラーレンズを用いた自然視に近い立体視検査法の開発—より正確な評価が可能な立体視検査表をめざして—:第13回国際医療福祉大学学会学術大会,大川,2023年9月3日.

3)佐々木信,潮井川修一,吉富健志:レンチキュラーレンズを用いた自然視に近い立体視検査法の開発:第64回日本視能矯正学会,高松,2023年11月18日.

4)潮井川 修一, 佐々木信, 堀川悦夫, 吉富健志 : 研究用ドライビングシミュレータと視線解析装置を用いた眼球運動による有効視野の評価 : 第64回日本視能矯正学会,高松,2023年11月18日.

研究費取得：

科研費 若手研究

「眼の感受性期を考慮した新眼鏡箔による弱視治療法の開発: 視覚誘発電位による検証」
2022-2024年度

令和5年度学内研究費・一般研究(一般A)

「回折格子(レンチキュラーレンズ)を用いた自然視に近い立体視検査表の開発」

社会的活動：

地域活動への参加・協力

その他：令和5年度 文部科学省 児童生徒等の近視実態調査研究事業

検査業務サポート

日本視能訓練士協会主催 生涯教育 新人教育プログラム技術日程

視力検査・屈折検査 技術指導講師

所属職能団体：公益社団法人日本視能訓練士協会

8) 田村省悟 講師

学歴：九州保健福祉大学 保健科学部 視機能療法学科 卒業

九州保健福祉大学大学院 保健科学研究科 修士課程 修了

九州保健福祉大学大学院 保健科学研究科 博士課程 修了

職歴：九州保健福祉大学 保健科学部 視機能療法学科 副手

九州保健福祉大学 保健科学部 視機能療法学科 助手

九州保健福祉大学 保健科学部 視機能療法学科 助教

宮崎大学医学部附属病院 眼科 非常勤職員

宮崎県立延岡病院 眼科 非常勤職員

宮崎県済生会日向病院 眼科 非常勤職員

宮崎県立延岡しろやま支援学校 非常勤職員

福岡国際医療福祉大学 医療学部 視能訓練学科 講師

資格：視能訓練士、博士(保健科学)

講演：

1) 田村省悟. 健やかな視機能を育むために. 福岡国際医療福祉大学 地域公開講座, 2023, 福岡.

学会発表：

1) 田村省悟, 岡野真弓, 内川義和, 吉武重徳, 吉富健志. 3歳児健康診査における視覚検査の適切な検査実施時期. 第180回九州大学眼科研究会, 2023, 福岡.

研究費取得：

1) 田村省悟. 小児視覚スクリーニングのゴールドスタンダード確立: いつ実施すべきか?. 日本学術振興会 科学研究費助成事業 若手研究 2022-2023年度. (代表)

社会的活動：

地方自治体の事業への協力

三歳児健康診査における視覚検査の実施（福岡県那珂川市、粕屋郡新宮町、古賀市）

久山町研究における眼科健診事業での眼科検査実施

職能団体の事業への協力

日本視能訓練士協会 健診業務委員会レポート第 12 号の作成 (https://www.jaco.or.jp/kaiin_info/24249/)

所属職能団体：

公益社団法人日本視能訓練士協会

日本弱視斜視学会

全国視能訓練士学校協会（検定・模擬試験ワーキンググループ）

9) 潮井川修一 助教

学歴：福岡国際医療福祉学院 視機能療法学科

国際医療福祉大学大学院 保健医療学専攻 視機能療法学分野

職歴：医療法人大塚眼科医院

福岡国際医療福祉学院 視機能療法学科 専任教員

資格：視能訓練士、日本視能訓練士協会認定専任教員、MWT ビジョントレーニング指導者

アイフレイルサポート視能訓練士、修士（保健医療学）

学会発表：

- 1) 潮井川 修一、吉富 健志：アイケアクリップを用いた大学生の「近業」実態調査. 第 5 回日本近視学会 2023 年 5 月 13 日（福岡市）
- 2) 潮井川 修一：研究用ドライビングシミュレータと視線解析装置による有効視野評価について. 第 38 回九州視機能研究会 2023 年 6 月 11 日（佐賀市）
- 3) 潮井川 修一：近業作業と眼疲労の関係. 第 13 回国際医療福祉大学学会学術大会 2023 年 9 月 3 日（成田市）
- 4) 潮井川 修一、佐々木信、堀川悦夫、吉富健志：研究用ドライビングシミュレータと視線解析装置を用いた眼球運動による有効視野の評価. 第 64 回日本視能矯正学会 2023 年 11 月 18 日（高松市）
- 5) 佐々木 信、潮井川 修一、吉富 健志：レンチキュラーレンズを用いた自然視に近い立体視検査表の開発. 第 64 回日本視能矯正学会 2023 年 11 月 18 日（高松市）

講演：

- 1) 潮井川 修一：乳幼児健診における視力検査・視能訓練について. 宗像・遠賀ブロック保健師研究協議会 2023 年 6 月 13 日（宗像市）
- 2) 潮井川 修一：アイケアクリップを用いた近業実態調査—近業の客観的測定と管理の重要性について—. 日本眼鏡学会 第 27 回オープンセミナー 2023 年 10 月 11 日（東京）

研究費取得：

- 1) 潮井川 修一：ウェアラブル AI 端末を用いた小学生の「近業」実態調査: 学童近視の環境要因研究
日本学術振興会: 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 2023 年 4 月 1 日 – 2028 年 3 月 31 日

社会的活動：

文部科学省 令和 5 年度「児童生徒の近視実態調査事業」への参加 2023 年 6 月 8 日、9 日

令和 5 年度久山町研究における眼科健診事業への参加 2023 年 7 月 6 日～9 月 30 日

地方自治体の健診事業への参画：三歳児健康診査における視覚検査の実施、立ち上げ準備
（糟屋郡新宮町、古賀市、宗像市、福津市）

所属職能団体：

日本視能訓練士協会、日本近視学会、視覚発達支援研究会

FeRC（福岡 e スポーツリサーチコンソーシアム）：個人会員

10) 本居 快 助教

学歴：愛知淑徳大学健康医療科学部医療貢献学科視覚科学専攻

愛知淑徳大学心理医療科学研究科視覚科学専修 修士博士課程 修了

職歴：愛知淑徳大学健康医療科学部 非常勤講師

資格：視能訓練士

博士（視覚科学）

科学解説記事：

- 1) 本居快. 両眼加算=両眼で見ると視力が上がることへの一知見について(特集 視覚(ステレオビジョン,両眼視,空間周波数)).光技術コンタクト,61 巻 7 号, p26-33, 2023.

学会発表：

- 1) 高橋啓介・本居快：Dynamic Troxler effect の基礎的研究 2.日本基礎心理学会.豊橋技術科学大学, 2023
- 2) 本居快・杉浦巧知・國武実里・宮田浩輔：片眼遮閉による検査眼への影響についてーランドルト環視力と副尺視力を用いた検討ー,日本視能矯正学会, 香川,2023

研究費獲得：

科研費（若手）

社会的活動：

第 48 回 YPS2023（視覚心理研究会）の実行委員

8.5 看護学科

教員：高野政子（教授、学部長）、

楠葉洋子（教授）、川口賀津子（教授）、中西順子（教授）、新道由記子（教授）、
千々岩友子（教授）、山口みどり（准教授）、彌永和美（准教授）、中野真理子（准教授）、
森山ますみ（准教授）、仙波洋子（准教授）、島村美砂子（准教授）、前田和香子（講師）、
石橋曜子（講師）、甲斐恭子（講師）、横尾誠一（講師）、水尾智佐子（講師）、木村一絵（講師）、
大川法子（講師）、吉村千草（講師）、池添貴子（助教）、宇治田さおり（助教）、伊東香織（助教）、
横山光稀（助教）、溝口晶子（助教）、田中陽子（助手）、上岡奈美（助手）

1) 高野政子 学部長、教授

学歴：国立福岡中央病院（現九州医療センター）附属看護学校卒業

大分大学教育学部情報社会文化課程卒業

大分大学教育学研究科博士課程前期修了

広島大学大学院医歯薬研究科博士課程後期修了

職歴：兵庫県立こども病院

大分医科大学（現大分大学医学部）附属病院 看護師, 副看護師長

大分県立看護科学大学 教授

資格：看護師、修士（教育学）、博士（保健学）、大分県立看護科学大学名誉教授

論文

原著：

- 1) 吉村幸永、草野淳子、高野政子：大分県内の小・中・高等学校におけるがん教育の実施状況と養護教諭の取り組みに関する実態調査：小児保健研究, 81 (2), 155-160, 2022
- 2) 高野政子：特定行為研修 新生児看護領域における特定行為研修の概要、小児看護, 46(10), 1244-1249, 2023
- 3) 大石直之、高野政子、草野淳子：A 病院における小児への PICC 挿入と管理上の課題、日本 NP 学会誌、17(2)、48-57, 2023

研究費取得：

- 1) 文部科学省基盤研究 (C) 21K07866 2021 年度～2024 年度 研究分担者 小児 AYA 世代のがん経験者や家族の知的・身体的レジリエンスを評価・支援する研究

社会的活動：

日本看護科学学会専任査読委員

地域活動への参加・協力

- ・大分県看護協会主催「2023 年度保健師助産師看護師 実習指導者講習会 小児看護学実習」講師
- ・大分県看護協会教育研修「人が育つ実習指導」講師
- ・2023 年度国際医療福祉大学 保健師助産師看護師実習指導者講習会 看護論 講師

所属職能団体：公益社団法人日本看護協会

所属学会：日本小児保健協会、日本小児看護学会、日本小児がん看護学会、日本育療学会、日本看護科学学会、日本 NP 学会、九州・沖縄小児看護教育研究会

2) 楠葉洋子 教授

学歴：長崎市立高等看護学院卒業

明治学院大学社会学部社会学科卒業

佐賀医科大学（現佐賀大学）大学院医学系研究科修士課程修了

佐賀大学大学院医学系研究科医科学専攻博士課程修了

職歴：長崎大学医学部附属病院、心臓血管研究所附属病院等における臨床看護師

医療法人光晴会病院（看護師長）

セイコーインスツル株式会社 保健年金部（主任）

佐賀大学医学部看護学科助手・准教授

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科准教授・教授

国際医療福祉大学看護学部教授

国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科保健医療学看護学領域 特別准教授 2019年～

福岡国際医療福祉大学看護学部教授現在に至る

資格：看護師、学士（社会学）、修士（看護学）、博士（医学）

学会発表

- 1) 岩倉真由美、梅本直子、岩木三保、楠葉洋子：高齢血液透析患者のヘルスリテラシーの特徴、ヘルスコミュニケーションウィークプログラム・抄録集、2023 巻、165、2023 年 9 月

研究費取得（分担）

文部科学省基盤研究C 20K11080 2020 年度～2023 年度 研究分担者 透析患者の主体的自己管理行動を支援するヘルスコミュニケーションモデル開発

社会活動

国際医療福祉大学九州地区生涯教育センター認定看護師教育課程教員会委員

日本看護研究学会査読委員

日本糖尿病教育・看護学会査読委員

所属職能団体：公益社団法人日本看護協会

所属学会：日本看護研究学会、日本糖尿病教育・看護学会、日本がん看護学会

3) 川口賀津子 教授

学歴：国立長崎中央病院附属看護学校卒業

放送大学教養学部生活と福祉学科卒業

国際医療福祉大学大学院医療福祉学研究科看護学専攻 修士課程修了

九州大学大学院医系学府保健学専攻看護学分野 博士後期課程修了

職歴：福岡大学病院 看護師

福岡大学医学部看護学科 助手

国際医療福祉大学福岡看護学部 講師・准教授

福岡国際医療福祉大学看護学部 教授 現在に至る

資格：看護師、修士（看護学）、博士（看護学）

論文

原著：

- 1) 川口賀津子、鳩野洋子：看護師経験5年以上のジェネラリスト看護師におけるキャリア・プラトーの類型化とその特徴 日本看護研究学会誌 46(5), 767-776 2023

<https://doi.org/10.15065/jjsnr.20230327218>

学会発表：

- 1) 川口賀津子、宇治田さおり、吉村千草、高木良重 プラチナナースの就労継続の目的－テキストマイニングによる分析－ 第43回日本看護科学学会学術集会 2023年12月
- 2) 宇治田さおり、川口賀津子、吉村千草、高木良重 プラチナナースが認識する就労継続のメリットとデメリット－テキストマイニングによる分析－第43回日本看護科学学会学術集会 2023年12月
- 3) 高木良重、吉村千草、宇治田さおり、川口賀津子 マットレスやクッションの種類別の体圧分－直接サポート法と間接サポート法を比較して－第43回日本看護科学学会学術集会 2023年12月
- 4) 川口賀津子 プラチナナースにおける職業性ストレス・職務満足・基本属性との関連 第71回日本職業・災害医学会大会 2023年12月

研究費取得：

文部科学省基盤研究(C) 21K10831 2021 年度～2024 年度 研究代表者 プラチナナースの就労継続を可能にする働き方モデルの開発

社会的活動

看護教員等養成支援事業（厚労省 通信制教育）のeラーニング講師（2021年度～2025年度使用）

専任教員養成講習会講師 「看護教育課程論」

西南学院中学校 キャリア教育(福岡県看護協会)講師 「看護職について」

所属職能団体

公益社団法人日本看護協会、

4) 中西順子 教授

学歴：長崎大学大学院医歯薬総合研究科保健学専攻修士課程修了

福岡大学大学院先端医療科学系専攻博士課程修了

職歴：大阪府立母子保健総合医療センター（NICU）

国立長崎中央病院（小児科）

おの小児科看護師

長崎県立看護学校専門課程 専任教員

国際医療福祉大学福岡看護学部設置準備室

国際医療福祉大学福岡看護学部看護学科次世代育成看護学領域小児看護学 助教・講師

純真学園大学保健医療学部看護学科小児看護学 講師・准教授・教授

福岡国際医療福祉大学看護学部看護学科教授 現在に至る

資格：看護師、修士（看護学）、博士（医学）

社会的活動

福岡市早良区青少年育成連絡協議会委員

福岡市早良区ゆめ未来フェスタ実行委員

福岡市早良区田隈校区ジュニアユース育成会会長

九州・沖縄小児看護教育研究会 幹事

5) 新道由記子 教授

学歴：住友病院附属看護学校卒業

ベルランド看護助産専門学校助産学科卒業

佛教大学社会学部卒業 学士（社会学）

関西大学大学院社会学研究科博士課程前期修了

関西大学大学院社会学研究科博士課程後期修了

職歴：府中病院（産科病棟；助産師）

小阪産病院（周産部；助産師）

聖マリア学院短大（助手・講師）

園田学園女子大学（准教授）

白鳳短期大学専攻科（准教授）

国際医療福祉大学成田看護学部（准教授・教授）

資格：看護師・助産師（アドバンス助産師）受胎調節実施指導員、新生児蘇生法「一次」コースインストラクター、修士（社会学）、博士（社会学）

学会発表：

- 1) 新道由記子：都道府県助産師会の家庭訪問事業への参画状況とその課題、第37回日本助産学会学術集会ポスターセッション 2023.10.8
- 2) 新道由記子：家庭訪問時にベテラン助産師が発揮している配慮、母性衛生64(3):244 第64回日本母性衛生学会学術集会ポスターセッション 2023.10.13
- 3) 新道由記子：市町村から受託した家庭訪問事業において助産師に必要なコンピテンシー、第16回日本医療教授システム学会学術集会抄録集：64 第16回日本医療教授システム学会学術集会ポスターセッション 2023.3.7

4) 川村崇郎・新道由記子・保田江美・島田伊津子：卒後1年目の看護師のプロフェッショナルとしての責任感を醸成する様相、第16回日本医療教授システム学会学術集会抄録集：103 第16回日本医療教授システム学会学術集会ポスターセッション 2023.3.8

研究費取得：

文部科学省若手研究 2019年度～2023年度 研究代表者 家庭訪問事業における助産師コンピテンシーモデルの開発

社会的活動

所属学会：日本母性衛生学会、日本助産学会、日本社会福祉学会、日本在宅ケア学会、日本看護科学学会、日本母子看護学会、日本医療教授システム学会、日本母性看護学会

6) 千々岩友子 教授

学歴：福岡大学大学院 人文科学研究科 教育・臨床心理専攻 博士課程（前期）修了
福岡大学大学院 人文科学研究科 教育・臨床心理専攻 博士課程（後期）修了

職歴：福岡大学病院

順天堂大学 保健看護学部 助教

浜松医科大学 医学部看護学科 准教授

一宮研伸大学 看護学部 准教授

東都大学 沼津ヒューマンケア学部看護学科 准教授

資格：看護師、修士（臨床心理学）、博士（教育学）

著書：

千々岩友子（著）. (2023). 自己形成への道程 精神科看護師による実践記述の解釈から. :春風社

原著：

Chijiwa, T., Ishimura, K. (2024). Experiences of general home visiting nurses regarding patients with suicidal ideation in Japan: Results from semi-structured interviews. Journal of psychiatric and mental health nursing. First published: 03 January 2024. doi: 10.1111/jpm.13017

学会発表：

石村 佳代子, 磯田 重行, 黒髪 恵, 石川 淳, 山崎 将展, 千々岩 友子: 多様な人々と語ろう、精神保健看護学教育における共同創造の可能性. 第33回日本精神保健看護学会学術集会（WS）2023年5月

研究費取得：

- 1) 文部科学省基盤研究（C）23K10325 2023年度-2027年度 研究代表者 自殺念慮をもつ身体疾患のある在宅療養者に対する訪問看護実践ガイドラインの開発
- 2) 文部科学省基盤研究（C）20K11115 2020年度～2024年度 研究代表者 身体疾患をもち自殺念慮を有する在宅療養者の訪問看護実践モデルの開発
- 3) 文部科学省基盤研究（C）23K10043 2023年度～2026年度 研究分担者 精神看護学教育に共同創造を実装するためのガイドラインの開発
- 4) 埼玉県立大学 教育・研究・地域連携の一体的推進事業 2024年度 研究分担者 埼玉県立大学におけるアントレプレナーシップ教育の醸成に向けて

社会的活動

- 1) International Journal of Mental Health Nursing Reviewer
- 2) 厚生労働省委託事業 心のサポーター養成研修 ころろサポーター 講師
- 3) 医療・介護・市民全国ネットワーク第3回福岡大会 実行委員

7) 山口みどり 准教授

学歴：久留米大学医学研究科社会医学系公衆衛生学専攻博士課程 単位取得満期退学

ボストン大学大学院 公衆衛生学部国際保健学専攻 修士課程 修了
職歴：福岡赤十字病院、青年海外協力隊（カンティ小児病院、トリスリ郡立病院：ネパール）
JICA 個別専門家（母子保健、学校地域保健プロジェクト：ネパール）
聖マリア学院短期大学（講師）、JICA シニアボランティア（コスタリカ大学医学部看護学科）
訪問看護ステーションたんがく、熊本保健学科学大学（特定事業教員）
資格：看護師、修士（保健学）
社会的活動
所属学会：日本在宅ケア学会

8) 彌永和美 准教授

学歴：産業医科大学医療技術短期大学 地域看護学専攻修了
福岡女学院大学人文科学研究科臨床心理学専攻修了
職歴：株式会社ブリヂストン
福岡通信病院健康管理課
聖マリア学院短期大学専攻科・大学
福岡女学院看護大学
活水女子大学看護学部
資格：看護師、保健師、公認心理師、衛生管理者、産業カウンセラー、介護支援専門員
社会活動：日本産業看護学会（評議員・倫理委員）

9) 中野真理子 准教授

学歴：福岡県立大学人間社会学部人間形成学科卒業
福岡県立大学看護学研究科看護心理学専攻修了
東京女子医科大学大学院博士課程 満期退学
職歴：東京慈恵会医科大学医学部看護学科 講師
東京慈恵会医科大学大学院看護学専攻 急性重症患者看護分野 兼任講師
自治医科大学看護学部 講師
資格：修士（看護学）
社会的活動：
クリティカルケア学会（査読委員） 日本ルーラルナーシング学会（査読委員）

10) 森山ますみ 准教授

学歴：京都第二赤十字看護専門学校
早稲田大学第二文学部人間・社会専修コース修了
聖路加看護大学大学院博士前期課程修了
聖路加看護大学大学院博士後期課程修了
職歴：京都第二赤十字病院（血液・呼吸器内科病棟、救命救急センター、泌尿器・耳鼻気食科混合病棟）
大分県済生会日田病院（消化器外科病棟、小児・婦人科病棟）
あさお訪問看護ステーション（訪問看護、ケアマネージャー）
青年海外協力隊（エクアドル国立ポリヴァル大学看護学部）
JICA エルサルバドル看護教育強化プロジェクト
国際看護交流協会（研修コーディネーター、プロジェクトアドバイザー）
日本赤十字九州国際看護大学看護学科 准教授・国際保健看護領域
国際医療福祉大学成田看護学部看護学科 准教授・国際看護領域
福岡国際医療福祉大学 看護学部 准教授（現在に至る） 2021年4月～

国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科保健医療学看護学領域 特別准教授 2021年～
資格：看護師、介護支援専門員、防災士、修士（看護学）、博士（看護学）
報告書

森山ますみ：妊娠・出産・子育てに必要な情報を届けよう。日本看護協会機関紙 看護 2023 75(3)：82-83
学会発表：

森山 ますみ：USABILITY OF OUR EFFORTS TO BETTER DELIVER INFORMATION ON PREGNANCY, CHILDBIRTH
AND CHILD-REARING TO FOREIGN RESIDENTS IN JAPAN 2023年7月4日 ICN Congress 2023 (カナダ・
モントリオール)

社会的活動

小倉一春大学院教育（国際看護）奨学金選考会審査委員

所属職能団体

所属学会：公益社団法人日本看護協会

地域活動への参加・協力

『日本で暮らす外国にルーツを持つ子ども・子育て支援サイト』（ウェブサイト）を運営し、外国人保護
者および支援者へ情報提供、日本全国からのメール等での質問に対応

JOCV看護職ネットワークメンバーとして、国際看護の活動に関する学習会企画・運営
防災士として、福岡市中央区防災訓練に参加

1 1) 仙波洋子 准教授

学歴：熊本大学教育学部 看護教員養成課程 卒業

佐賀大学大学院医学系研究科 看護学専攻 修士課程修了

国際医療福祉大学大学院医療福祉学研究科保健医療学専攻 博士課程修了

職歴：熊本大学医学部附属病院 看護師

博多高校衛生看護専攻科 教諭

折尾愛真高校衛生看護科 非常勤講師

佐賀大学医学部看護学科 助教

福岡山王病院 主任看護師

国際医療福祉大学福岡看護学部 講師

福岡国際医療福祉大学看護学部 准教授 現在に至る

資格：看護師、修士（看護学）、博士（看護学）、養護教諭一級普通免許状、中学校教諭一級普通免許状（保
健）、高等学校教諭二級普通免許状（保健・看護）、福岡糖尿病療養指導士

社会的活動

福岡糖尿病療養指導士認定会（研修試験委員、糖尿病指導グッズ作製委員長）

第24回福岡糖尿病療養指導士認定試験研修会 講師

日本糖尿病教育・看護学会（専任査読委員）

地域活動への参加・協力

地域ボランティア活動：地域清掃活動

所属職能団体：公益社団法人日本看護協会、日本糖尿病協会

1 2) 島村美砂子 准教授

学歴：岡山県立大学 保健福祉学研究科博士前期課程修了

岡山県立大学 保健福祉学研究科博士後期課程満期退学

職歴：川崎医科大学付属病院 看護師

専門学校 専任教員

山陽学園大学看護学部看護学科

兵庫大学健康科学部看護学科

川崎医療短期大学看護科

関西福祉大学看護学部看護学科

資格：看護師 修士（看護学） 博士（看護学）

社会的活動

園田学園大学人間科学部人間看護学科 在宅看護学非常勤講師（2023年7～8月）

所属職能団体：公益社団法人日本看護協会、公益社団法人岡山県看護協会

1 3) 前田和香子 講師

学歴：熊本大学医療技術短期大学部 専攻科助産学特別専攻卒業

熊本県立大学アドミニストレーション研究科看護管理コース博士前期課程修了

産業能率大学情報マネジメント学部現代マネジメント学科卒業

職歴：国保水俣市立総合医療センター

国際医療福祉大学 福岡看護学部

福岡国際医療福祉大学 看護学部

資格：看護師、助産師、受胎調節実施指導員、思春期保健相談士、新生児蘇生法「専門」コース修了

所属学会

公益社団法人日本看護協会、公益社団法人福岡県看護協会、日本助産師会、福岡県助産師会

1 4) 石橋曜子 講師

学歴：人間総合科学大学人間科学部人間科学科卒業

佐賀大学大学院医学系研究科看護学専攻修士課程修了

職歴：福岡大学病院（脳神経外科、ICU）看護師

八代看護学校二年過程 教員

宮原町役場保健衛生課 非常勤看護師

恩賜財団済生会熊本病院（心臓血管センター、CCU）主任看護師

福岡大学医学部看護学科 助手、助教

国際医療福祉大学看護学部看護学科 講師

福岡国際医療福祉大学看護学部看護学科 講師

資格：看護師、学士（人間総合科学） 修士（看護学）

研究活動

著書：

- 1) 北川雄光、江川幸二編集、石橋曜子（分筆）. 系統看護学講座別巻臨床外科看護各論 第10版 第2章心臓および脈管系. 医学書院. 2023. p127-156.

原著：

Two-year evolution of quality of life following radiotherapy and/or chemotherapy in patients with head and neck cancer. Kazuyo Iwanaga; Yoko Ishibashi; Kaori Maki; Ayako Ura; Kumiko Kotake; Kaori Haba; Toshifumi Sakata; Takashi Nakagawa; Hisatomi Arima Asia-Pacific journal of oncology nursing, 2023年11月

学会発表：

- 1) 長聡子, 増満誠, 石橋曜子, 平塚淳子, 中井裕子, 日高艶子, 松浦賢長: エssenシャルワーカーとしての看護師の継続する危機への適応力ー看護師が体験した職場風土や組織体制ー, 第43回日本看護科学学会学術集会, 令和5年12月
- 2) 平塚淳子, 児玉豊彦, 長聡子, 日高艶子, 石橋曜子, 増満誠, 松浦賢長: Factors affecting the crisis faced by ward nurses during the COVID-19 pandemic: A review of studies outside of Japan, 第43回日本看護科学学会学術集会, 令和5年12月

- 3) 猪狩崇, 増満誠, 平塚淳子, 牧内忍, 児玉豊彦, 長聡子, 石橋曜子, 原田直樹, 日高艶子, 松浦賢長 : 74.
Literature Review on the Ongoing Crises Faced by Nurses at Home and Abroad in the Period
Leading up to the Fifth Wave of COVID-19 in Japan、第43回日本看護科学学会学術集会、令和
5年12月

研究費取得:

- 1) 文部科学省基盤研究 (C) 20K10777 2020年度~2023年度 研究代表者 喉頭摘出者の家族の術後生活への移行を促進する外来での生活支援プログラムの開発.
- 2) 文部科学省基盤研究 (B) 19H03937 2019年度~2023年度 研究分担者 全喉頭摘出者の心理的適応促進のためのRCT看護介入効果検証.
- 3) 文部科学省基盤研究 (B) 22H03379 2022年度~2026年度 研究分担者 エッセンシャルワーカーとしての看護師の継続する危機への適応力教育パッケージ開発.
- 4) 文部科学省基盤研究 (C) 22K10769 2022年度~2026年度 研究分担者 発達障害傾向看護学生のコミュニケーション力育成プログラムの試行.

社会的活動

日本シミュレーションラーニング学会: 代議員、規程委員会委員、査読委員
第11回日本ニューロサイエンス学術集会運営委員

その他

九州・沖縄ケアリング・アイランド大学コンソーシアムのマンスリー会議と連携会議に参加、かんたま祭企画委員

第112回看護師国家試験模範解答作成: 放送大学

所属学会

日本看護研究学会会員、日本看護科学学会会員、日本がん看護学会会員、医療教授システム学会、
日本看護シミュレーションラーニング学会、日本ニューロサイエンス看護学会

Sigma Theta Tau International Honor Society of Nursing、

所属職能団体: 公益社団法人福岡県看護協会、公益社団法人日本看護協会

1 5) 甲斐恭子 講師.

学歴: 久留米大学医学部看護学科卒業

日本赤十字看護大学大学院看護学研究科修士課程修了

職歴: 急性期救急病院・小児専門病院・看護系私立大学勤務経験

資格: 看護師・保健師・修士(看護学)

学会発表:

森哲平, 甲斐恭子, 小児看護に携わる看護師のプレパレーション実践に関する文献検討, 第13回国際医療福祉大学学会学術大会, 国際医療福祉大学成田キャンパス, ポスターセッション. 2023年9月3日(日)、P. 56.

社会活動

その他(学術大会, 研修会の役員など)

九州・沖縄ケアリング・アイランド大学コンソーシアムの担当として会議に参加.

所属職能団体: 公益社団法人日本看護協会、公益社団法人福岡県看護協会

1 6) 横尾誠一 講師

学歴: 長崎県立大学経済学部経済学科卒業

長崎市医師会看護専門学校高等課程卒業

長崎県立保健看護学校看護学科卒業

県立長崎シーボルト大学人間健康科学研究科看護学専攻修士課程修了

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科医療科学専攻博士課程修了

職歴: 国立大学法人 長崎大学病院

有限会社きずな グループホームきずな

医療法人常葉会 長与病院 在宅事業部

長崎大学生命医科学域保健学系

資格：学士（経済学）、修士（看護学）、博士（医学）、看護師、介護支援専門員

認知症ケア専門士（一般財団法人認知症ケア学会認定）

原著：

- 1) Seiichi Yokoo, Naoko Yamamoto, Asuka Ikari, Yoshihiro Saito, Mayumi Tuji, Hironobu Koseki : Factors of satisfaction level of older people treated at home regarding medical-health and long-term care services in remote island : ACTA MEDEICA NAGASAKIENSIA, 67(1) , 11-18 , 2023
- 2) 山本直子, 水野昌美, 横尾誠一, 根路銘安仁, 中尾優子：医療的ケア児を訪問している看護師が考える実践に必要なこと：ホスピスケアと在宅ケア , 31(1) , 28-35, 2023

研究報告：

猪狩明日香, 横尾誠一：退院支援の研修に関する文献検討-現状と課題から得られる今後の示唆-, 日本看護学会誌, 18(1) , 94-103 , 2023

その他：第112回看護師国家試験模範解答作成（在宅看護学）：放送大学

学会発表：

横尾誠一：地域サービスの評価に関する文献検討-高齢者版地域サービス満足度尺度作成に向けて- : 第13回国際医療福祉大学学会学術大会第28巻抄録号, 50 , 2023

社会的活動：

地域活動への参加・協力

その他：長崎大学非常勤講師（担当科目：老いと健康）

医療法人友愛会田川療養所 看護部研修会講師

福岡県立筑前高等学校出前講義

学校法人三幸学園飛鳥未来高等学校出前講義

所属職能団体：公益社団法人日本看護協会、公益社団法人福岡県看護協会

所属学会：日本看護科学学会、日本在宅ケア学会、日本認知症ケア学会、日本ホスピス・在宅ケア研究会

1 7) 水尾智佐子 講師

学歴：東京都立大学大学院人間健康科学研究科看護科学域博士後期課程

職歴：救急センター、産婦人科病産院・看護専門学校・看護系私立大学勤務経験

資格：修士（看護学）、修士（教育学）、博士（看護学）、アドバンス助産師、看護師、助産師

新生児蘇生法「専門」コース修了、受胎調節実施指導員、思春期保健相談士

新生児蘇生法一次コースインストラクター、J-CIMELS ベーシックインストラクター

原著：

水尾智佐子. 硬膜外麻酔分娩における助産師の臨床推論の概念分析. 国際医療福祉大学学会誌 2023;28(1), 98-106.

社会的活動：地域活動への参加・協力

育児フェスタ - 子育て相談 - (助産師会) 2023. 11. 5

子育て支援 - 唐津市子育て支援センター - (助産師会) 2023. 12. 2

1 8) 木村一絵 講師

学歴：浜松医科大学医学部看護学科卒業

静岡県立大学大学院看護学研究科修士課程修了

石川県立看護大学大学院看護学研究科博士課程修了

職歴：三島市役所（保健師）

九州大学大学院医学研究院保健学部門看護学分野 助教

資格：博士（看護学）、修士（看護学）、保健師、看護師

原著：

木村一絵. 地域保健における Child-Adult Relationship Enhancement (CARE) プログラム実施の効果ーランダム化比較試験. 石川県立看護大学 博士論文, 2023 年 3 月.

学会発表:

- 1) Hitoe Kimura, Kazuko Ishigaki, Hiromi Yonezawa, Toshiko Kamo, Yuka Fukumaru, Akiko Kasahara : Effects of Child Adult Relationship Enhancement on child behavior and parenting stress in community health - a randomized controlled trial. 26th East Asia Forum of Nursing Scholars (EAFONS2023), 2023
- 2) 木村一絵: 地域保健の子育てプログラム CARE (2 回 4 時間) の 2 歳~小学生の養育者に対する介入効果: 1 群前後比較, 第 43 回日本看護科学学会学術集会, 2023 年 12 月
- 3) 木村一絵: 養育者グループに対する ProSocial 実施による育児に関する変化, 第 12 回日本公衆衛生看護学会学術集会, 2024 年 1 月

受賞:

The 26th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS: 第 26 回東アジア看護学研究者フォーラム), Best Poster Presentation Award 受賞, 2023

研究費取得:

文部科学省基盤研究 (C) 17K04468 2017 年度~2023 年度 研究分担者 エビデンスに基づく家族関係再構築支援プログラムの確立

社会的活動:

第 12 回日本公衆衛生看護学会学術集会, 査読委員, ポスターセッション座長

地域活動への参加・協力:

- 1) 第 7 回 専門家向け I-CARE ワークショップ 講師, オンライン研修, PCIT&CARE 九州地区研究会, 2023 年 10 月
- 2) 第 8 回 九州地区研究会主催 CARE™プログラム【対面】専門家向け認定ワークショップ 講師, 長崎大学, PCIT&CARE 九州地区研究会, 2023 年 11 月
- 3) 第 9 回 九州地区研究会主催 CARE™プログラム【対面】専門家向け認定ワークショップ 講師, 都城市, PCIT&CARE 九州地区研究会, 2024 年 1 月
- 4) 第 10 回 九州地区研究会主催 CARE™プログラム【対面】専門家向け認定ワークショップ 講師, 大村市, PCIT&CARE 九州地区研究会, 2024 年 1 月
- 5) 児童養護施設職員向け CARE ワークショップ 講師, 奄美大島, 2024 年 2 月
- 6) 令和 5 年度 新居浜市発達支援教育研修会「CARE プログラムを学んで子どもと適切な関わり方に生かそう」オンライン研修会 講師, 新居浜市教育委員会事務局発達支援課, 2023 年 12 月
- 7) 中央区子どもと親の絆 CARE プログラム「保護者向け CARE プログラム」講師, 福岡市中央区保健福祉センター子育て支援課, 2023 年 11・12 月, 2024 年 3 月
- 8) 進路ガイダンス「学問・職業理解」看護学とは 看護師・保健師の職業理解 研修講師, 福岡国際学附属若葉高等学校, 2024 年 3 月

所属職能団体: 公益財団法人日本看護協会、公益財団法人福岡県看護協会

1 9) 大川法子 講師

学歴: 久留米大学医学部看護学科卒業

久留米大学医学研究科医科学専攻修士課程修了

職歴: 久留米大学病院

久留米大学臨床試験センター

福岡大学医学部看護学科 (助手、助教)

看護専門学校非常勤講師

福岡国際医療福祉大学 講師

資格：看護師、保健師、学士（看護学）、修士（医科学）

社会活動：

所属職能団体：公益財団法人日本看護協会、公益財団法人福岡県看護協会

所属学会：日本老年看護学会、日本看護福祉学会、日本看護科学学会

20) 吉村千草 助教

学歴：九州大学大学院医学系学府保健学専攻

職歴：沖縄県立南部病院・沖縄県立宮古病院

国際医療福祉大学 福岡看護学部看護学科助教（基礎看護学領域）

福岡国際医療福祉大学 2021年4月

資格：看護師、保健師、修士（看護学）

論文

宇治田さおり，菊原美緒，高木良重，吉村千草．看図アプローチを取り入れた予習の検討—看護技術（静脈血採血）の授業実践結果より—．全国看図アプローチ研究会研究誌．2023；19：3-10．

学会発表：

- 1) 高木良重、川口賀津子、宇治田さおり、吉村千草：マットレスやクッションの種類別の体圧分布—直接サポート法と間接サポート法を比較して—．第43回日本看護科学学会．2023年12月9日
- 2) 川口賀津子、宇治田さおり、吉村千草、高木良重：第一報 プラチナナースの就労継続の目的—テキストマイニングによる分析—．第43回日本看護科学学会．2023年12月9日
- 3) 宇治田さおり、川口賀津子、高木良重、吉村千草：第二報 プラチナナースの就労継続のメリットとデメリット—テキストマイニングによる分析—．第43回日本看護科学学会．2023年12月9日
- 5) 高木良重、川口賀津子、宇治田さおり、吉村千草：間接サポート法によるポジショニングにおけるクッションの種類別の体圧分布—実施するうえでの条件についての検討—．第13回国際医療福祉大学学術大会．2023年9月3日
- 6) 吉村千草、宇治田さおり：看護師のキャリア・トランジションの特徴—インタビューガイド作成のための文献検討—．第13回国際医療福祉大学学術大会．2023年9月3日
- 7) 宇治田さおり、菊原美緒、高木良重、吉村千草：看護基礎教育におけるアクティブラーニング型授業のアウトカムに関する国内文献レビュー．第49回日本看護研究学会．2023年8月19日

研究費取得：

文部科学省基盤研究C 23K09922 2023年度～2026年度 研究代表者 病院と大学の連携によるマイクローニング型看護職者復職教育プログラムの開発と検証

社会的活動：

その他：九州・沖縄ケアリング・アイランド大学コンソーシアムの会議に参加し意見交換とかんたま祭企画委員を担当した。

所属職能団体：公益社団法人日本看護協会、公益社団法人福岡県看護協会

21) 池添貴子 助教

学歴：佐賀大学医学部看護学科卒業

佐賀大学医学系研究科修士課程看護学専攻

職歴：独立行政法人国立病院機構奈良病院（現市立奈良病院）

滋賀県大津市立大平保育園

佐賀大学医学部 地域医療科学教育研究センター 教務補佐員(2014.9～)

国際医療福祉大学 福岡看護学部

福岡国際医療福祉大学 看護学部看護学科

資格：専門士（看護学）、学士（看護学）、修士（看護学）

看護師・保健師・第一種衛生管理者・養護教諭Ⅱ種

学会発表：

池添貴子：病棟看護師が認知症高齢者に抱く困難感情に関する文献検討. 第28回日本看護研究学会東海
地方会学術集会(web開催)2024.3.9

社会的活動：

地域活動への参加・協力 地域ボランティア活動：百道浜海岸ラブアースクリーンアップ

所属職能団体：公益社団法人日本看護協会、公益社団法人福岡県看護協会

所属学会：日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本看護老年学会、日本看護福祉学会、日本看護家
族学会

2 2) 宇治田さおり 助教

学歴：佐賀大学医学系研究科修士課程看護学専攻修了

職歴：潤和会記念病院

筑紫看護高等専修学校

国際医療福祉大学 福岡看護学部

福岡国際医療福祉大学

資格：修士(看護学)

研究費取得：

- 1) 文部科学省基盤研究(C) 21K02349 2021年度～2025年度 研究分担者 XR(仮想空間技術)を活用した虐待予防教育プログラムの開発
- 2) 文部科学省基盤研究(C) 23K09922 2023年度～2026年度 研究分担者 病院と大学の連携によるマイクロラーニング型看護職者復職教育プログラムの開発と検証

著書

- 1) 宇治田さおり, 長家智子(担当:分担執筆). プチナース Vol132. No2 別冊 疾患別看護過程「前立腺がん」. 照林社. 2023.
- 2) 宇治田さおり, 長家智子(担当:分担執筆). プチナース Vol132. No4 疾患別観察ポイント BOOKPart1 「前立腺がん」. 照林社. 2023. p48-51.

原著

- 1) 宇治田さおり, 菊原美緒, 高木良重, 吉村千草. 看図アプローチを取り入れた予習の検討ー看護技術(静脈血採血)の授業実践結果よりー. 全国看図アプローチ研究会研究誌. 2023; 19: 3-10.
- 2) 長峰久美子, 宇治田さおり. 看護教員の専門職としての成長 - 看護専門学校での同僚性尺度を用いた分析 -. インターナショナル Nursing Care Research. 2023; 22-1.

学会発表：

- 1) 高木良重, 川口賀津子, 宇治田さおり, 吉村千草: マットレスやクッションの種類別の体圧分布ー直接サポート法と間接サポート法を比較してー. 第43回日本看護科学学会. 2023年12月9日
- 2) 川口賀津子, 宇治田さおり, 吉村千草, 高木良重: 第一報 プラチナナースの就労継続の目的ーテキストマイニングによる分析ー. 第43回日本看護科学学会. 2023年12月9日
- 3) 宇治田さおり, 川口賀津子, 高木良重, 吉村千草: 第二報 プラチナナースの就労継続のメリットとデメリットーテキストマイニングによる分析ー. 第43回日本看護科学学会. 2023年12月9日
- 4) 宇治田さおり, 川口賀津子: 看護技術(静脈血採血)の授業実践に看図アプローチ式予習促進教材を導入してー失敗事例からの検討ー. 日本協同教育学会 第19回大会. 2023年11月6日
- 5) 高木良重, 川口賀津子, 宇治田さおり, 吉村千草: 間接サポート法によるポジショニングにおけるクッションの種類別の体圧分布ー実施するうえでの条件についての検討ー. 第13回国際医療福祉大学学術大会. 2023年9月3日
- 6) 吉村千草, 宇治田さおり: 看護師のキャリア・トランジションの特徴ーインタビューガイド作

成のための文献検討一. 第13回国際医療福祉大学学術大会. 2023年9月3日

- 7) 宇治田さおり、菊原美緒、高木良重、吉村千草：看護基礎教育におけるアクティブラーニング型授業のアウトカムに関する国内文献レビュー. 第49回日本看護研究学会. 2023年8月19日

社会的活動：

所属職能団体：公益社団法人日本看護協会、公益社団法人福岡県看護協会

その他：第112回看護師国家試験模範解答作成：放送大学

2 3) 伊東香織 助教

学歴：九州看護福祉大学看護福祉学部看護学科卒業

九州看護福祉大学大学院看護福祉学研究科看護学専攻修了

職歴：財団法人聖路加国際病院

福岡赤十字病院

学校法人精華学園精華女子高等学校 看護科・看護専攻科（常勤講師）

福岡国際医療福祉大学

福岡国際医療福祉大学

資格：修士（看護学）、看護師、高等学校教諭専修免許状（看護）、養護教諭専修免許状

論文：

- 1) 伊東香織, 柴田恵子. 看護系大学生アクティブラーニングの学習活動～テキストマイニングによる分析～. *インターナショナルNursing Care Research*. 22(2). 2023. pp97-106

社会的活動：

その他：第112回看護師国家試験模範解答作成：放送大学

所属職能団体：公益社団法人日本看護協会、公益社団法人福岡県看護協会

所属学会：日本看護研究学会、日本看護学教育学会

2 4) 横山光稀 助教

学歴：長崎大学医学部保健学科看護学専攻卒業

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科保健学専攻修士課程修了

職歴：長崎大学医学部整形外科学教室骨微細構造解析プロジェクトチーム リサーチアシスタント

長崎大学病院

資格：看護師、保健師、修士（看護学）

研究費取得：

- 1) 文部科学省基盤研究 (C) 20K10777 2020～2023 年度 研究分担者 喉頭摘出者の家族の術後生活への移行を促進する外来での生活支援プログラムの開発

社会的活動：第112回看護師国家試験模範解答作成：放送大学

所属職能団体：公益社団法人日本看護協会、公益社団法人福岡県看護協会

所属学会：日本看護研究学会

2 5) 溝口晶子 助教

学歴：大分大学大学院医学系研究科修士課程看護学専攻修了

大分大学大学院医学系研究科博士課程医学専攻満期退学

職歴：労働福祉事業団岡山労災病院 看護師

学校法人吉用学園柳ヶ浦高等学校看護学科専門課程、教務主任

第一薬科大学看護学部看護学科助教

福岡国際医療福祉大学看護学部看護学科助教

資格：看護師、排尿機能検査士、修士（看護学）、論文博士（医学）

原著

Akiko Mizoguchi, Kaoru Nishimura, Hiromitsu Mimata, Masato Fukiage, Masahiro Sawada, Ichiro Shinga, Toshitaka Shin, The effect of daytime knee-length graduated compression stockings on nocturia: A randomized, double-blind, placebo-controlled trial, *Continence Reports* 7 (2023) 100035, <https://doi.org/10.1016/j.contre.2023.100035>

総説

- 1) 溝口晶子, コンチネンス外来の展望～骨盤底筋トレーニングを通して～, *コンチネンス Now*, ミズ総合企画, Vol30. 4, (2023), pp. 4-5

学会発表

- 1) Akiko Mizoguchi, INDIVIDUALIZED COMPREHENSIVE CONTINENCE CARE IMPROVES COGNITIVE FUNCTION ONE YEAR LATER, 29TH International Council of Nurses Congress 2023, Montreal, Canada, 1-5 July (2023)
- 2) 溝口 晶子, 高齢女性の夜間頻尿および夜間尿失禁への介入が認知機能に及ぼす影響: 文献レビュー, 第49回日本看護研究学術集会 (Web 開催) 2023. 8. 19 - 20
- 3) 溝口 晶子, 夜間頻尿予防・改善に対する弾性ストッキング着用効果: スコーピングレビュー, 第49回日本看護研究学術集会 (Web 開催) 2023. 8. 19 - 20

研究費取得

- 1) 文部科学省研究活動スタート支援 20K23149 2020年度～2024年度 研究代表者 下部尿路症状のある高齢者への個別の包括的排尿ケアは認知機能を改善できるか?
- 2) 公益財団法人テルモ生命科学振興財団 研究助成 ハイソックス着圧値の違いによる夜間頻尿症状軽減効果の検証 (代表)

社会的活動: 日本老年泌尿器科学会評議員、NPO 法人コンチネンス協会教育事業部

地域活動への参加・協力

第71回福岡県高齢者排泄ケア改善委員会講演「夜間頻尿症状における弾性ストッキング着用の安全性と使用感に関して」

第71回福岡県高齢者排泄ケア改善委員会実践「弾性ストッキング着用におけるアドヒアランス向上のための患者指導」トレーナー

大分県排泄リハビリテーション・ケア研究会世話人

所属学会: International Continence Society (ICS)、日本老年泌尿器科学会、

日本排尿機能学会、日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本看護教育学学会

NPO 法人コンチネンス協会、大分県排泄リハビリテーション・ケア研究会、

26) 田中陽子 助手

学歴: 西南学院大学文学部英文学科卒業

国際医療福祉大学大学院医療福祉学研究科保健医療学専攻修士課程修了

職歴: 福岡大学病院 (精神神経科、外来放射線、救命救急センター) 看護師

福岡国際医療福祉大学看護学部看護学科 助手

資格: 学士 (英文学)、看護師、修士 (看護学)

学会発表:

- 1) 田中陽子: 救命救急センターに勤務する看護師の自殺未遂患者へ自殺念慮を確認するときの抵抗感の要因. 第19回日本救急医学会九州地方会. 平成27年5月
- 2) 田中陽子: 看護師が認識する外国人患者への救急看護実践. 第25回日本救急看護学会学術集会. 令和5年11月

社会的活動:

その他: 第112回看護師国家試験模範解答作成: 放送大学

所属学会：日本看護科学学会、日本看護教育学会、日本救急看護学会、日本国際医療保健学会
所属職能団体：公益社団法人福岡県看護協会、公益社団法人日本看護協会

27) 上岡奈美 助手

学歴：佐賀大学大学院先進健康科学研究科総合看護科学コース修士課程修了

職歴：福岡大学病院（精神神経科、心臓血管外科）看護師

福岡国際医療福祉大学看護学部看護学科 助手

資格：看護師、修士（看護学）

学会発表：

上岡奈美：モバイルアプリ「Feeling Good App」日本語版における看護師のメンタルヘルスへの効果検証
証. 第43回日本看護科学学会. 令和5年12月9日

研究費取得：

文部科学省研究活動スタート支援 23K19879 2023～2024年度 研究代表者 モバイルアプリと対面講習におけるメンタルヘルスセルフケアの効果検証

所属職能団体：公益社団法人日本看護協会、公益社団法人福岡県看護協会

所属学会：日本看護科学学会、日本精神看護保健学会

9. 大学・関連施設

(2024年3月1日現在)

9.1 学校法人 高木学園

- 1) 福岡国際医療福祉大学 医療学部（理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科、視能訓練学科）、看護学部、言語聴覚専攻科
(〒814-0001 福岡市早良区百道浜 3-6-40 TEL:092-832-1200)
- 2) 専門学校柳川リハビリテーション学院 理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科
(〒832-0058 福岡県柳川市上宮永町 116 TEL: 0944-72-1001)
- 3) 大川看護福祉専門学校 看護学科、介護福祉学科
(〒831-0016 福岡県大川市大字酒見 391-5 TEL: 0944-88-3433)

9.2 学校法人 国際医療福祉大学

- 1) 国際医療福祉大学 保健医療学部（看護学科、理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科、視機能療法学科、放射線・情報科学科）、医療福祉学部（医療福祉・マネジメント学科）、薬学部（薬学科）
(〒324-8501 栃木県大田原市北金丸 2600-1 TEL : 0287-24-3018)
- 2) 国際医療福祉大学 医学部（医学科）、成田看護学部（看護学科）、成田保健医療学部（理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科、医学検査学科、放射線・情報科学科）、成田薬学部、臨床工学特別専攻科
(〒286-8686 成田市公津の杜 4-3 TEL : 0476-20-7701)
- 3) 国際医療福祉大学 赤坂心理・医療福祉マネジメント学部（心理学科、医療マネジメント学科）
(〒107-8402 東京都港区赤坂 4-1-26 TEL : 03-5574-3900)
- 4) 国際医療福祉大学 小田原保健医療学部（看護学科、理学療法学科、作業療法学科）
(〒250-8588 小田原市城山 1-2-25 TEL 0465-21-0361)
- 5) 国際医療福祉大学 福岡保健医療学部（看護学科、理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科、医学検査学科）福岡薬学部（薬学科）
(〒831-8501 大川市榎津 137-1 TEL : 0944-89-2000)
- 6) 国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科、薬学研究科、薬科学研究科、医学研究科
(〒107-8402 東京都港区赤坂 4-1-26 TEL : 03-5574-3900)
- 7) 国際医療福祉大学塩谷看護専門学校 看護学科
(〒329-2145 栃木県矢板市富田 77-6 TEL : 0287-44-2322)
- 8) 国際医療福祉大学病院（〒329-2763 栃木県那須塩原市井口 537-3 TEL : 0287-37-2221）
西那須野町井口（大学から車で約15分）に、平成10年7月に開設、平成14年2月には新しい棟を増やし、産婦人科を含んだ総合病院として再スタートした。病床は353床である。平成25年3月に栃木県では初めて手術支援ロボット「ダ・ヴィンチSi」導入した。各診療科目とも最新の診療と専門スタッフが揃っている。
- 9) 介護老人保健施設 マロニエ苑（〒329-2763 那須塩原市井口 533-4 TEL : 0287-36-6622）
国際医療福祉大学病院の隣に平成5年に開所した200床の老人保健施設である。苑内には温泉をひいた大浴場があり、快適な環境と、最新の設備とともに、PT・OT・STのスタッフによるきめ細やかなリハビリテーションを実施している。

10) にしなすの総合在宅ケアセンター（〒329-2763 那須塩原市井口 537-3 TEL：0287-39-3303）

国際医療福祉大学病院・マロニエ苑と隣接し、開所した総合在宅ケアセンター。通所リハビリテーション・通所介護・にしなすのマロニエ訪問看護ステーション・ホームヘルパーステーションがある。マロニエ苑同様、天然温泉を利用した浴室・リフト浴槽等もあり、楽しみながら受けられる基本的な介護プログラムや機能的リハビリテーションを実施している。

11) 国際医療福祉大学クリニック（〒324-0011 大田原市北金丸 2600-6 TEL：0287-24-1001）

大学敷地内にある病院で、健康管理センターと言語聴覚センターがあり、健康管理センターは学生の健康診断や健康相談、診療などを行っている。言語聴覚センターは、数多くの検査室・治療室を持ち、精密な聴覚機能検査機器や言語治療に使うマルチメディアシステムなどで、言語および聴覚に障害がある子供や成人の治療にあたっている。

12) 国際医療福祉大学塩谷病院（〒329-2145 栃木県矢板市富田 77 TEL：0287-44-1155）

平成 21 年 4 月に厚生連塩谷総合病院から継承して、塩谷病院としてオープンした。病床は 240 床である。平成 23 年より回復期病棟を開設し 365 日体制のリハビリテーションを実施している。

13) しおや総合在宅ケアセンター（〒329-2145 栃木県矢板市富田 77 TEL：0287-44-1155）

国際医療福祉大学塩谷病院に隣接し、栃木県北（塩谷郡市地域）の通所サービス、訪問サービスの拠点として平成 26 年 4 月に開設された総合在宅ケアセンターである。

14) 国際医療福祉大学熱海病院（〒413-0012 熱海市東海岸町 13-1 TEL：0557-81-9171）

平成 14 年 7 月に国立病院から承継し、新病院が平成 17 年 7 月に開設した。病床は 269 床である。リハビリテーション室からは海が望め、すばらしいオーシャンビューや熱海ならではの温泉がある。平成 24 年 8 月に回復期リハビリテーションセンターを開設した。

15) 国際医療福祉大学三田病院（〒108-8329 東京都港区三田 1-4-3 TEL03-3451-8121）

平成 17 年 3 月に東京専売病院から継承して三田病院としてオープンした。乳腺センター、頭頸部、腫瘍センター、呼吸器センター、予防医学センターを開設し、新たな外来を開設した。病床数は 291 床である。

16) 国際医療福祉大学市川病院（〒272-0827 千葉県市川市国府台 6-1-14 TEL：47-375-1111）

昭和 41 年、結核に対する化学療法研究所の附属病院として開設。今後は結核のみならず、肺ガンなどの呼吸器疾患全般を診療体制の柱とするとともにがん全般に渡る化学療法の研究にも取り組む。平成 19 年 2 月に新病院が完成した。平成 29 年 9 月化学療法研究所附属病院から市川病院に名称が変更になった。

9.3 社会福祉法人 邦友会

1) 国際医療福祉大学リハビリテーションセンター（〒324-0011 大田原市北金丸 2600-7 TEL：0287-20-5200）

国際医療福祉大学リハビリテーションセンターは大学の敷地内にあり、平成 12 年 4 月に開設。重度心身障害児施設であるなす療育園と身体障害者療護施設であるサポートハウス那須、那須デイサービスセンターからなる総合施設である。なす療育園と那須療護園はそれぞれ 50 床の施設である。なす療育園では外来リハビリテーション診療も行っており、現在栃木県北部地域の小児リハビリテーションの中核となっている。

2) おおたわら総合在宅ケアセンター（〒324-0011 大田原市北金丸 2600-6 TEL：0287-20-2501）

おおたわら総合在宅ケアセンターは大学の敷地内に、平成 15 年 4 月に開所した総合在宅ケアセンターである。通所リハビリテーション、通所介護、グループホームがある。

3) おおたわら風花苑（〒324-0011 大田原市北金丸 2600-6 TEL：0287-20-2230）

入所定員 40 名、短期入所定員 30 名の全室個室・ユニットケア型の特別養護老人ホームである。各ユニットは 7～10 名の構成で、利用者同士のふれあいの場もてるよう、団欒や簡単な調理、食事なども楽しむことができる居住環境を重視した空間を提供している。

4) 特別養護老人ホーム栢の実荘（〒329-2763 那須塩原市井口 533-11 TEL：0287-37-1160）

国際医療福祉大学病院・マロニエ苑の隣に、平成6年に開所した77床の特別養護老人ホームである。ホームヘルプサービス、デイサービス、ショートステイなど様々なサービスを提供している。平成11年には在宅介護センターが開設され、介護保険に関連したサービスを提供できる。

9.4 医療法人財団 順和会

1) 山王病院（〒107-0052 東京都港区赤坂 8-5-35 TEL：03-3402-3301）

東京の赤坂に立つ昭和12年創立の歴史ある病院である。高度化・専門化する医療に対応し得るスタッフをそろえ、大学病院とも連携を取りながら最新の診療を行っている。都会型の病院であり、平成12年11月に新病院が完成した。特に、リプロダクションセンター（不妊治療）が有名である。

9.5 医療法人社団 高邦会

1) 高木病院（〒831-0016 大川市酒見 141-211 TEL：0944-87-0001）

506床の急性期病院。ICU、HCUを有する。医師やコメディカルと連携しチーム医療を行っている。脳血管疾患、神経難病、整形外科疾患、呼吸器疾患、心疾患、悪性新生物、小児など多岐にわたる疾病に対して理学療法を行っている。

2) 柳川リハビリテーション病院（〒832-0058 柳川市上宮永町 113-2 TEL：0944-72-0001）

平成2年に開設した、240床のリハビリテーション専門病院である。回復期病棟は120床と近隣では最多の病床数を誇る。西日本屈指の面積（1,230㎡）を持つ広い訓練室を持ち、約90名のリハビリテーションスタッフが在籍している。医師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護師、ソーシャルワーカーなどのチーム連携により、365日質の高いリハビリテーションを提供している。病院内には通所リハビリテーションを併設し、生活期のリハビリテーションを支援している。

3) みずま高邦会病院（〒830-0416 三潞郡大木町大字八町牟田 1621-1 TEL：0944-87-8880）

平成12年に開設された120床の療養病床を持つ病院であり、病院内に通所リハビリテーションセンター及び在宅介護支援事業所を併設している。治療・ケアのための設備、休息のための安らぎのある病室、語らいながら食事ができる空間などを機能的に配置し、病気の治療と生活リハビリテーションを実践できる環境を整え、自宅で療養されている高齢者及びそのご家族に対する在宅支援の機能も備えている。

4) 福岡山王病院（〒814-0001 福岡市早良区百道浜 3-6-45 TEL：092-832-3061）

福岡国際医療福祉大学、総合ケアセンターももちに隣接し、平成21年5月に開院した199床完全個室の病院である。通所リハビリテーションも併設している。

5) 福岡中央病院（〒810-0022 福岡市中央区薬院 2-6-11 TEL：092-741-0300）

1926年に熊本通信病院福岡支所として、福岡市で診療を開始、1951年に福岡通信病院として現在地に移転した。2019年4月、医療法人社団 高邦会 福岡中央病院へと変わった。福岡市の中心に位置し、他の医療機関との連携も密であったこれまでに加えて、あらゆる医療福祉のニーズに最高レベルで応える複合体を目指す国際医療福祉大学・高邦会グループの充実した医療・福祉施設と連携している。

6) 介護老人保健施設 水郷苑（〒832-0058 柳川市上宮永町 269 TEL：0944-74-4001）

平成5年に開設した、入所100床の老人保健施設である。苑内には通所リハビリテーションを併設している。柳川の温かな風土を背景に、天然温泉を利用した浴室や、リフト設備等安全に配慮した設備の充実により、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の他、他職種連携のもと、生活リハビリを基調にきめ細やかなADLアプローチや活動を支援している。

7) 有明クリニック（〒831-0016 大川市酒見 215-1 おおかわ交流プラザ 3階 TEL：0944-85-8081）

平成27年5月、「在宅療養支援診療所有明クリニックと通所リハビリテーション」を開設。有明クリニックでは、通院が困難な方に対して訪問診療を行う。併設する通所リハビリテーションでは、トレーニン

グマシンを使ったパワーリハビリテーション、ご利用者の日常生活機能の改善をより計画的に支援していく生活行為向上リハビリテーション、認知症予防や記憶力改善を図る脳活性化リハビリテーションを柱に、専門職による充実した個別・集団リハビリテーションを行う。また、多様な入浴設備を導入し、自宅での入浴が困難な方でも安心して入浴できるサービスを提供する。

8) ケアサポートハウス大川（〒831-0022 大川市榎津 160-1 TEL：0944-87-0018）

平成 12 年、高木病院の南側に開設された総合在宅ケアセンターで以下の施設を配置している。グループホーム・高齢者向け賃貸アパート・通所介護・居宅介護支援事業所・訪問看護ステーション・訪問介護ステーションがある。「利用者が住み慣れた地域社会において、その人らしい生活ができるよう、個性に応じた適切な援助を行う。」を運営理念に、関連他事業所とともに生活期のリハビリテーションを支援している。

9) 有明総合ケアセンター（〒832-0058 柳川市上宮永町 277-2 TEL：0944-75-1670）

水郷苑の南側に平成 12 年に開設した総合在宅ケアセンター。居宅介護支援事業所・訪問看護ステーション・通所介護がある。「利用者が住み慣れた地域社会において、その人らしい生活ができるよう、個性に応じた適切な援助を行う。」を運営理念に、関連他事業所とともに生活期のリハビリテーションを支援している。

10) 総合ケアセンターももち（〒814-0001 福岡市早良区百道 3-6-40 TEL：092-831-1901）

福岡山王病院、福岡国際医療福祉学院と同一敷地内に平成 20 年に開設した、通所リハビリテーション、訪問看護ステーション、居宅介護支援の、在宅介護を支援する 3 事業所を併せ持つ複合福祉施設である。グループ内だけでなく、福岡市内の病院、施設などと連携し、利用者が住み慣れた地域で安心して在宅生活を継続できるように、利用者の個性にあったサービスを提供している。

9.6 社会福祉法人高邦福祉会

1) 社会福祉法人高邦福祉会 柳川療育センター

（〒832-0813 福岡県柳川市三橋町棚町 218-1 TEL：0944-73-0039）

平成 28 年 5 月、入所を 110 床、短期入所を 10 床へ増床し、移転オープンした重症心身障害児（者）施設である。移転後の敷地内には、児童発達支援センター「あいりす」と国際医療福祉大学神経発達症研究センターが併設され、総合的な医療・福祉・教育施設へと規模が拡大した。現在、リハビリテーション室には理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が 34 名勤務し、入所・外来利用者に対して、質の高い療育を提供している。

2) 社会福祉法人高邦福祉会 デイサービスセンターはいふ

（〒832-0058 福岡県柳川市上宮永町 284 番地 2 らいふサポートセンター柳川 1 階 TEL:0944-75-1130）

平成 28 年 9 月、機能訓練特化型デイサービスとして開設。午前 3 時間、午後 2 時間とそれぞれ短時間利用となっている。利用者の自立に向け、運動機能の訓練（マシン等を利用した有酸素運動）を中心としたサービスを提供。「活動」や「参加」を目標に、楽しく体を動かすことで運動の常習化を図り、健康・自立を促している。

ザ・フクオカ 情報誌：2023 年度自己点検・評価資料集

2024 年 4 月 30 日 発行 5 号

福岡国際医療福祉大学
自己点検・評価委員会
福岡県福岡市早良区百道浜 3-6-40
TEL：092-832-1200 FAX：092-832-1167
